教室年報 2023

Iwate Medical University

岩手医科大学医学部外科学講座

Iwate Medical University, School of Medicine
Department of Surgery:Annual Report 2023

巖刀会（外科学講座同門会）

八幡平ドラゴンアイ（八幡平市）

http://surgery-iwate-med.jp　外科学講座ホームページ紹介

外科学講座の歴史

本学は昭和３年、岩手医科大学の前身である岩手医学専門学校が設立され、昭和26年に学校法人岩手医科大学が発足するに至った。

外科学講座の歴史は古く昭和４年、副島鎮雄の教授就任まで遡る。その後、昭和５年に三宅徳三郎、昭和13年には永松之幹、そして昭和19年には瀬田孝一が教授に昇任した。昭和31年に外科学第一講座と名称を変え、瀬田は在任35年間にわたり当教室の基礎を築き、大きな発展をもたらした。

昭和54年の瀬田の退職後、同年東北大学第２外科助教授であった森昌造が教授に赴任。昭和61年に東北大学第２外科教授へ転任となるまで、疾患別のグループ制度を導入することで各分野の専門性を確立し、研究活動にも大きな躍進がみられた。

昭和62年６月に斎藤和好が外科・内科において初の母校出身の教授に昇任し、良き伝統と誠の医師としての真摯な態度を継承、内視鏡手術など外科学の更なる進歩に貢献した。

平成17年に斎藤の退職後、同年９月慶應義塾大学外科学専任講師であった若林剛が教授に就任、患者様を中心とした最良の治療が選択・実践可能な「チーム医療」を基盤として北東北での肝移植を実現した。

平成27年８月に同科准教授の佐々木章が教授に就任。肥満外科手術の指導的施設として国内外に情報を発信するとともに、各分野の内視鏡外科手術を中心とした患者様に低侵襲で良質な治療を提供できるよう研究、教育そして診療に取り組んでおります。

こちらのQRコードを読み取って
ホームページにアクセスできます

外科学講座の広報活動

当科では我々が行っている医療を一般の方、あるいは医学生や研修医の先生をはじめとするさまざまな医療関係者の方にご理解をいただくために、ホームページの充実を図っております。最新医療をトピックスとして提供するとともに、スタッフのプロフィールも公開しております。「主治医の顔と人となり」を少しでもご理解していただくことで、良好な信頼関係を築く一助になることを期待しております。また、私どもが主催する市民公開講座や研究会等、各種イベントのご案内も随時更新しております。このホームページが、理想的な医療体制の実現に向けて、私どもと皆様をつなぐ架け橋となるよう願っております。

教室年報（2023年）

岩手医科大学医学部外科学講座同門会

CONTENTS

巻頭言

教室年報2023 発刊にあたって …… 外科学講座教授　佐々木　章

特別寄稿

附属病院におけるacademic physicianの育成
…… 岩手医科大学学長／岩手医科大学附属病院長　小笠原邦昭

教室の今年1年

教室の一年 …… 外科学講座教授　新田　浩幸
着任のご挨拶 …… 外科学講座講師　藤野　順子
外科学の道を歩むときに感ずること …… 外科学講座准教授　梅邑　晃
赴任後の3年をふり返って …… 外科学講座准教授　鈴木　信

014 **外科学講座スタッフ紹介・日常風景**

017 **チーム紹介**

上部消化管チーム／下部消化管チーム／肝胆膵・内分泌代謝外科チーム／
乳腺チーム／小児外科チーム／
高度救命救急センター《救急・災害・総合医学講座　救急医学分野》

028 **2023年診療状況**

入院患者分類／手術件数／関連病院手術件数／
関連病院発表業績件数／外科専門医制度修練指定施設・関連施設／
日本消化器外科学会専門医制度指定修練施設（認定施設）

030 **新教室員紹介**

直島　君成／畠山　瑞生／嶋田　拓明／徐　光仁

032 **表彰の栄誉**

瑞宝小綬章をいただきました …… 八島　良幸
県知事表彰を受賞して …… 佐藤　雅夫
岩手県医師会表彰を受けて …… 加藤　典博
第16回地域医療貢献奨励賞を受賞して …… 伊藤　達朗
保健医療功労者に対する知事表彰を受賞して …… 坂本　隆
令和５年度へき地医療貢献者表彰を受賞して …… 葛西　敏史
第41回日本肝移植学会学術集会 優秀演題賞を受賞して …… 梅邑　晃
The 36th Congress of the Pan-Pacific Surgical Association Japan Chapter
Wada Award Gold Prizeを受賞して …… 菊地　晃司
令和５年度圭陵会 学術賞を受賞して …… 小泉　優香
巌刀会 学術賞を受賞して …… 高橋　眞人
第29回侵襲とサイトカイン研究会 奨励賞を受賞して …… 熊谷　秀基
第34回内視鏡外科フォーラム in 盛岡 初期研修医・専攻医優秀演題を受賞して… 熊谷　秀基
第36回日本内視鏡外科学会総会 優秀演題を受賞して …… 口田　脩太
第41回日本肥満症治療学会学術集会一般演題優秀演題賞を受賞して… 棚橋　洋太

041 **学位取得者（博士）**

学位論文報告 …… 高橋　眞人／小泉　優香／菊地　晃司／佐々木智子
田金　恵／伊藤　浩平／有吉　佑

046 **学会報告**

第34回内視鏡外科フォーラムin盛岡 …… 佐々木　章
第29回侵襲とサイトカイン研究会 …… 佐々木　章
会長講演　侵襲軽減を目指した外科治療が教えてくれたもの …… 佐々木　章
日本消化器病学会東北支部第216回例会 …… 新田　浩幸
海外学会報告
The 36th Congress of the Pan-Pacific Surgical Association Japan Chapter
…… 棚橋　洋太／菊地　晃司／嶋田　拓明

052 **新聞記事紹介**

060 **2023年アルバム紹介**

066 **関連病院だより**

岩手県立二戸病院・岩手県立軽米病院・岩手県立久慈病院・盛岡赤十字病院・
盛岡市立病院・岩手県立釜石病院・岩手県立宮古病院・岩手県立千厩病院・
岩手県立江刺病院・函館五稜郭病院・能代厚生医療センター・八戸赤十字病院・
かづの厚生病院

076 **外科紹介医療機関**

081 **研究業績**

093 **スタッフ名簿**

095 **編集後記**

096 **お知らせ**

097 **協賛広告**

巻 頭 言

A

岩手医科大学医学部外科学講座
教授

佐々木　章

Akira Sasaki, M.D., Ph.D.
Professor and Chairman

教室年報2023 発刊にあたって

皆様におかれましては、平素より一方ならぬご支援、ご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。巻頭言では、2023年を振り返り、外科学講座と本学の現状と展望をご報告します。

診療おいては、安全性を担保しつつ患者に真の利点を還元できる手技・技術は何か、将来に向けて今から何に取り組むべきかを、常に熟考しています。現在では、医療用ロボットが手術場に大変革をもたらし、情報技術や遠隔手術も視野に入れて、ロボット支援下手術への転換期を迎えようとしています。本手術は、内視鏡外科手術に熟練したエキスパートにはより精密な手技が可能となり、若手医師に対する手術教育の向上などに利点があると思います。しかしロボットの本体価格や運用・保守費用の課題から東北地方では導入施設が少なく、岩手県では３施設（４台）のみ、本学附属病院でも５診療科で２台体制の運用です。教室のロボット支援下手術の割合は、食道切除72%、幽門側胃切除45%、噴門側胃切除100%、直腸切除29%、肝部分切除11%、肝区域切除10%、膵体尾部切除８%ですが、若手医師への教育を行うほどの余裕がないのが現状です。本手術や新医療技術の普及には、更にエビデンスを発信する必要があります。基本的には、新医療技術は先進医療申請、先進医療の技術的妥当性の評価、診療報酬改定という流れとなりますが、わが国の成績を論文で示すことが特に重要です。私の専門領域である減量・代謝改善手術では、腹腔鏡下スリーブ状胃切除術のみが保険収載され、手術適応も海外と大きく異なり限定的でした。適応基準の緩和と適応疾患の拡大を目指し、日本人の肥満２型

kira SASAKI

M.D., Ph.D. Professor and Chairman

糖尿病患者に対する減量・代謝改善手術の適応基準に関するコンセンサスステートメント（日本肥満症治療学会･日本糖尿病学会･日本肥満学会）を、合同委員会委員長として取りまとめ、2021年に発表しました。この内容が評価されたと思いますが、2024年度の診療報酬改定では、35>BMI≧32の肥満症患者に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術の適応は、糖尿病、高血圧症、脂質異常症、閉塞性睡眠時無呼吸症候群、またはNASHを含めたNAFLDのうち２つ以上を合併しているものとされ、適応基準が緩和されました。NASHが適応に入った理由は､NASHに対する減量･代謝改善手術の効果に関する教室の論文も影響したと考えており、論文での発信が重要です。また先進医療で行われていたスリーブバイパス術も保険収載されました。

診療能力向上と研究推進は表裏一体であり、継続してリサーチプロポーザルを行っています。何のために研究を行い、なぜ競争的資金に応募するのかを、考える必要があります。科研費とは、豊かな社会発展の基盤となる独創的・先駆的な研究を発展させることを目的とする競争的資金です。教室員の科研費申請書のブラッシュアップを行っていますが、研究立案や臨床研究との位置づけを理解できていない場合もあり、今後の課題と思っています。継続研究を含めた科研費採択数は2022年６件から2023年９件で、採択数を更に増加させるためには、個々が研究の楽しさを知ることが鍵と思います。

2024年以降の学会活動の予定として、第186回東北外科集談会（2024年10月・盛岡、新田浩幸）、第23回日本ヘルニア学会学術集会（2025年５月・盛岡、川村英伸）、第22回日本ヘルニア内視鏡外科手術手技研究会（2025年５月・盛岡、梅邑晃）、東日本肥満症・糖尿病チーム医療セミナー（2025年９月･盛岡､佐々木章）､The 39th Congress of the Pan-Pacific Surgical Association-Japan Chapter（2026年２月・タイ、佐々木）を主催します。教室員一同で準備に邁進してまいりますので、多くの皆様にご参加いただけますようお願いいたします。

今年は、副学部長として既卒者の学修支援を担当しました。新医師国家試験出題基準による初めての国試となりましたが、第118回医師国家試験の合格基準は、必修問題80%以上、一般・臨床問題76.7%点以上と公開されました。全体の合格率は92.4%（合格者9,547名）と、過去10年間でもっとも高い結果で、新卒者95.4%、既卒者58.9%、男性91.7%、女性93.6%でした。本学では、全体90%（117/130、昨年より＋4.1%）、新卒93.8%（105/112、＋3%）、既卒66.7%（12/18、＋20%）でした。特に、既卒者数が減少したこと、新卒の出願者合格率が90.5%に上昇したことは、学修支援委員を含む本学教職員が取り組んだ成果と思います。この場をお借りして心より感謝申し上げます。

最後になりますが、教室員が外科学講座に所属する誇りを持ち、いろいろな領域で外科学を発展させてくれる外科医・研究医の育成を目指してまいります、私は断捨離を進めながら、色々な事を整理し、将来の夢を目指します。

今後とも皆様のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

特別寄稿

Kunia

岩手医科大学学長
岩手医科大学附属病院長

小笠原　邦昭

Kuniaki Ogasawara, M.D., Ph.D.
President and Hospital Director

附属病院におけるacademic physicianの育成

岩手医科大学医学部外科学講座及びその同門会の皆様におかれましては、平素は附属病院の診療体制・経営にご協力いただき感謝申し上げます。また、同門会誌に寄稿できることを大変光栄に存じます。さて本稿では、附属病院における医療人、特にacademicな考えをもった医師の育成について述べさせていただきます。

医療系大学における使命は言わずと知れた教育、臨床、研究であります。大学附属病院においても同様ですが、それではこのうちどれが最も重要でしょうか。それは教育です。その理由は以下の通りです。そもそも附属病院では指導者は何を教育するかというと、それは臨床と研究のやり方です。「1．世界的な臨床技術を持っている」、「2．世界的な研究成果を英文論文化している」、「3．上記2つのいずれかをできる医療者を輩出している」の3種類の指導者でどれが最も優れているでしょうか？1．は本人が死ねば、この技術は世の中からなくなります。2．は本人が死んでも、研究成果がしばらくは世の中のためになりますが、いずれ古くなります。3．は本人が死んでも、弟子が世の中のためになる臨床技術・研究成果を出し続けられることになります。では、充実した教育を行うための条件は何でしょうか？それは臨床と研究が充実していることです。臨床と研究がすぐれていない指導者は優れた教育者であるはずはありません。また、優れた臨床研究を行うためには、臨床そのものが優れていなければなりません。すなわち、優れた臨床は、優れた研究をもたらし、これら2つが優れた教育をもたらすことになります。

大学附属病院における臨床研究には企業治験、医師主導多施設共同研究、他施設との共同研究、自施設内の共同研究、自科

単独の研究等があります。この中で、企業治験及び医師主導多施設共同研究はevidence創出あるいは診療ガイドライン書き換え等、重要であることは疑いの余地はありません。それでは、大学附属病院はこれだけ行っていればいいのでしょうか？個人的にはこれらの研究は、症例だけ寄与して研究結果は一部の研究責任者だけが独り占めすることが多く、主任研究者ではない症例登録施設のメリットは少ないと考えます。一方、自施設内の共同研究あるいは自科単独の研究は独自のアイデアで行う研究で、evidenceレベルは低いにしても、大学附属病院に対してのメリットは大きいと考えます。その理由は以下の通りです。厚労省における「特定機能病院の人員・施設基準等に関する要件」に「高度の医療」、「高度の医療技術の開発及び評価」、「高度の医療に関する研修」の３つがあります。これは正にそれぞれ大学附属病院の使命である「臨床」、「研究」、「教育」のことを指しております。この３つのうち、「高度の医療技術の開発及び評価」の具体的な内容として、「当該病院に所属する医師等が発表した英文論文の数が年間70件以上であること」と記載されています。さらに、「当該病院に所属する医師等が発表した英文論文」の条件は、「筆頭著者の所属が当該病院の臨床診療科であること」となっています。すなわち、企業治験及び医師主導多施設共同研究であれば、主任研究者になり、筆頭著者にならなければ「高度の医療技術の開発及び評価」には含まれないということになります。一方で、自施設内の共同研究あるいは自科単独の研究は含まれます。なお、厚労省による矢巾新病院の特定機能病院認定ヒアリングの際には、厚労省から、「英文論文としては、症例報告、学会抄録、プロシーディングは不可で、original article（原著論文）のみにして下さい。」と言われました。毎年の岩手医科大学附属病院所属医師が筆頭著者の原著論文は70編ぎりぎりであり、もしこれ以上下がったら、あるいは下限を70編以上に引き上げられたら特定機能病院認定の危機にさらされます。さらに、「高度の医療技術の開発及び評価」には、「病院に所属する医師等の行う研究が、国、地方公共団体、特例民法法人、一般社団・財団法人又は公益社団・財団法人から補助金の交付又は委託を受けたものであること」とあります。これは、とりもなおさず、外部研究費の獲得、その最たるものが文科省、厚労省の科研費獲得で、「大学附属病院所属医師は科研費を獲得して研究をしなさい」ということです。すでに学内で公表されている各臨床講座の毎年の申告英文論文数と文科省科研費申請数を比較すると、相関係数0.7－0.8と高い相関を示しており、質のいい英文論文を多く書いている診療科は科研費獲得数も高いことがわかります。では、これを達成するにはどうすればいいでしょうか？「指導者は質のいい臨床をして、これに基づいて質のいい研究・論文発表をし、その方法を後進に教育する」ことしかありません。

医師の働き方改革、岩手医科大学そのものの苦しい財政事情等、多くの課題がありますが、岩手医科大学医学部外科学講座及びその同門会の皆様におかれましては、釈迦に説法になるかもしれませんが上記を十分にお含みおきいただき、日常の臨床、研究、教育に生かしていただくことをお願いいたします。

教室の今年1年

Hi

岩手医科大学医学部外科学講座
教授

新田　浩幸

Hiroyuki Nitta, M.D., Ph.D.
Professor

教室の一年

2023年はコロナ感染の長いトンネルからやっと抜けたことを実感できた年になりました。学会や研究会は現地に赴くことがほとんどで、医局行事の多くもほぼ例年通りとなり、対面で行う熱量といったものを感じることができました。しかし、地方にいる立場としては会議などをオンラインで行うメリットは大きく、また、院内会議であってもオンラインの利便性が身にしみたこの状況においては、今後も継続していくのだろうと思います。

医局長の立場では、大きな波風も立たず、安定した一年であったと安堵しています。マンパワーが不足しているなか各診療チームそれぞれが尽力した結果であり、教室スタッフには本当に感謝しています。昨年の年報に、何とか外科医を増やすように、勤務時間をずらすなどの工夫、女性医師が何とか外科医を志してくれるような環境整備と協力体制の構築、新しい技術の扉を開いておくなど、魅力ある外科学講座となるよう努めていきたいと思います、と書かせていただきましたが、９月に北東北女性外科医の会を盛岡で開催することができました。北東北３県で勤務する多くの女性外科医・研修医に参加してもらい、有意義な会であったと思います。今後も継続していく予定ですが、何も女性に特化した話ではないとのことから、名称が北東北キャリアパス研究会に変更予定です。関連施設への医師派遣においても十分でないことは重々承知しておりますが、何とか外科医を増やすべく活動していきたと思います。

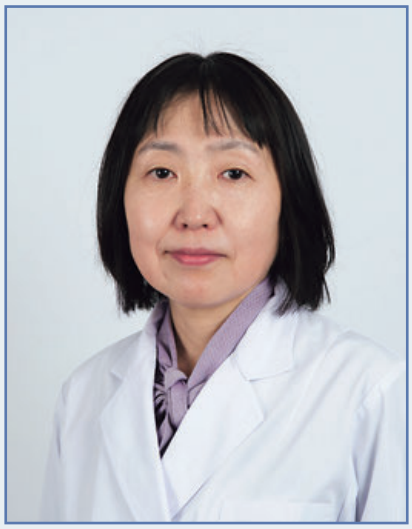
肝胆膵チームとしては、ロボット支援下肝切除・膵切除が飛躍した年であったと思います。肝切除と膵体尾部切除においては、腹腔鏡よりもロボットで行う症例が多くなりました。頑張って行っているのでは

なく、ロボット手術のメリットを感じながら無理なくできるようになったのは、今後行っていく若手医師への指導という面でも大きいことでした。肝切除においてはS7/S8領域の切除や大きな出血への対応にはまだ不安が残りますが、技術は必ず進歩するものであり、今後解消していくものと確信しています。これまではダビンチを使用して行ってきましたが、これからは国産であるhinotoriも使用していきたいと考えています。我々の手術手技においてはこの二つを比較してさほどの優劣はなく、遠隔手術のことなども考えるとhinotoriを使用するメリットは大きいと考えています。膵胆道癌の症例も増え、膵頭十二指腸切除は70例で膵体尾部切除と膵全摘を合わせると100例を超えました。全国のhigh volume centerと比較するとまだまだ少ないのかもしれませんが、我々の施設においては大きなことでした。若手肝胆膵外科医の修練と手術枠のこともあり膵頭十二指腸切除はまだロボット手術を行っていませんが、これから進めていきたいと思います。

腹腔鏡下ドナー肝切除に関しては、2023年も我々の手術手技と成績を報告させていただきました。しかし、徐々に広まりつつはありますが、普及したとは言い難い状況と思います。開腹手術と変わりない高い安全性とグラフト肝のクオリティが求められる手術であり、今後もより慎重に行っていきたいと思います。

2024年は海外などの学会活動もより活発化すると思いますが、教室のアクティビティを保ちながらスタッフの負担を可能な限り軽減できるよう自分の立場からもサポートしていきたいと考えています。

教室の今年１年



岩手医科大学医学部外科学講座
講師

藤野　順子

Junko Fujino, M.D., Ph.D.
Assistant Professor

着任のご挨拶

2023年５月１日付で岩手医科大学外科学講座小児外科チーム講師に着任いたしました。

歴史と伝統のある巖刀会に入会させていただきましたこと誠に感謝しております。

私は1999年に香川大学医学部を卒業し、獨協医科大学埼玉医療センター小児外科で20年余勤務してきました。獨協医科大学埼玉医療センター小児外科は年間600～700例の手術症例数がありながら、教授を除く実働スタッフは常に３～４名でしたので、大変多くの経験をさせていただきました。この施設での診療継続を考えておりましたが、３年前、教授の退職とともに突然小児外科学講座は小児外科疾患治療センターと名称を変えられ講座ではなくなり、医局員は皆、身の振り方を考えて失意の日々を送っていました。そんな折に鈴木信准教授にお声かけをいただきました。佐々木章教授には入局をご承認いただき、岩手医科大学外科学の講師として勤務させていただけることになりました。身に余る光栄です。

さて、私にとっては初めての外科学講座の所属で、成人外科各チームの術前術後カンファレンス、リサーチプロポーザル、抄読会などを拝見し高度な技術と知識に感嘆し日々新しい知見を得ております。単科の小児外科に長年所属していた私には毎日が新鮮です。変わって岩手医科大学の小児外科は岩手県の小児外科症例の集約化がなされており、全国の小児外科認定施設の中でも新生児症例数は上位３分の２に入っていることは驚きでした。ひとつの施設で十分な症例数が確保されると高度な医療の導入が可能になり、安全性の担保に繋がります。少子化の著

Junko FUJINO

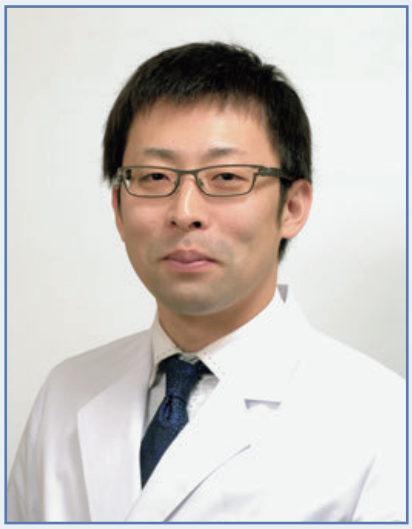
M.D., Ph.D. Assistant Professor

しい地方都市で特筆すべきことと思います。

今後の抱負としましては、診療に関しては内視鏡治療と内視鏡外科手術のハイブリッド手術を小児に導入したいと考えています。特に新生児は体が小さいので内視鏡治療は高度の技術と細径のデバイスが必要なため多くは実現に至っていません。研究に関しては、前任地で消化器内科と共同研究でNASHからの発がんマウスモデルが作成できたので、今後は発がんに関わる因子の研究継続を考えております。北里大学薬学部とも共同研究で潰瘍性大腸炎マウスモデルでの漢方の有用性についての実験を行なっていました。パイロットスタディは終了し結果を得ていますのであとは本試験で結果を出したいと思っています。また、教育に関しては、単に知識を与えるのではなく学生に診察、手術、検査、処置に参加してもらい、能動的にもっと学べる環境を提供するようにしていきたいです。学生の外科離れを払拭する一助になれればと思っております。

今後も素晴らしい講座にお迎えいただいたことに対する感謝の気持ちを忘れずに、巖刀会の名に恥じないような診療、研究、教育を継続してきたいと考えております。

末筆ながら、皆様のご活躍を祈念いたしますとともに、変わらぬご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



岩手医科大学医学部外科学講座
准教授

梅邑　晃

Akira Umemura, M.D., Ph.D.
Associate Professor

外科学の道を歩むときに感ずること

2023年は外科学講座准教授を拝命して、院内のスタッフや学内の教職員の皆様に多くの支援を頂きながら１年を無事過ごすことが出来ました。さらには、医局員の先生方、そして巌刀会の先生方にも多くの場面で支えて頂き職務を遂行することが出来ました。御指導頂いております皆様に改めまして感謝申し上げます。自分は2010年に岩手医科大学外科学講座に入局させて頂き、多くの先生方から手術手技、術後管理や侵襲学の基礎を御教示頂き専門資格を取得して、現在の診療に生かすことができていることを大変幸運であったと常々考えております。現在に至るまで多くの医局員の先生方、巌刀会の先生方の御支援があって外科学の道を歩めていることを思い返すに当たり、最近は目頭が熱くなることも多々あり、感情失禁を抑えられなくなってきていることを実感しております。まだまだ至らぬ部分が多い人間でございますので、引き続き皆様方の御指導・御鞭撻を賜りたいと存じますので何卒宜しくお願い申し上げます。

自分が医学部を志望するに当たり、以前といっても相当前のことではありますが「医師」と「医者」の違いについて考えてみたことがあります。当時の自分には面接対策としても十分な回答が導けないまま結論を出せず、医師免許を取得し外科学の修練をしておりました。ふとそのことを思い出した際に、巌刀会の先輩から「医者」と言うのは「医学者」の略である、よって学問として医学を修めることが出来た者だけが本当の「医者」であると御指導を頂きました。その言葉を聞いて、自分が「医師」となって以来曖昧にしてきた臨床と外科学の境界をボー

kira UMEMURA

M.D., Ph.D. Associate Professor

ダーレスにすることの重要性というものを初めて認識させられたことを鮮明に記憶しております。この点において、外科学の「医者」を育成できるのは岩手医科大学附属病院をおいて他にありません。そのような自分の礎となったお言葉から自分の立場で外科学を修めることに日々努めたいと考えております。後輩の先生方におかれましては、是非とも大学院で外科学の研究に邁進し無事「医者」になって頂けるようにお手伝いさせて頂く気持ちでおりますので御一考下されば幸いです。外科学の門戸を広げることは、最終的に岩手県の医療を拡充させるだけでなく、岩手医科大学外科学講座の発展にも極めて重要であると考えておりますので微力ではありますが力の限り尽力致しますので何卒宜しくお願い致します。

長いようで短い人生の途中で躓くことは誰にでもあることです。ある意味では平等に、分け隔てなく人間は挫折を味わうものだと自分は考えて生きています。臨床では術後合併症や癌の驚異的な進行に自分の無力さを痛感することもあり、研究でも結果がうまく出ず仮説が立証できなくなる場面もあり、人生のあらゆる局面で不安やストレスに苛まれることもあると思います。孔子の「試練は、乗り越えられる人にしか与えられない」という格言が、このような時に引き合いに出されて使用されます。一般的には、ネガティブな局面をポジティブに捉えることが重要であるという有名な言葉です。自分も臨床で行き詰まった時に、巌刀会の先輩からこのお言葉を頂きました。ただ、この言葉の真意は「一人でどうにか踏ん張ってどうにか乗り越えろ」と言う意味ではありません。お声掛け頂いた先輩の本意は「何かあれば俺が助けるし、お前の矢面に立ってやるから、悔いがないように頑張れ」という意味だとすぐに察しました。このように、巌刀会は読んで字のごとく一枚岩であり、これまでもこれからも外科学講座全体で全員を支えていけるような体制を備えていることを御教示頂いた自分にとっては忘れえぬ瞬間でした。

このように、外科学は患者様に侵襲を与える以上の結果を得ることを求められる非常に厳しい学問で、決して自分一人では対峙しえないものです。しかし、その歩みを止めないようにするために自分自身も巌刀会会員の一人として、一枚岩の強度を高めるべく今後も精進してまいりたいと存じます。外科学を共に歩む医局員の先生方、巌刀会の皆様の今後の益々の発展を祈念しております。最後になりますが、2025年５月には県立宮古病院院長の川村英伸先生が会長となり第23回日本ヘルニア学会学術集会を盛岡で開催されます。その附設研究会として開催される第22回日本ヘルニア内視鏡外科手術手技研究会の当番世話人を、大変僭越ながら自分が拝命する運びとなりました。岩手医科大学外科学講座のヘルニア診療の英知を結集して会長の川村先生を盛り上げたいと存じます。医局員の先生方、巌刀会の皆様方のお力添えを何卒宜しくお願い致します。

岩手医科大学医学部外科学講座
准教授

鈴木　信

Makoto Suzuki, M.D., Ph.D.
Associate Professor

赴任後の3年をふり返って

2021年１月に岩手医科大学に赴任してまる３年が過ぎ、４回目の冬を迎えました。お蔭さまで大過なく、４年目を迎えることができました。学内の教職員スタッフの皆様は勿論、同門および地域の先生方をはじめ、関係各方面の皆様のご支援の賜物と心より感謝申し上げております。

着任時の挨拶でも記させて頂きましたが、私は茨城県日立市で生まれ、日立市10年間、水戸市８年間、大学時代から群馬県前橋市14年間、埼玉県越谷市に６年（途中１年は海外）、前橋に戻り８年と関東から出たことのない私にとって、2021年から始まった初めての東北の地での生活は寒さとの戦いからでした。そんな私もまる３年で盛岡の気候にもすっかりなれ、前橋とは５～10℃ぐらい気温は違うのですが、「今年は暖冬」だと思える体になってきました。一方、昨年の５月から新型コロナウイルス感染症が５類感染症へ移行し、世の中の活動も新型コロナ以前の活動に戻りつつありますが、赴任時は感染症対策の真っ只中でしたので、盛岡の文化や地域の理解はまだまだなところです。赴任から２年以上、食料品の買い物以外は病院とアパートとの往来のみで、盛岡の繁華街に繰り出し飲食をする機会は全くなく経過し、最近になってやっと少しずつ繁華街にも顔を出せる雰囲気になってきた感がありますので、少しずつではありますが盛岡の町並みや岩手の名所地を楽しむ時間をとりたいと思う次第です。

さて、小児外科の臨床に関してですが、赴任当初は私一人でのスタートを余儀なくされましたが、小林先生の産休復帰および群馬大学総合外科学講座からの医師の派遣を得ることができ、2022年12月末での小林先生の退職に伴って、2023年１月からは一時２名体制での診療となりましたが、５

koto SUZUKI

M.D., Ph.D. Associate Professor

月からは獨協医科大学越谷病院時代の同僚である藤野先生に加わっていただき、来年度からは井原先生が加わる予定です。少しずつマンパワーの充実を考えております。私自身、徐々にではありますが、岩手の小児外科医療の充実とともに時代に即応すべく診療内容にもいくつかの工夫や変更を行ってまいりました。幸い、赴任時には新生児にも対応できるように細径の内視鏡手術用の器具を購入してもらうことができましたので、年代を問わず腹腔鏡、胸腔鏡を用いた低侵襲かつ整容的な手術の実施に積極的に取り組むことができております。これは成長しつつあるこどもたちの身体や心に大きな傷あとを残さないようにとの願いからです。ただ、新型コロナ感染症に伴う手術減少では説明できない年度を経ての手術件数減少が徐々にみられています。少子高齢化による影響が最も考えられ、学会等でお会いする先生と話しをしていても同様です。この傾向は大都市圏でも現れているようで、地方都市だけが抱える問題では無いようです。今後、施設の集約化が問われる時代が必ずや来ると思いますので、その時に淘汰されないよう特色を持った診療を構築していきたいと考えています。

北東北地域での小児外科を担当する医師は限られております。大学病院とはいえ訪れるこどもたちすべてに対応しようとのつもりで診療を行っております。スタッフにもその旨、徹底しておりますが、万一、当方の対応等に不手際があればいつでもご指摘いただきたく存じます。全ての子供達に対して常に医療安全に気を配りつつ、患児の発達・発育を考慮した「体だけでなく心にも傷を残さない」医療とともに「患者を断らない」医療に心掛け、北東北地域だけでなく他地域からも治療に来ていただけるような信頼される医療を提供するために微力を尽くして参りたいと思います。最後になりますが、薄学菲才の身ではございますが、臨床・研究・教育に誠心誠意努力したいと存じますので、岩手医科大学外科学講座および巌刀会会員の皆さまにおかれましては、今後とも、更なるご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

外科学講座スタッフ紹介《令和6年1月1日現在》

大学院 口田 脩太 [令和2年卒]

大学院 岩崎 崇文 [平成30年卒]

大学院 大塚 観喜 [令和2年卒]

助教 畑中 智貴 [平成26年卒]

助教 武田 大樹 [平成20年卒]

助教 天野 怜 [平成26年卒]

助教 川島 到真 [平成26年卒]

講師 八重樫 瑞典 [平成21年卒]

臨床腫瘍学講座 講師 遠藤 史隆 [平成18年卒]

講師 石田 和茂 [平成17年卒]

准教授 梅邑 晃 [平成17年卒]

緩和医療学科 特任教授 木村 祐輔 [平成6年卒]

教授 新田 浩幸 [平成5年卒]

教授 佐々木 章 [昭和63年卒]

助教 木村 拓 [平成29年卒]

助教 天野 総 [平成25年卒]

助教 小山 亮太 [平成27年卒]

大学院 熊谷 秀基 [平成27年卒]

助教 藤澤 良介 [平成29年卒]

助教 佐々木 教之 [平成24年卒]

助教 菅野 将史 [平成16年卒]

助教 安藤 太郎 [平成24年卒]

医療安全学講座 教授 肥田 圭介 [平成元年卒]

臨床腫瘍学講座 特任教授 岩谷 岳 [平成7年卒]

准教授 鈴木 信 [平成12年卒]

准教授 片桐 弘勝 [平成16年卒]

講師 藤野 順子 [平成11年卒]

講師 馬場 誠朗 [平成16年卒]

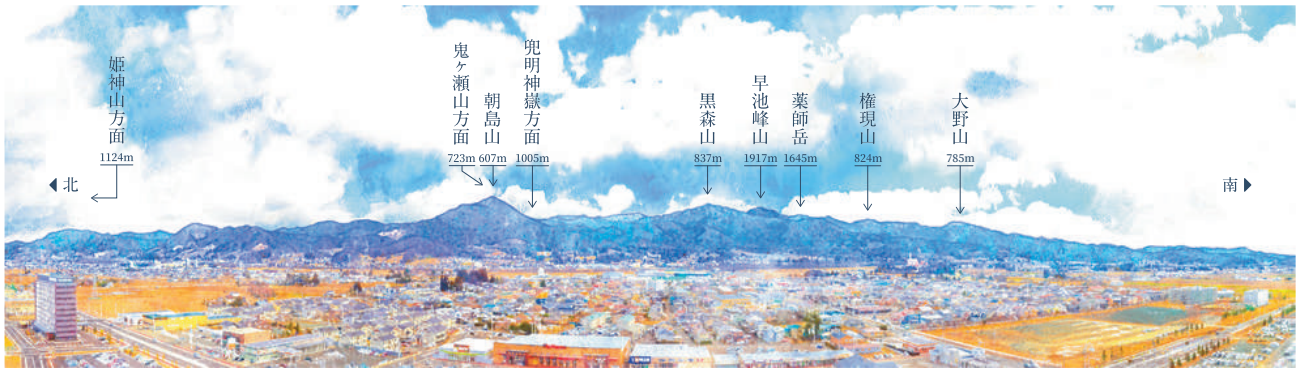
助教 二階 春香 [平成23年卒]

病棟風景

東10階緩和ケア病棟ラウンジ

西8階一般入院病棟ラウンジ

■東側眺望サイン



■西側眺望サイン

チーム紹介

上部消化管チーム

下部消化管チーム

肝胆膵・内分泌代謝外科チーム

乳腺チーム

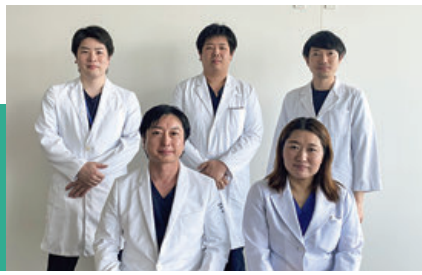
小児外科チーム

高度救命救急センター
《救急・災害・総合医学講座　救急医学分野》

上部消化管チーム

STAFF：馬場誠朗、二階春香

専門外来
食道・胃疾患
木曜
8時30分～17時
（矢巾新病院）



上部消化管チームでは、食道癌・胃癌を中心に、食道・胃疾患の治療を担当しています。毎週木曜日の専門外来では、新患患者さんの診察をはじめ、治療後の定期フォローアップや外来化学療法を担当しております。外来化学療法室や放射線科と連携し、癌の集学的治療を行っております。手術予定患者様には入退院サポートセンターの多職種が介入し、治療の安全性や周術期医療の質の向上に努めております。矢巾新病院での入院は、化学療法と手術治療を当科が中心となり消化管・肝臓内科や放射線科と連携して集学的な治療にあたっております。手術に際しては、定型的な手術に対してはより低侵襲な手術を追求しております。高齢者にも安全に定型的な根治手術を受けていただけるよう、リハビリテーションや栄養のサポートなどに関して周術期の取り組みを行い、術後の機能温存を重視した手術を心掛けております。大学病院特有の困難症例や高度進行癌に対する高難度手術に対しては、根治を目指してこれまでの経験や専門性を発揮して治療にあたっております。食道癌に対して胸腔鏡下手術に加えてロボット支援下食道切除術を、胃癌に対しては腹腔鏡下手術に加えてロボット支援下胃切除術を行っております。それぞれの患者さんに適した治療をともに考え、化学療法、放射線療法、手術を組み合わせた集学的治療を行うことにより治療成績の向上を目指しております。胃癌と食道癌は日本臨床腫瘍グループ（JCOG）に所属し、多施設共同臨床研究を通じて本邦の標準治療の開発に携わっております。治療に関する事はいつでもご相談をお受けいたしておりますので、是非お気軽にご連絡下さい。2023年の食道癌に対する胸腔鏡手術（ロボット支援手術含む）の割合は92.3%、胃癌に対する腹腔鏡手術（ロボット支援手術含む）の割合は64.2%でした。

2023年のニュース

- 5月▶痛みの治療Webセミナーを開催
- 8月▶ロボット支援下噴門側胃切術に対して、観音開き再建を導入
- 9月▶馬場誠朗　Esophageal Cancer Seminarで『教室における食道癌治療の取り組み』を報告
- 10月▶二階春香　da Vinci certificate（術者）を取得
- 12月▶岩手化学療法webセミナーを開催

2023年 診療・研究状況報告

●**上部チーム入院数**：391名
●**上部チーム手術数**：176名

●**食道癌新規入院数**：59名
●**食道癌手術**：13名
（胸腔鏡下・ロボット支援食道切除術：12例）

疾患	術式	症例数
食道癌	ロボット支援胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術	10例
	胸腔鏡下食道切除術	2例
	左開胸開腹食道切除術	1例
	経裂孔的下部食道切除術	0例
他疾患	遊離空腸等	8例

《年次手術数推移》

	2021年	2022年	2023年
食道癌	9	19	13
胸腔鏡下	2	4	2
ロボット支援下	7	11	10

●**新規胃疾患入院数**：170名
●**胃疾患手術数**：139名

疾患	術式	症例数
胃癌	開腹胃切除術	18例
	腹腔鏡下胃切除術	30例
	ロボット支援下胃切除術	12例
食道胃接合部癌	ロボット支援胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術	1例
	胸腔鏡下食道切除術	0例
	左開胸開腹食道切除術	3例
	経裂孔的下部食道切除術	3例

《年次手術数推移》

	2021年	2022年	2023年
胃癌	66	71	67
GIST	7	11	8
計（悪性腫瘍切除数）	73	82	75

●2023年研究報告

《教室内》

・切除不能・再発食道癌に対するbiweekly-DCF療法の安全性評価（データ集積中）
・食道癌化学療法後遺残腫瘍の遺伝子プロファイリング（症例集積中）
・血漿中遊離変異DNA定量による食道癌モニタリングシステムの開発（解析中）
・食道癌治療抵抗性とNFE2L2遺伝子変異に関する検討（解析中）
・食道癌肉腫の成分別網羅的遺伝子解析（解析中）
・消化器癌の予後に関連するnon-cording RNA *FTX*に関する検討（解析中）
・高齢者胃癌患者の食欲不振に対する補中益気湯の有効性および安全性に関する検討（株ツムラとの共同臨床試験、データ集積中）
・血漿中遊離変異DNA定量による胃癌モニタリングによる転移・再発の検証（症例集積中）
・胃癌周術期のサルコペニアの検討（データ集積中）

《臨床試験》

・JCOG1109「臨床病期 IB/II/III 食道癌（T4 を除く）に対する術前 CF 療法/術前 DCF 療法/ 術前 CF-RT 療法の第 III 相比較試験」症例追跡中
・JCOG1213「消化管・肝胆膵原発の切除不能・再発神経内分泌癌（NEC）を対象とした エトポシド/シスプラチン（EP）療法とイリノテカン/シスプラチン（IP）療法のランダム化比較試験」症例追跡中
・JCOG1301C「高度リンパ節転移を有するHER2陽性胃・食道胃接合部腺癌に対する術前trastuzumab併用化学療法の意義に関するランダム化第Ⅱ相試験」症例追跡中
・JCOG1314「切除不能または再発食道癌に対する CF（シスプラチン+5-FU）療法と bDCF（biweekly ドセタキセル+CF）療法のランダム化第 III 相比較試験」症例追跡中
・JCOG1409「臨床病期 I/II/III 食道癌（T4 を除く）に対する胸腔鏡下手術と開胸手術のランダム化比較第 III 相試験」症例追跡中
・JCOG1507「病理学的Stage II/IIIで“vulnerable”な80歳以上の高齢者胃癌に対する開始量を減量したS-1術後補助化学療法に関するランダム化比較第III相試験」症例登録中
・JCOG1509「局所進行胃癌における術後補助化学療法に対する周術期化学療法の優越性を検証することを目的としたランダム化比較第III相試験」症例登録中
・JCOG1510「切除不能局所進行胸部食道扁平上皮癌に対する根治的化学放射線療法と導入Docetaxel+CDDP+5-FU療法後のConversion Surgeryを比較するランダム化第III相試験」症例登録中
・JCOG1704「高度リンパ節転移を伴う進行胃癌に対する術前 Docetaxel + Oxaliplatin + S-1 の第Ⅱ相試験」症例追跡中
・JCOG1711「漿膜下浸潤及び漿膜浸潤を伴う進行胃癌を対象とした大網切除に対する大網温存の非劣性を検証するランダム化比較第III相試験」症例登録中
・JCOG1901「消化管・膵原発の切除不能進行・再発神経内分泌腫瘍に対するエベロリムス単剤療法とエベロリムス+ランレオチド併用療法のランダム化第III 相試験」症例登録中
・JCOG1904「Clinical-T1bN0M0食道癌に対する総線量低減と予防照射の意義を検証するランダム化比較試験」症例登録中
・JCOG2013「臨床病期I-IVA（T4を除く）胸部上中部食道扁平上皮癌に対する予防的鎖骨上リンパ節郭清省略に関するランダム化比較試験」症例登録中
・JCOG2203「食道胃接合部腺癌に対するDOS or FLOTを用いた術前化学療法のランダム化第II/III相試験」症例登録中
・JCOG2204「大型3型・4型胃がんに対する術前化学療法としての5-FU+レボホリナート+オキサリプラチン+ドセタキセル（FLOT）療法とドセタキセル+オキサリプラチン+S-1（DOS）療法の有効性を探索するランダム化第Ⅱ相試験」症例登録中
・JCOG2206「術前化学療法後に根治手術が行われ病理学的完全奏効とならなかった食道扁平上皮癌における術後無治療/ニボルマブ療法/S-1療法のランダム化比較第III相試験」症例登録中
・JACCRO GC-09「切除不能進行・再発胃がんに対するナブパクリタキセルとラムシルマブ併用療法の隔週投与法における有効性と安全性を検討する第Ⅱ相試験」症例追跡中
・JACCRO GC-11「術後補助化学療法中または終了後早期に再発した胃癌に対するCapeOX+ニボルマブ療法の第Ⅱ相試験（FirSTAR試験）」症例登録中

《治験》

・胃腺癌及び食道胃接合部腺癌患者を対象とした術前・術後補助療法としてMK-3475及び化学療法（XP又はFP）とプラセボ及び化学療法（XP又はFP）を比較する二重盲検無作為化第Ⅲ相試験（MSD株式会社）：症例追跡中
・胃がんに対する術後補助化学療法における多施設共同二重盲検無作為化試験（小野薬品工業株式会社）：症例追跡中

●今後の課題

・切除不能進行食道癌症例に対するSalvage手術, conversion手術の増加.
・高齢者に対する食道切除術のさらなる低侵襲化の探求.
・分子生物学的手法を用いた食道癌新規診断・治療法の開発.
・高度進行胃癌症例に対する腹腔鏡下胃切除の有用性の検証.
・胃癌化学療法に関する基礎的研究の推進.
・腹腔鏡下胃癌手術技術認定医の育成.
・胸腔鏡下食道癌手術技術認定医の育成.
・ロボット支援腹腔鏡下胃癌・食道癌手術プロクターの育成.

下部消化管チーム

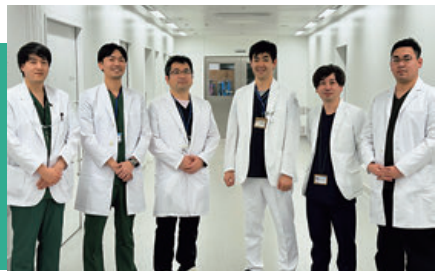
STAFF：八重樫瑞典、高清水清治、佐々木教之、畑中智貴

附属病院（矢巾）

術後外来：月曜8時30分～16時
新患外来（他院・院内の紹介）：月曜13時～15時、火曜8時45分～11時
外来化学療法：月曜9時～16時、水・金曜9時～13時
ストーマ外来：千葉励子（WOCN）、小笠原久美子（WOCN）、佐藤雅恵（WOCN）月曜8時30分～16時、水曜8時30分～12時

内丸メディカル

新患外来（他院の紹介）：月・火曜8時30分～12時



2023年４月から八重樫・高清水・畑中に加えて佐々木教之先生が専従スタッフとして加わりました。ローテーターを含めて６～７名の体制で日々の診療にあたっております。1997年から大腸癌に対する腹腔鏡手術をはじめ、2023年12月までに3000例を超える程になりました。

2023年は新型コロナ感染症が５類感染症に分類されたこともあり、だいぶ手術の制限が減った印象でした。実際に全身麻酔下による手術は270例を超え、大腸癌の手術件数も例年通り約180例でした。この１－２年の症例を振り返り感じていることは、局所進行直腸癌や肛門管に近い腫瘍が増加しており、術前治療が必要な場合や内肛門括約筋切除術を希望される患者さんが増えてきていることです。特に肛門温存に伴う手術を希望される患者さんにおいては、術後の排便機能障害についても十分な説明を初診時より行い、WOCナースを交えて患者さんの生活習慣などの背景をチームで共有し、患者さんとともに術式を決定しております。時間はかかっておりますが、できるだけ患者さんに納得いただいた治療が施せるようにチーム全体で診療にあたっております。またローテーターとしてチームに来てくれた全ての先生には初診等の外来診療にも携わっていただきました。2022年４月からスタートした新チームですが、特に2023年の後半はローテーターで回ってくれた若い先生達の成長を強く感じた時期でした。さらに今年はチームメンバーとともに県外の専門施設へ手術見学やCadaver Surgical Trainingを受けに行ってきました。特に他施設への手術見学は自身の成長のみならず、若い先生の手術に対するモチベーションにもつながったと強く感じております。来年以降も積極的にメンバーと他施設へと勉強しにいきたいと思います（きっかけをくださった大塚幸喜先生に感謝申し上げます）。

さて2023年そして今後の大腸癌治療として着目すべきは、進行下部直腸癌の治療法が大きく変わっていく可能性があることです。これまで海外では進行下部直腸癌に対しては術前化学放射線療法（CRT）を行いその後に根治切除としてTME（全直腸間膜切除）を行うものでした。近年、CRTの前後に術前化学療法を組み合わせたTotal neoadjuvant therapy（TNT）の治療成績が報告されています。CRTに比較して治療成績が向上しており、2023年のNCCN ガイドラインVer.6にはこのTNTが進行直腸癌の標準治療に位置付けられました。今後進行直腸癌に対するTNTは目が離せません。

切除不能・再発大腸癌に対しては、全国標準外来化学療法や遺伝子パネル検査に関して患者様の立場になってわかりやすく説明し行っております。Stage Ⅳに対する治療戦略を個々の症例に対してチーム内カンファレンスを必ず行っております。切除可能なStageⅣ症例ですが、特に肝転移では術後の補助化学療法の有効性を疑問視する報告が散見され、JCOGを含めて術前化学療法の有効性に関わる臨床試験が始まっております。自施設でもこれまでの症例を分析し、今後の治療戦略に生かしていきたいと考えております。

ストーマ外来は、現在矢巾では千葉励子、小笠原久美子、佐藤雅恵WOCナース（皮膚・排泄ケア認定看護師）３名でストーマ教育を行っており、精神面からもフォローしております。曜日や時間帯は限定されますが、内丸外来でも高橋咲子WOCナースがストーマ外来の準備を着々と進めております。

潰瘍性大腸炎やCrohn病などの炎症性腸疾患症例に対しても、患者さんのQOLを重視した腹腔鏡下手術を消化器内科と患者情報を共有し行っております。

2023年も本当に周りの先生方に支えられた１年でした。この場を借りて感謝申し上げます。関連先の先生方におかれましては、2024年も引き続きご指導、ご支援のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

2023年のニュース

- 4月▶佐々木教之　下部消化管チームスタッフへ
- 7月▶低侵襲下高難度手術手技勉強会：Cadaver Trainingへ参加（藤田医科大学）
- 9月▶Cadaver Surgical Training（札幌医科大学）
- 10月▶八重樫瑞典 ロボット支援手術プロクター（直腸;da Vinci）取得
- 11月▶骨盤内拡大手術見学（兵庫医科大学）
- 11月▶高清水清治　ロボット支援手術certificate取得（直腸;da Vinci）
- 12月▶佐々木教之　ロボット支援手術certificate取得（直腸;da Vinci）

2023年 診療・研究状況報告

●手術数（全麻）：277例

《内訳》

疾患	術式	症例数
結腸癌（例）	開腹	8
	腹腔鏡	97
直腸癌（例）	開腹	6
	腹腔鏡	38
	ロボット支援下	25
	経肛門	2
大腸癌再発（例）	開腹	0
	腹腔鏡	3
骨盤内臓全摘（例）（後方骨盤内臓全摘含）	開腹	1
	腹腔鏡	1
Crohn病（例）	開腹	1
	腹腔鏡	2
潰瘍性大腸炎/FAP（例）	開腹大腸全摘	4
	腹腔鏡下大腸全摘	3
肛門がん（SCC）	腹腔鏡	1
大腸憩室	開腹	1
	腹腔鏡	4
他全麻手術（ストーマ造設・閉鎖、良性手術、GIST/NET等）		46
他科手術応援（婦人科等：結腸直腸切除、小腸切除）		34

●2023年研究報告

《教室内》

・「Impact of sensitive circulating tumor DNA monitoring on CT scan intervals during postoperative colorectal cancer surveillance」：海外journal投稿中（佐々木智子）
・「dPCRによるStageIV大腸癌の転移巣別ctDNA検出に関する研究」：論文投稿中（大学院4年大塚観喜）
・「ctDNAを用いた大腸癌転移巣切除適応症例層別化に関する研究」：症例解析中（八重樫）
・「希少がんにおけるデジタルPCRを用いたctDNAモニタリング」：症例集積中（八重樫）
・「アイトラッキング技術を用いた腹腔鏡手術の教育に関する研究」：研究開始（大学院2年琴畑洋介）

《他施設共同》

・JCOG1107試験「治癒切除不能進行大腸癌の原発巣切除における腹腔鏡下手術の有用性に関するランダム化比較第III相試験（ENCORE Trial）」：症例集積終了
・JCOG2014試験「標準化学療法に不応・不耐な切除不能進行再発大腸癌患者を対象としたTrifluridine/Tipiracil単剤療法とBi-weekly Trifluridine/Tipiracil＋Bevacizumab併用療法のランダム化比較第III相試験（ROBiTS）」：症例集積中
・「内視鏡外科手術動画のデータベース構築」：症例の追加集積中
・「多領域の術式に応用可能なAI手術技能評価システムの研究」追加集積中
・多施設共同研究「切除不能大腸癌に対するトリフルリジン・チピラシル＋ベバシズマブの従来法と隔週法の実用的ランダム化第III相試験（PRABITAS）」:症例集積開始

●今後の課題

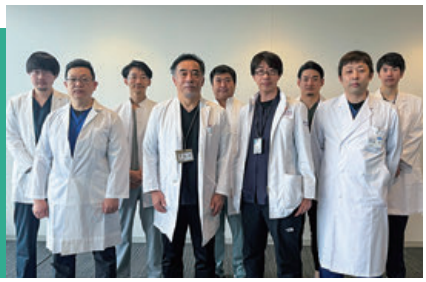
▶臨床教育面
・ロボット支援下結腸癌手術の取り組みと後進の指導
・合併症予防と対策
・内視鏡外科学会技術認定医取得に向けて
▶研究教育面
・研究計画書作成への指導
・大学院生への研究・学位指導
・学会発表や論文作成への取り組み方

肝胆膵
内分泌代謝外科チーム

STAFF： 新田浩幸、片桐弘勝、菅野将史
梅邑 晃、武田大樹、安藤太郎
天野 怜、川島到真、木村 拓

内丸メディカルセンター
木曜/8時30分～12時30分
（新田教授、天野助教）
金曜/8時30分～12時30分（菅野助教）

矢巾
火曜/10時30分～12時30分
（新田教授、梅邑准教授、菅野助教）
木曜/8時30分～12時30分（片桐准教授）
金曜/8時30分～12時30分（武田助教）



肝胆膵系悪性・良性疾患に対する拡大手術、腹腔鏡・ロボット手術、放射線化学療法、肝移植（生体・脳死）など幅広い治療選択肢をもって、患者様に最も適した治療は何かを考え診療しております。特に、腹腔鏡・ロボット手術は本邦でも症例数の多い施設の一つであり、患者にメリットの大きい手術であると確信をもって診療にあたっております。ロボット支援下手術は2023年からdaVinciと平行してhinotoriによる手術を開始しており、遠隔手術など今後の発展に寄与できればと考えています。また、日本肝胆膵外科学会の高度技能専門医や日本内視鏡外科学会の技術認定を取得するため、若手外科医の執刀機会が多いことも特徴の一つです。

肝移植医療は2007年より病院全体の協力のもと積極的に行っており、生体肝移植ドナー手術も可能な限り腹腔鏡下で行っていることから、患者の満足度も高いものとなっております。

胆道癌や膵癌に対しては術前放射線化学療法および術後補助化学療法など、集学的治療により治療成績を向上させるべく取り組んでおります。膵癌に対しては審査腹腔鏡を行い、適切な治療方針の決定に役立てております。

2023年 診療・研究状況報告

●手術数：281例

●腹腔鏡下手術の割合

肝切除（肝門部胆管癌、胆嚢癌を除く）95%、膵切除15%

●2023年手術症例

《疾患別》

▶悪性

肝細胞癌	37例
転移性肝癌	35例
肝内胆管癌	5例
胆管癌	40例 （肝門部 10例、肝外 30例）
胆嚢癌	4例
乳頭部癌	5例
膵癌（IPMC含む）	89例
十二指腸癌	3例

▶良性

生体肝移植ドナー、IPMN、胆嚢結石など	56例

▶その他

副腎腫瘍、後腹膜腫瘍など	6例

《術式別》

脳死肝移植	0例
生体肝移植	2例
肝切除	90例 （腹腔鏡32、ロボット44）
PpPD、SSPPD	70例（腹腔鏡2）
膵体尾部切除	25例 （腹腔鏡2、ロボット11）
膵全摘	7例
胆管切除	1例
審査腹腔鏡	37例
胆石、胆嚢良性疾患手術	31例
肝嚢胞天蓋切除	3例
副腎、脾臓、後腹膜腫瘍摘出	7例
消化管バイパス	8例

《年次推移》

	2021	2022	2023
肝細胞癌	26	31	37
肝内胆管癌	3	10	5
転移性肝癌	28	34	35
胆管癌	23	30	40
胆嚢癌	7	7	4
乳頭部癌	5	6	5
膵癌	45	73	89
脳死肝移植	0	0	0
生体肝移植	6	4	2

●2023年研究報告

・再肝切除、巨大腫瘍、高齢者、S7/S8領域などに対する腹腔鏡下肝切除術の成績と有用性を報告した。

・腹腔鏡下肝切除術における脳血流変化と高次脳機能に関する研究を行い、現在の術中呼吸循環管理と手術手技においては脳に及ぼす影響は軽微であることを報告した。

・腹腔鏡下ドナー肝切除術は新しい術式であり今後の普及が期待されている。当科では腹腔鏡補助下から導入し完全腹腔鏡に移行した。手術手技を工夫・考案しながら安定して行っており、その成績を検討し報告した。

・肝移植レシピエントに対するhypoxia-inducible factor prolyl hydroxylase inhibitors投与の腎保護効果に関して検討し報告した。

・ヒト肝臓手術におけるMuse細胞（Multilineage-differentiating stress-enduring cells）の動態と肝再生における関与・意義について報告した。

内分泌代謝外科

専門外来　水曜 8時30分～12時

診療では、内分泌代謝疾患（高度肥満症、副腎、甲状腺）、一般外科・消化器外科疾患（脾臓、ヘルニア）に対する内視鏡外科手術を担当しています。主な研究課題は、２型糖尿病、高血圧症、NAFLD/NASH（MAFLD/MASLD）、閉塞性睡眠時無呼吸症候群などの肥満関連健康障害に対する減量・代謝改善手術の効果と改善機序の解明です。術式は、reduced port surgeryを中心とした腹腔鏡下手術を選択しています。

2023年のニュース

- ４月▶特定非営利活動法人 内視鏡外科フォーラム理事長 就任（佐々木章）
- ５月▶第34回内視鏡外科フォーラム（盛岡）を主催（佐々木章）
- ６月▶第41回日本肝移植学会学術集会 優秀演題賞（梅邑　晃）
- ７月▶第29回侵襲とサイトカイン研究会（東京）を主催（佐々木章）
- ７月▶第29回侵襲とサイトカイン研究会 奨励賞（熊谷秀基）
- ７月▶一般社団法人 日本肥満学会理事 就任（佐々木章）
- 11月▶第44回日本肥満学会・第41回日本肥満症治療学会学術集会 優秀演題賞（棚橋洋太）

2023年 診療・研究状況報告

●**入院数**：192例

●**手術数**：134例

《内訳》

疾患	術式	症例数
高度肥満症	腹腔鏡下スリーブ状胃切除術	23
副腎疾患	２孔式腹腔鏡下副腎摘出術	9
甲状腺疾患	内視鏡下甲状腺亜全摘術	2
	内視鏡下甲状腺片葉切除術	5
	頸部切開甲状腺全摘術	6
	頸部切開甲状腺片葉切除術	5
副甲状腺疾患	頸部切開副甲状腺切除術	5
腹壁瘢痕ヘルニア	腹腔鏡下腹壁瘢痕ヘルニア修復術	23
鼠経ヘルニア	腹腔鏡下鼠経ヘルニア修復術（両側3例）	46
	開創鼠経ヘルニア修復術	10

《年次手術数推移》

	2021年	2022年	2023年
高度肥満症	23	20	23
鼠経ヘルニア	55	68	56

●**2023年研究報告**

《教室内》

・腹腔鏡下スリーブ状胃切除術における口腔内・腸内細菌叢の変化：論文作成中

・肥満非アルコール性脂肪性肝炎に対するリピドミクス解析と新規バイオマーカーの検索（2023年度岩手県地域医療研究事業）：Endocr J 2023 online ahead of print.

・ポビドンヨードとオラネキシジンによる術前消毒薬としてのSSI発生率についてのランダム化比較試験：Ann Gastroenterol Surg 2023;7:819-831.

・腹腔鏡下スリーブ状胃切除施行患者におけるヘパトカインの変化と代謝改善効果の関連：Surg Today 2023 online ahead of print.

・非アルコール性脂肪性肝疾患患者における減量・代謝改善手術前後のTGF-β関連タンパク質の変化：Endocr J 2023 online ahead of print.

・原発性アルドステロン症合併高度肥満症患者に対する二期手術の有用性：Ann Laparosc Endosc Surg 2023 online ahead of print.

《全国規模》

▶獲得研究費

・肥満非アルコール性脂肪性肝炎に対する外科治療の改善機序と新規バイオマーカーの検索（2023-2025年度科研費基盤 研究Ｃ）：症例集積・データ解析中

・高度肥満患者の細菌叢変化とマルチオミックス解析による肝線維化メカニズムの探索（2022-2024年度科研費基盤 研究Ｃ）：症例集積・データ解析中

・慢性腎臓病合併高度肥満症患者に対する減量・代謝改善手術の意義とその改善機序に関わる研究（2023年度中外製薬研究活動支援）：症例集積・データ解析中

乳腺チーム

STAFF： 石田和茂、川岸涼子、松井雄介、天野 総
橋元麻生、清川真緒、石井勇吾

内丸メディカルセンター
木曜8時30分～17時
（新患・紹介）

矢巾附属病院
火曜・水曜8時30分～17時
（専門外来）

はじめに、2023年も多くの先生方に支えられ無事に臨床をこなすことが出来ましたことを深く御礼申しあげます。昨年に引き続き外来診療応援に来て下さった松井雄介先生、橋元麻生先生、新たに外来と手術応援に来て下さった清川真緒先生、そして不在時のご負担をおかけした県立二戸病院と盛岡赤十字病院の先生方にも御礼を申しあげます。今年は患者数の増加を受け、週３件の手術枠を４－５件に増やして対応しましたが、それでも手術待機時間は２－３ヶ月が続いており、患者さんをはじめ紹介元の先生方にはご迷惑をおかけしております。そのような状況において、石井勇吾先生が新たに乳腺チームに加わることが決定し、近い将来、岩手県の乳腺診療が分厚くなることを期待せずにはいられない１年でもありました。教育においては、県立中央病院の乳腺外科チームと毎月の症例検討会を開催する運びとなり、またこの模様はZOOMで公開され関連病院スタッフが自由に参加・聴講・質問できる場としました。これにより、地域乳腺診療スタッフが専門外来の診療に触れる機会を創出したとともに、若手乳腺外科医が他施設の多様な考え方を学ぶ格好の機会となりました。また、異なる大学背景を持つ施設がお互いの診療内容、考え方を開示・議論することは乳腺専門医にとっても知識の補完や発見に繋がり、最も大きな取り組みの１つでもありました。臨床のトピックスは、術後再発リスクや補助化学療法上乗せ効果を21種類の乳癌関連遺伝子発現から予測するOncotypeDXが保険収載され、より個別治療へ突入した１年でもありました。手術ではラジオ波焼灼療法が保険適応となり、一部早期乳癌ではありますが乳癌領域にも非切除の時代が到来しました。

上記のごとく乳癌領域は目まぐるしい変化を続けており、関連病院の先生方に全てをお任せするには負担が大きくなってきております。岩手医大としては学生の勧誘と専門医の育成が引き続き重要タスクであり、引き続き臨床・研究・教育に精進する所存でございます。

若輩のチームではございますが、地に足をつけた丁寧な医療を実践してまいりますので、同門の先生方には一層のご指導、ご鞭撻ならびに診療連携を賜りますよう宜しくお願い申しあげます。

2023年のニュース

- 石井勇吾　乳腺専門医を目指し乳腺チームに加入。
- 橋元麻生　長女をご出産。おめでとうございます。
- 清川真緒　ご結婚。おめでとうございます。

2023年 診療・研究状況報告

●総手術件数：195例

《内訳》

術式	件数
乳房部分切除術（±腋窩リンパ節郭清）	76
乳房全切除術（±腋窩リンパ節郭清）	101
リスク低減乳房切除術	10
腋窩リンパ節郭清	2
腫瘍摘出術（悪性）	2
腫瘍摘出術（良性）	1
その他	3
（上記のうち乳房１次再建を併施）	（11）

●2023年研究報告

・JCOG2110「オリゴ転移を有する進行乳癌に対する根治的局所療法追加の意義を検証するランダム化比較試験」新規参加

・HALLOW study「化学療法歴のある HER2 低発現の手術不能又は再発乳癌患者を対象としたトラスツズマブデルクステカンの多機関共同前向き観察研究」新規参加

・EMBER-4 study「2－5年間の術後内分泌療法による前治療歴を有する再発高リスクの ER+、HER2－の早期乳癌患者を対象に、術後薬物療法として imlunestrant と標準的な術後内分泌療法を比較する無作為化非盲検第 III 相試験（J2J-MC-JZLH）」新規参加

●今後の研究課題

・乳腺専門医を目指す若手外科医の勧誘

・若手医師の乳腺専門医取得

・地域乳腺診療への協力

・乳癌検診の啓蒙

・チーム研究テーマの確立と実践

・年１遍以上の論文執筆

小児外科チーム

STAFF：鈴木 信、藤野順子（５月～）、小山亮太
早野 恵（県立釜石病院、産休中）

一般小児外科外来
水曜全日
専門外来
第3水曜午後
小児ストーマ・
スキンケア外来

2023年の小児外科チームの診療体制は、年初は小山・鈴木の２名体制での診療でしたが、５月１日に藤野順子（平成11年香川大卒）が獨協医科大学埼玉医療センターから講師として着任し、小山、藤野・鈴木の３名体制での診療となり、八戸赤十字病院（４月から能代厚生病院）の有末篤弘先生にも手術のお手伝いをいただきました。

外来診療は昨年と変わらず水曜日全日に集約し、手術日を木曜日全日および第１・４土曜日午前とし、小児における外科診療の最後の砦として救急患児に24時間365日常に対応できる体制をとっております。対象疾患は、新生児から16歳未満の呼吸器（気管・肺など）・消化器（食道から肛門までの消化管・肝胆膵）・その他腹部臓器（腎臓・副腎・脾臓など）・皮膚軟部組織（皮膚・皮下組織・筋肉など）・泌尿生殖器（腎臓・尿管・膀胱・外陰部など）の疾患で、AYA世代の移行期医療にも対応しています。

手術症例は少子高齢化の影響か、新型コロナウイルス感染症の５類感染症移行後も、インフルエンザ等の他の感染症蔓延の影響か、手術総数の若干の減少はあったもののほぼ例年通りで、鼠径ヘルニア類縁疾患やその他の検査等を除く手術の約30%（36例）に内視鏡手術を行い、体重2000g以上の新生児に対する内視鏡手術は３例（食道閉鎖症、腸回転異常症、卵巣嚢腫）でした。

教育・研究に関しては、新たな小児外科医の育成を目標に、臨床実習等の卒前教育での積極的なアプローチを行っており、興味を抱く学生を多く認めるようになってはいますが成果はすぐには得られませんので、継続的に続けていきたいと考えております。また、これまで行ってきた小児腫瘍の発生機序に関する分子生物学的研究や低侵襲手術に関する臨床的研究に加え、藤野講師の専門である食道インピーダンス検査および漢方治療に関する研究も進めていき、若手の為の研究シーズを蓄えて行きたいと考えております。

すべての患者さんとそのご家族に信頼される質の高い小児外科診療を提供できるよう、日々診療、研究、教育に励んでおります。症例等のご相談がありましたら常に対応可能ですのでご連絡頂ければと思います。今後とも関連の先生方には尚一層のご指導、ご鞭撻、ご支援を頂きますようお願い申し上げます。

2023年のニュース

- ５月▶獨協医科大学埼玉医療センターより藤野順子が講師として着任
- 11月▶小山亮太が小児外科専門医試験合格（2024年１月～認定予定）
- 12月▶藤野順子・小山亮太ががん治療認定医試験合格

2023年 診療・研究状況報告

●**総手術数**：169件（うち内視鏡手術36件）

●**入院数**：162名（うち他科併診43名）

《手術症例内訳》　重複あり

疾患群	症例数
新生児疾患	17
悪性腫瘍（生検を含む）	1
鼠径ヘルニア類縁疾患	50
消化器・肝胆膵疾患	50
呼吸器疾患	18
泌尿生殖器疾患	21
全麻下検査	10
その他	35

《年次手術数推移》

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
新生児	11	23	23	24	17
非新生児	155	182	202	154	152
計	166	205	225	178	169

●**2023年研究報告**

・日本小児がん研究グループ（JCCG）関連臨床試験参画
　日本神経芽腫研究グループ（JNBSG）
　日本小児肝癌スタディグループ（JPLT）
　日本ウィルムス腫瘍スタディグループ（JWiTS）
・２歳未満児における気膀胱下膀胱尿管新吻合術の後方視的検討（鈴木）
・神経芽腫患児におけるSTMN1発現の検討（鈴木、群馬大学との共同研究、Cancersに Published）

高度救命救急センター《救急・災害・総合医学講座 救急医学分野》

専門外来

24時間体制

STAFF：小鹿雅博・石田 馨・佐藤寿穂・岩崎崇文

専門外来：高度救命救急センターは院内各講座からスタッフが派遣されている複合科であり、各科医師との連携が重要です。外科学講座はじめ同門の先生方の多大なご協力に深く御礼申し上げます。我々は外科チームですが、あらゆる救急疾患、重症疾患、急性血液浄化等の窓口とも考えております。適切な専門医と連絡を取りますので、24時間いつでもどのような病態でもご相談ください。岩手医科大学代表電話（019-613-7111）から救急センター事務経由で呼び出すように命じてください。

2023年 診療・研究状況報告

●**入院数**：103例

●**手術数**：59例

《手術症例内訳》　重複あり

疾患（内因性）	症例数
上部消化管穿孔	3例
絞扼性腸閉塞	10例
下部消化管穿孔	7例
虫垂炎	12例
急性虚血性疾患	4例
嵌頓ヘルニア	1例
その他	20例

疾患（外因性）	症例数
管腔臓器損傷	4例
その他	1例

	症例数
Open Abdominal Management	13例

●**2023年研究報告**

《グループ内》

・Open Abdominal Managementの検討

・遅延吻合と早期吻合の病態に関する検討

・絞扼性腸閉塞に対する治療と管理

・虫垂炎の治療選択と管理

入院患者分類

疾　患		例　数
顔面・頸部		0
甲状腺・上皮小体	良性	15
	悪性	5
乳腺	良性	2
	悪性	233
食道	良性	1
	悪性	160
胃・十二指腸	良性	2
	悪性	295
大腸・肛門	良性	17
	悪性	281
肝・胆・膵・脾	良性	139
	悪性	808
腸閉塞		28
虫垂炎		23
ヘルニア・腹壁・腹膜		79
副腎		11
病的肥満		91
小児		122
その他		126
入院者合計		2438

手術件数

	件　数
全身麻酔数	1200
局所麻酔数	78
その他	1
全手術数	1279

関連病院手術件数

	全手術数	全身麻酔手術数	急患手術数	腹腔鏡手術数	甲状腺癌	乳癌	肺癌	食道癌	胃癌	胆膵癌	肝癌	大腸癌
函館五稜郭病院	967	941	139	551	7	192	0	12	53	26	26	167
盛岡市立病院	693	636	56	492	6	4	0	0	22	11	8	103
盛岡赤十字病院	548	432	58	342	0	21	0	0	20	1	4	78
八戸赤十字病院	456	410	59	133	3	48	0	0	33	1	0	104
能代厚生医療センター	357	296	34	198	3	27	0	0	30	14	6	56
県立宮古病院	329	297	41	166	0	34	0	0	11	1	4	79
県立久慈病院	327	273	40	150	0	22	0	0	15	3	1	58
県立二戸病院	279	248	33	104	3	40	0	0	11	0	4	49
県立釜石病院	239	206	20	128	0	11	0	0	17	5	0	38
県立千厩病院	196	189	20	127	1	14	0	0	4	1	3	17
かづの厚生病院	192	149	26	101	2	9	0	0	11	1	0	26
北上済生会病院	101	95	0	77	0	6	0	0	2	0	0	10
県立江刺病院	20	9	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0

関連病院発表業績件数

	英　文	和　文	国際学会	全国学会	全国研究会	地方会
函館五稜郭病院	3	1	0	14	1	9
盛岡市立病院	0	0	0	0	0	0
盛岡赤十字病院	0	0	0	4	3	0
八戸赤十字病院	1	0	0	4	0	1
能代厚生医療センター	0	0	0	6	0	1
県立宮古病院	0	2	0	2	0	2
県立久慈病院	0	0	1	3	0	1
県立二戸病院	1	0	0	3	0	2
県立釜石病院	0	0	0	0	2	1
県立千厩病院	1	0	0	1	0	0
かづの厚生病院	1	0	1	4	0	0
北上済生会病院	0	0	0	0	0	0
県立江刺病院	0	0	0	0	0	0

外科専門医制度修練指定施設・関連施設

指定関連区分	施設名	
指定	岩手医科大学附属病院	～ 2026. 12
指定	函館五稜郭病院	～ 2026. 12
指定	盛岡赤十字病院	～ 2026. 12
指定	盛岡市立病院	～ 2024. 12
指定	岩手県立中部病院	～ 2026. 12
指定	岩手県立宮古病院	～ 2025. 12
指定	岩手県立二戸病院	～ 2024. 12
指定	岩手県立久慈病院	～ 2026. 12

指定関連区分	施設名	
指定	岩手県立釜石病院	～ 2024. 12
指定	岩手県立千厩病院	～ 2024. 12
関連	能代厚生医療センター	～ 2024. 12
関連	八戸赤十字病院	～ 2024. 12
関連	かづの厚生病院	～ 2024. 12
関連	岩手県立江刺病院	～ 2024. 12
関連	北上済生会病院	～ 2024. 12

日本消化器外科学会専門医制度指定修練施設（認定施設）

指定関連区分	施設名	
指定	岩手医科大学附属病院	～ 2024
指定	函館五稜郭病院	～ 2026
指定	盛岡赤十字病院	～ 2024
指定	岩手県立久慈病院	～ 2024

指定関連区分	施設名	
指定	岩手県立宮古病院	～ 2025
指定	岩手県立中部病院	～ 2024
指定	盛岡市立病院	～ 2024
指定	県立二戸病院	～ 2024

外科学講座

直島 君成

出 身 大 学：奈良県立医科大学　　大学卒業年：2003年
出　身　地：岩手県盛岡市　　座 右 の 銘：感謝と報恩
岩手医科大学外科に入った理由：
　皆さんが患者さんと真摯に向き合う姿勢に惹かれ入局しました。よろしくお願いします。

外科学講座

畠山 瑞生

出 身 大 学：秋田大学　　大学卒業年：2020年
出　身　地：秋田県　　座 右 の 銘：人間万事塞翁が馬
岩手医科大学外科に入った理由：
　大学で手術を見学させて頂いたことをきっかけに、岩手医科大学外科学講座で外科医としての研鑽を積んでいきたいと思い、入局を決意しました。
　未熟者ですが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

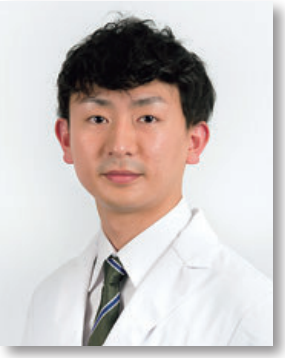
外科学講座

嶋田 拓明

出 身 大 学：岩手医科大学　　大学卒業年：2021年
出　身　地：岩手県　　座 右 の 銘：継続は力なり
岩手医科大学外科に入った理由：
　学生の実習や研修医として外科の先生方と関わらせていただいた際に、常に妥協せずどんなときも患者様のための医療を提供されている姿や、手術中などお忙しい中でも私たちのために時間を割いて教育してくださる先生方の人柄に触れる中で、自身も先生方のようになりたいと感じたため、外科を志しました。
　まだまだ未熟ではございますが、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

外科学講座

徐　光仁



出 身 大 学：岩手医科大学　　大学卒業年：2022年
出　身　地：神奈川県　　座 右 の 銘：臥薪嘗胆
岩手医科大学外科に入った理由：

大学での実習や初期研修を通して、外科の先生方の幅広い知識、判断力、患者さんに真摯に接する姿を見て、入局を決意しました。未熟者ですが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

瑞宝小綬章をいただきました

八島 良幸（釜石のぞみ病院）

平成５年度秋の叙勲にて「公務等に長年にわたり従事し、成績を挙げたもの」とのことで瑞宝小綬章をいただきました。この叙勲は、外科諸先輩方のご指導、後輩医師たちの支え、そして出会ったたくさんの病院職員の助けにより、職責を全うできたからだと思っております。文面をお借りし、私と関わった、たくさんの方々に心より感謝いたします。

平成７年４月、49歳の時に県立釜石病院院長に就任いたしました。斉藤教授より院長職打診のお電話をいただき、最初に頭に浮かんだのは、あの釜石病院の忘年会のことです。各職場が盛大な出し物を考え、幸楼の舞台で捧腹絶倒の芸能大会を繰り広げます。医局の出し物は、肌の露出度の高さもあり毎年好評で、看護師たちはかぶり付きで笑い転げ黄色い声援をあげていました。私は３年前まで一緒に働いていた医局のもとに院長として戻るのですから、ただで済むとは思われませんでした。そして、その年の忘年会で私は、股間から白鳥の首が出た白鳥の湖のバレーコスチュームで舞台に立っており、黒いレオタードを着た副院長や医局長ら医局員たちに囲まれ、その中心で踊っていました。断わるすべもなく、長年培ってきた私のダンディズムが音をたてて崩れおちました。このようにして院長職が始まり、13年間の長きにわたり釜石病院院長を続けました。

平成19年60歳時に医師不足に喘ぐ県立大船渡病院の院長に異動となりました。各方面の努力によりその泥沼から次第に復活し、暗かった職員たちの顔に笑顔がもどってきた頃の平成23年３月11日、凄まじい揺れを伴い東日本大震災が勃発しました。沿岸一筋に医療を担い、最後に待っていたのがこれだったのかと思わず天を仰ぎました。ご家族に不幸のあった職員も多かったのですが、この非常事態に対し、みんな悲しみに耐え良く頑張ってくれました。全国各地からもたくさんの暖かい支援をいただきました。翌年１年間、病院の抱えたさまざまな傷の復興に努め、平成24年３月で県立病院勤務を定年退職しました。

気が付くと県立病院の院長歴が18年と長く、前線の医療からは遠ざかっていました。医師としてやり残した感があり、県立病院を退職後、一般52床・療養102床の釜石のぞみ病院に一医師として再就職いたしました。釜石市民病院が閉院した建物あとを利用した慢性期の病院です。病院と隣り合わせに桜の名所薬師公園があり、病室からお山の中腹にある観音堂が目の前に見えます。お薬師さんに守られているような、とても立地が良い病院です。しかし病室から熊を目撃したこともあり、公園に行くのには勇気がいります。この地には以前は県立釜石病院がたっており、私は昭和49年にトランクで出張しております。院長は一外科の故髙橋俊一先生でした。釜石の街の飲み屋さんに連れて行ってもらい、帰りは酔って歩けなくなった院長に肩を貸して家に送り届けたこともありました。いずれ、この病院の地は昔からゆかりがあり、なにかの縁だったのだろうと思っております。

八島　良幸

履　　歴		
昭和28年４月～1953年６歳	仙台市立東二番町小学校	
昭和34年４月～	仙台市立五橋中学校	
昭和37年４月～	宮城県立仙台第二高等学校	
昭和41年４月～	岩手医科大学	
昭和47年４月～	岩手医科大学大学院	昭和51年学位取得
昭和51年７月～（1976年）	岩手県立宮古病院外科	外科長
平成元年４月～（1989年）	岩手県立釜石病院外科	副院長兼外科長
平成４年４月～（1992年）	岩手県立久慈病院外科	副院長
平成７年４月～（1996年）	岩手県立釜石病院	病院長
平成19年５月～（2007年）	岩手県立大船渡病院	病院長
平成22年４月～	岩手県立住田診療センター	センター長兼務
平成23年４月～	岩手県立大船渡病院救命救急センター	センター長兼務
平成24年４月～（2012年）	釜石のぞみ病院・平田診療所長	地域医療連携センター長
学会関係	外科学会指導医、外科学会専門医、消化器外科学会認定医	

県知事表彰を受賞して

佐藤 雅夫（佐藤雅夫クリニック）

昨年11月22日に、光栄にも県知事表彰を受賞しました。達増県知事のお祝いの言葉に、御礼の言葉を述べさせていただきました。

その後、同門会から寄稿しろとのお話があり、良い機会かと投稿することにいたしました。県知事表彰をいただいたのは紛れもなく、医師としての自分であり、その原点は第一外科学教室であることは間違いありません。入局した昭和49年に遡って、振り返ってみたいと思います。

私たちは９名の同級生が瀬田外科へ入局しました。それぞれ２名ずつ、助手を筆頭とする各部屋へ配属され、一つの机を二人で共有し、また３名ずつで、八戸日赤、能代組合病院、盛岡日赤各病院へトランク先が決定し、２ヶ月大学で、１ヶ月トランクという生活を始めました。

入局後には外科医の心得から、カルテの書き方などに始まり、種々の研修をうけました。

毎日の生活は、10日か半月に一回下宿へ帰り洗濯をし、それ以外はほとんど医局に詰めるという生活を繰り返しました。寝るのは医局で、先輩はソファー、食事をとるテーブルの上、我々はテーブルの下に毛布にくるまって横になり、呼ばれるのを待ちます。病棟、急患室から呼び出されるのは当直医であり、主治医ですが、直属の上司でなくともついて行き、先輩の仕事を見逃すまいと精進しました。手術、病棟回診、仕事後の飲み会とそれぞれの先輩から外科医のなんたるかをたたき込まれました。その生活が今でも染みついており、寝不足でも、夜間どんな状況でも飛び起きて患者さんの元へ駆けつけることができる体質になりました。２日間寝ずに、麻酔器を人工呼吸器代わりにバッグを押したこともあり、それでまた気管吸引のこつ、麻酔、心肺蘇生などを覚えました。毎日が楽しく、充実した生活でした。また、９人いた同級生とはお互い切磋琢磨し、仲良く、今でも最大の友人です。

当時瀬田教授は病院長を務められ、第一外科学教室と第一内科学教室と２つの教室で病院の医業収入の半分を稼いでいると言われておりました。当時の大学関連病院は県立病院を始め、第一外科と第一内科の医師が勤務していれば総合病院として成り立っておりましたので、大学とはまた違った知識を得られ、貴重な経験を多々受けました。一ヶ月トランク先で仕事をし、約30万円を給料としていただいて大学に戻り、毎月10万円で生活するわけですが、中にはその30万円をトランク先で全部飲んでかえって来る同級生もいました。大学で初Opの時は、肝吸い付きのうな重か、テールスープ付きの牛タン焼きで、どうやって支払いをしたか覚えておりません。

平成４年に齋藤教授から命ぜられ、県立宮古病院の外科科長に就任、その際病診連携が必要と医師会活動を始め、その後、副院長になったときに、宮古医師会の副会長に就任しました。その後故あって、平成16年に宮古市で開業させていただきました。東日本大地震の時は自院も津波に捲き込まれましたが再建し現在に至っております、その年に宮古医師会会長に就任し、６期12年になりました。現在、岩手県医師会代議員会副議長を兼任しております。また、大学同窓会の圭陵会活動では、宮古圭陵会支部長を務めさせていただき、医歯薬看護の連携に努め、岩手医大医学部圭陵会の理事にも就任させていただきました。医師会活動は、「すべてのことは政治の場で決められる」という、石川育成前々岩手県医師会会長の言葉を肝に銘じ、良質な日本の医療を維持するために積極的に活動しております、同門の小泉釜石医師会会長が県医師会副会長として活躍されております。皆様も是非医師会活動に積極的に参加されることを望みます。

県知事表彰という身に余る栄誉をいただくことができたのは、ひとえに医師としての基礎をたたき込んでいただいた同門の先輩と、同級生、後輩の諸先生方のご支援によるものと深く感謝申し上げる次第です。今後はこの栄誉を糧とし、さらに研鑽を積み、微力ながらも努力するつもりであります。

佐々木教授を始め、岩手医科大学外科学教室と同門の皆様の今後ますますの発展と、繁栄を祈念いたしまして感謝の言葉とさせていただきます。

令和６年２月

岩手県医師会表彰を受けて

加藤 典博（ふるだて加藤肛門外科クリニック）

昨年７月に、長年に渡り地域医療や医師会活動に貢献したとの理由で、第75回岩手県医師会総会で岩手県医師会表彰を受けた。当院は24年前から紫波町に肛門科を開業してきたが、標榜科の専門性のため学校医・ワクチン投与・かかりつけ医・二次検診などの地域医療にはあまり関わりがなく、医師会活動でも2002年から約２年間紫波郡医師会の理事の末席を汚した程度であり、この表彰は自身不相応と思っている。また、今回の表彰者に同級生がずらりと名を挙げていたことを見ると、岩手県医師会会員として長く在籍（約35年有余）していると年功序列的に表彰されるものかもしれない。いずれ理由はどうあれ、小生の履歴の表彰の欄に１項が加わったことは大変名誉で、喜ばしい限りである。今回の表彰に当たり尽力頂いた関係各位に感謝を申し上げる。

小生は2000年に盛岡赤十字病院を退職後父十郎の後を継ぎ、ふるだて加藤肛門外科クリニックを開業し24年目を迎える。さらに昨年の４月から佐々木章教授のご高配により息子久仁之が副院長として赴任し、これで父十郎―小生―息子久仁之と肛門科として３代襲名したことになる（図１）。おかげで現在当クリニックは、日本大腸肛門病学会の専門医・指導医と日本臨床肛門病学会の技術認定医・指導医が２名となり、両学会の認定施設を取得できた。我々３代は合計78年余り岩手医科大学第一外科学教室に在籍し、十郎は瀬田孝一、小生は瀬田孝一・森昌造・斉藤和好、そして久仁之は斎藤和好・若林剛・佐々木章らの歴代の主任教授に師事し、また多くの先輩たちの指導のおかげで肛門科医を全うできた、あるいは全うしていることに感謝したい。

この78年の歳月の間に、肛門病学も変化を遂げた。学会としては、1940年に全国の肛門科医師が中心として発足した日本直腸肛門病学会が大腸癌や腸炎症疾患に分野を広げ1967年に日本大腸肛門病学会と改名され、肛門科、外科、内科の専門医が混在する大腸肛門病の専門医制が引かれた。しかし、外科、内科の会員数が増えるにしたがって、絶対数の少ない肛門科医師は母屋を奪われる結果となり、専門性が必要な肛門診療のレベルが低下してしまうことを危惧し、2010年に肛門疾患の手術技能の認定制度を基礎にした日本臨床肛門病学会を設立した。この事により、古い職人肌の肛門科医師が塩梅で行う手術から、エビデンスを重視した誰もが行える標準化手術を目指すようになった。現在の痔核治療はALTA硬化療法が主流になりつつあるが、広い適応を持ち根治性が高い結紮切除術は標準的手術として肛門外科医が習得しておかなければならない術式である（表１）。

思い返せば、小生が一外科に入局した1977年当時は、1950年頃から狭窄や粘膜脱の合併症のため禁忌手術となったWhitehead法（痔核組織を全周性にぐるりと切除し直腸粘膜と肛門外側皮膚を縫合）に変わりMilligan-Morganの結紮切除術（個々の痔動脈を高位で結紮し、痔核組織を縦方向、放射性に切除）が主流となっていた。しかし、岩手県や秋田県の出張病院に行くとWhitehead法がまだ多く行われていた（25年以上遅れていたことになる）。確かに先輩諸氏はいとも簡単に華麗に職人肌の手術をこなし、「この手術は年季が必要で、直ぐには習得できないものだ」と自慢げに話していたが、患者はたまったものではない、術後太いストップロール（ネラトンチューブにガーゼを巻き９号ブジー程度の太さにしたもの）を肛門に挿入され、麻薬であるアヘンチンキで便止めを強いられ、術後数日目から狭窄防止のための用手ブジーが毎日行われ悲鳴を上げていた事を思い出す。本邦の主流は結紮切除でWhitehead法は禁忌手術になっていることを陳情しようと思ったが、大先輩には到底言えるわけもなく、ただ患者を慰めるのみであった。このように、良性で専門性が高い肛門疾患であるが故に、エビデンスがないまま独自の

図1

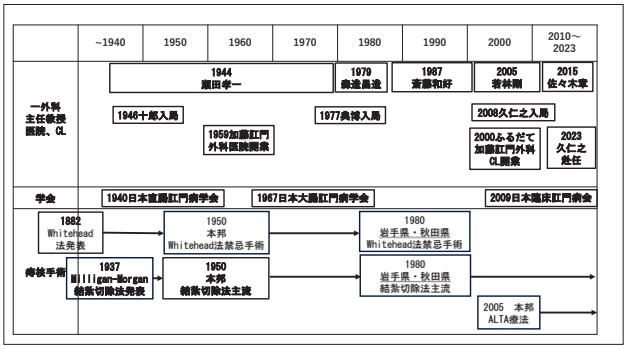


表1

治療法がまかり通る事は今の時代でも起こり得る。特に監視、点検するモニター役がいない個人開業医ではなおさらである。したがって、常に自分の経験症例の検証を怠らず、学会や研究会に参加して術式の確認をするとともに他の肛門科の指導や意見を謙虚に聞き、議論をすることが必要である。現在も本邦の大学には肛門領域の教育システムはないが、日本大腸肛門病学会、日本臨床肛門病学会を中心に各地域に多くの研究会（東北であれば東北地区肛門疾患懇談会、北東北肛門疾患懇話会、福島県大腸肛門疾患フォーラム）が立ち上がり、さらにWEB開催やオンデマンドも普及し現地に行かなくても必要な情報は容易に得られる時代となっている。

今、日本大腸肛門病学会の専門医・指導医、日本臨床肛門病学の技術認定医・指導医は全国では約400名、東北では40名前後であるが、北東北となると11名で岩手県はさらに５名とかなり急速に過疎地となる。その岩手県の肛門科医の多くは小生も含め、すでに70歳を過ぎ老齢化が進んでいるが、新たに若い専門医が数人誕生し世代交代ができそうである（小生も老後を楽して楽しく送りながら、もう少しワインに興じたい）。今後は彼らが岩手県～北東北～東北、そして全国へ、さらにはグローバルに肛門疾患の新しい知見を発進していくことを願い、また岩手医科大学外科学教室が佐々木教授を中心にますます発展することを切望して稿を終えることにする。

今回このような執筆の場を与えてくださった岩手医科大学外科学教室の諸氏に感謝する。　　令和６年１月

第16回地域医療貢献奨励賞を受賞して

伊藤 達朗（国民健康保険葛巻病院 院長）

2023年３月に、医療に恵まれない地域における医療の確保と向上および住民の福祉の増進を図るため、地域医療に多大な貢献をした医師を対象とする第16回地域医療貢献奨励賞を一般財団法人住友生命福祉文化財団よりいただいた。この栄誉は私自身で得たものではなく、私を育てていただいた岩手医科大学、上司や同窓をはじめ共に働いた医療スタッフそして家族のおかげである。

私は今年で医師になり43年になろうとしている。その中で、最も苦い経験は、初任地の宮古病院でいわゆる初アッペの患者が術後４病日に亡くなったことである。1981年６月初旬の医籍登録完了通知が届いた日に、70歳代男性患者の虫垂切除術の執刀をさせていただいた。典型的な急性虫垂炎の患者であり、何事もなく術後はスムーズにいくものと私は思っていたが、４病日にいつものように午後は筋鉤引きとして手術に入っていた時、病棟より患者が急変したのですぐ病棟に来るように電話連絡があった。半信半疑で急いで病棟に向かうと、私の唯一の受け持ちで、つい先日虫垂切除術を行った患者の呼吸状態が突然悪化していたのである。すでに先輩医師が救命処置を行い挿管された状態であった。すぐに検査を実施し、第一世代のCTで広範囲脳梗塞と判明したが、残念ながら治療の甲斐なく死亡した。その時は非常に無念に思い、その後はしつこいくらい患者の生活歴や既往歴、職業歴などを聴き、術後合併症に備えた。内科の診療能力が必要であることをひしと感じた。一方、宮古病院の諸先輩方は前途多難な奴が来たものだと思ったに違いない。私の外科医としての人生はこのようにして始まったのである。

40年が経ち、外科医としての賞味期限が切れかかった私は、現在、国民健康保険葛巻病院で地域の医師として勤務している。葛巻町の高齢化率はすでに50％を越えようとしており、入院患者の年代は80～90歳代が中心であり、時には100歳を超える。葛巻町のコンパクトな地域包括ケアシステムの持続可能な運用と効果的な病院経営を目指して、ポジティブエイジングを楽しみながら、日々の診療を行っている。この受賞を糧として、より一層住民と対話を重ね、地域の医療と後継の育成に邁進したい。

保健医療功労者に対する知事表彰を受賞して

坂本　隆（岩手県立一戸病院）

最初に、この度の受賞はひとえに外科学教室各位の皆様のご指導ご支援によるものであり深く感謝申し上げます。

私は生まれも育ちも軽米町ですが、大学入学後は久しく故郷を離れていました。1986年４月（昭和61年）、森　昌造教授のご高配により福岡病院に赴任し、当時の院長であられた葛西直敏先生（現軽米病院長　葛西敏史先生のご尊父です）に地域の外科医としての診療の在り方をご指導いただきました。諸般の事情により岩手県での勤務は１年間のみで1987年４月（昭和62年）、所属していた大学外科医局に戻ることになりました。

いずれは故郷岩手県北地域での医療に従事したいと考えていたところ、2000年４月（平成12年）、齋藤和好教授のご高配により岩手医科大学第一外科に入局させていただき、旧一戸病院と北陽病院が合併して新設・新築された新一戸病院に外科医として帰って来ることができました。その後、2007年４月（平成19年、若林剛教授在任中）、県北地区の外科手術の集約化のため、二戸病院へ移動となりました。2017年４月（平成29年）、定年を迎えましたが勤務延長を選択し、現教授の佐々木章先生のご高配により再度一戸病院に所属して現在に至っております。これまで恙なく地域医療に従事して来られたのは、外科学教室の歴代の教授、先輩、同輩、後輩の諸先生方、スタッフの皆様のご支援のおかげと重ねて感謝申し上げます。

今後もうしばらくの間、思考力・判断力・体力が許す限り、微力ながら地域医療の一端を担わせていただきたいと考えております。引き続きご指導くださいますようよろしくお願い申し上げます。

令和5年度へき地医療貢献者表彰を受賞して

葛西 敏史（岩手県立軽米病院 院長）

この度、令和５年度「へき地医療貢献者表彰」を受賞しました。この賞は15年以上にわたって山村・離島などの医療確保に尽力された医師に対して、全国自治体病院開設者協議会会長及び公益社団法人全国自治体協議会会長が毎年選定しているものです。以前には江刺：川村先生や釜石：坂下先生も受賞されており、岩手医科大学外科学講座が岩手県のへき地医療を支えていることの現れでもあります。

また今回の受賞にあたっては医師派遣で多大なる貢献をいただいている、外科：佐々木　章教授、消化器内科：松本主之教授、糖尿病・代謝・内分泌内科：石垣　泰教授などへ深く感謝を申し上げます。

左)岩手日報 11/28 受賞のニュース
右)岩手日報 12/20 それを受けて「ひと」の欄でも取り上げられました。

私は斎藤和好元教授のはからいで平成９年に軽米病院へ赴任しました。平成９年当時の軽米病院は、６年前に新築移転した120床の瀟洒な病院で、常勤医６名（内科４名、小児科１名、外科１名）という布陣でした。私も30代と若かったこともあって、手術の事ばかり考えていました。一人外科医ではありましたが、大学からは故・佐藤信博先生が毎週応援に来てくれ、その指導を仰ぎながら二人で手術を行い、術後管理に没頭しました。信博先生のおかげで、僻地の病院でも他に負けない様な外科医療レベルを目指すことができましたし、合併症も少なく終えることができました。そして胃癌・大腸癌はもとより食道・肝胆膵の手術まで経験して論文も数多く上梓でき、外科・消化器外科専門医・指導医も取得できました。残念ながら先生は平成20年に鬼籍に入られましたが、一番尊敬している恩師です。

また、近隣の二戸病院には日下純男先生や伊藤達朗先生、坂本　隆先生がおり、未熟な私に手を差し伸べ教えていただき、手術が終わった後は、酒を酌み交わしながらも医師としての心構えや取り組み方などについても指導を受

けました。思い返すと、節目節目で尊敬できる先輩たちがいたおかげで成長することができたように思います。

現在、一般53床（うち地域包括21床）、医療療養型45床の98床です。常勤医師は５名ですが、うち２名は退職後も勤務をお願いしています。医師の高齢化率も高いのですが、大学・県から若手医師の派遣を受けながら何とか病院機能を維持できています。

このような寄稿の機会を頂いて今までを振り返ることができました。本当に有り難うございました。これからも今回の受賞を励みに、独りよがりにならず忌憚のない意見を取り入れ、病院運営に邁進したいと考えております。

第41回日本肝移植学会学術集会 優秀演題賞を受賞して

梅邑　晃

この度、令和５年６月に愛媛県松山市で開催されました第41回日本肝移植学会学術集会におきまして「低体重児に対する生体肝移植における完全腹腔鏡下S2 monosegmentグラフト採取術」について発表させて頂き優秀演題賞を受賞することができました。本術式は、ドナーの肝血流を維持したまま腹腔内でS3をトリミングすることでグラフトの阻血時間を短縮するとともに、ICGイメージングを用いたS3灌流域の的確な把握によるトリミングを行うことで術後胆汁漏や再灌流後の出血などを軽減することができる極めて有用な術式であることを強調して発表致しました。一方で、本術式では極めて高度な手術手技や複雑な手順を定型化する必要があり、低体重児の周術期管理を含めて自分にとっても重要なマイルストーンとなった症例です。本演題の発表に当たり、新田浩幸教授、佐々木章教授、肝胆膵チームの皆様に多大な御指導を頂き改めまして感謝致します。

優秀演題賞

梅邑　晃 殿

第41回日本肝移植学会における貴殿の発表「低体重児に対する生体肝移植における完全腹腔鏡下S2 monosegmentグラフト採取術」は優秀演題賞に選ばれましたので、ここに表彰します。

令和５年６月１日

日本肝移植学会
理事長 大段秀樹

The 36th Congress of the Pan-Pacific Surgical Association Japan Chapter　Wada Award Gold Prizeを受賞して

菊地 晃司

この度、令和５年８月21日～23日にHonoluluで開催されたThe 36th Congress of the Pan-Pacific Surgical Association Japan Chapterにおいて、「Risk-adjusted assessment of learning curve for pure laparoscopic donor hepatectomy for adult recipients」という演題で、Wada Award（Gold Prize）を受賞しました。

本学会は、わが国で初めて心臓移植を施行した和田壽郎先生が1984年に第１回を開催され、外科系若手医師の海外での英語による学会発表にチャレンジする登竜門としての役割を果たして参りました。本演題は、わが国で先駆けて行ってきた当科の腹腔鏡下ドナー肝切除術のラーニングカーブにについて報告しました。本術式におけるラーニングカーブの報告は、右葉切除術または外側区域切除術に限られていますが、両葉を含めた研究は世界で初報告であり、名誉あるWada Awardを受賞できたことを大変嬉しく思います。

最後に、佐々木章先生、新田浩幸先生、片桐弘勝先生、梅邑 晃先生をはじめ、研究遂行にご指導いただいた諸先生方、ご協力いただいた皆様方に深く感謝申し上げます。

令和5年度圭陵会 学術賞を受賞して

小泉 優香

この度、令和５年度圭陵会学術賞を賜りましたこと、心よりお礼申し上げます。

受賞論文「*Helicobacter pylori* modulated host immunity in gastric cancer patients with S-1 adjuvant chemotherapy」はJournal of the National Cancer Instituteに掲載されました。

本研究は*Helicobacter pylori*（HP）に対応する宿主免疫応答が胃癌患者の予後に影響を及ぼす可能性について種々のパラメータを用いて疫学的・統計学的に検証を行っています。日本における進行胃癌に対する現在の標準治療は手術と術後補助化学療法となっています。手術単独の治療も行われていた年代の症例を集積して解析を行うことで治療の差異による比較検討が可能であった貴重な研究となっています。

2009年から2013年までに北海道・東北地区の12施設が参加したNorthern Japan Gastric Cancer Consortiumに登録された658例の進行胃癌切除検体のうち、胃粘膜におけるHP感染状況が確認できた491症例についてProgrammed cell death ligand 1（PD-L1）の発現など15種類の指標を用いて、HP感染の有無による5年無再発生存率（relapse-free survival, RFS）の比較を行いました。その結果、PD-L1陰性群において「手術単独」群ではHP陽性群・HP陰性群で差がみられませんでしたが、「手術+S-1術後補助化学療法」群ではHP陽性群のRFSが82.3%であったのに対し、HP陰性群では55.3%でした（$P<0.001$）。また、多変量解析によりpStageと同様にHP*PD-L1（HPとPD-L1の組合わせ）が進行胃癌における独立した予後因子と考えられました。以上のことから、PD-L1陰性進行胃癌患者においてS-1術後補助化学療法を行った場合、HP感染により修飾された宿主免疫応答が生存率改善に寄与している可能性が示唆され、進行胃癌におけるHPの感染状態とPD-L1発現レベルの判定を組み合わせることで、治療効果予測に用いることが期待できます。

研究から論文作成に至るまで情熱をもって御指導いただいた岩手医科大学医歯薬総合研究所医療開発研究部門西塚哲教授、岩手医科大学医療安全学講座肥田圭介教授、岩手医科大学臨床腫瘍学講座岩谷岳教授、岩手医科大学外科学講座佐々木章教授、ご協力頂いた皆様方に深く感謝申し上げます。今回の栄誉を励みとし、今後とも診療や研究に邁進していきたいと思いますのでご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

巖刀会 学術賞を受賞して

高橋 眞人

この度は栄えある巖刀会学術賞を賜りましたこと、皆様には深く感謝申し上げます。受賞論文の「Identification of a fatty acid for diagnosing non-alcoholic steatohepatitis in patients with severe obesity undergoing metabolic surgery」は、LSGを施行された高度肥満症患者の脂肪酸代謝の体内動態について、メタボローム解析を用いて網羅的に検討した研究であり、LSG施行後のNASH改善と脂肪酸の体内動態の変化の関連についての論文であります。

非アルコール性脂肪性肝炎（non-alcoholic steatohepatitis; NASH）は高度肥満症と関連し、線維化の進行により肝臓疾患関連死のリスクが上昇します。NASHの診断とフォローアップは、疾患進行予防のために重要ですが、診断方法である肝生検には出血や胆汁漏出などのリスクが伴い、高度肥満症患者ではさらにリスクが上昇します。したがって、NASHのリスクがある患者のスクリーニングにバイオマーカーなどの非侵襲的な診断方法の確立が必要とされていま

す。一方、遊離脂肪酸（free fatty acid; FFA）は、肥満患者において全身の炎症反応と関連することが報告されていますが、減量・代謝改善手術（metabolic surgery; MS）後の高度肥満症患者の体内FFAの変化を調べた報告はほとんどありません。高度肥満症患者において、治療効果とFFAとの関連を評価することにより、NASH診断のサロゲートマーカーとなるFFAを同定することを目的として、本研究を行いました。本研究では、脂肪酸を網羅的に解析するため、血清を用いた液体クロマトグラフィー質量分析法によるメタボローム解析、肝組織を用いたマトリックス支援レーザー脱離イオン化質量分析法という比較的新しい方法を当教室で初めて試行、継続した検体制作のプロトコールを作成致しました。

NASHに対して血清脂肪酸を用いた診断の有用性を期待する報告がされていますが、その実用性に関する検証は少なく、いまだ日常検査には至っておりません。今後も引き続き、佐々木章教授をはじめとした教室員の先生方、巌刀会の諸先輩方の御指導・御鞭撻を頂きながら、初心を忘れずに臨床・研究に注力する所存です。この度は、誠にありがとうございました。

第29回侵襲とサイトカイン研究会 奨励賞を受賞して

熊谷 秀基

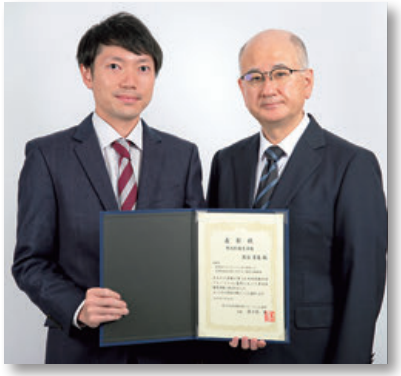
この度、令和５年７月６日に東京で開催された第29回侵襲とサイトカイン研究会の優秀演題セッションにおいて、「腹腔鏡下スリーブ状胃切除術後の減量・代謝改善効果とTGF-βシグナル伝達経路の関連」という演題で、奨励賞を受賞しました。

本演題は、減量・代謝改善手術前後で採取した血清を使用してプロテオーム解析を行い、変動がみられたタンパクについて酵素結合免疫吸着測定法および免疫組織化学染色を用いて検証した研究について発表させて頂きました。プロテオーム解析では、TGF-βシグナル伝達経路に関与する多くのタンパクが手術前後で変動しており、いくつかのタンパクに着目して非アルコール性脂肪性肝疾患との関連を検討すると、Asporinが手術後の肝線維化を予測するマーカーとして、既存のマーカーよりも有用である可能性を示すことができました。Asporinと非アルコール性脂肪性肝疾患との関連はこれまでにほとんど報告されておらず、本研究が非アルコール性脂肪性肝疾患における肝線維化の進展、改善の機序解明の一助になればと考えております。また、本研究は私の学位テーマでもあり、このような名誉ある賞を受賞できたことを心より嬉しく思います。

最後に、このような貴重な研究の機会を与えて下さった佐々木章先生、梅邑　晃先生、研究遂行に際してご指導いただいた諸先生方、ご協力いただいた皆様方に深く感謝申し上げます。今後もご指導、ご鞭撻のほど何卒よろしくお願いいたします。

第34回内視鏡外科フォーラム in 盛岡 初期研修医･専攻医優秀演題を受賞して

熊谷 秀基



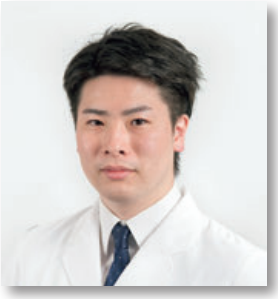
この度、令和５年５月20日に開催された第34回内視鏡外科フォーラムin盛岡の初期研修医・専攻医優秀演題セッションにおいて、「原発性アルドステロン症を併発した高度肥満症患者に対する二期的治療戦略」という演題で、優秀演題賞を受賞しました。

本演題は、原発性アルドステロン症を合併した高度肥満症患者に対して、腹腔鏡下スリーブ状胃切除術を先行し、減量・代謝改善効果が得られた後に、安全に腹腔鏡下副腎摘出術を施行できたという臨床経験を報告させて頂きました。減量・代謝改善手術後に原疾患に対する根治手術を行う高度肥満症患者に対する二期的治療戦略は、これまでにも当教室の先生方が学会や論文で報告し、エビデンスを積み上げて来た領域です。この度、同テーマで発表し、名誉ある賞を受賞できたことを大変光栄に存じます。

最後に、佐々木章先生、梅邑　晃先生をはじめ、発表に際してご指導いただいた諸先生方、ご協力いただいた皆様方に深く感謝申し上げます。今後もご指導、ご鞭撻のほど何卒よろしくお願いいたします。

第36回日本内視鏡外科学会総会 優秀演題を受賞して

口田 脩太



この度、2023年12月７日から９日に横浜で開催された第36回日本内視鏡外科学会総会において優秀演題賞を受賞しました。演題名は「当院での膵癌に対する審査腹腔鏡の手術手技と若手外科医への教育的意義」です。膵癌の術前病期診断のために単一術者が施行した審査腹腔鏡の手術時間を各手術パートごとにCUSUM法を用いてラーニングカーブの検討を行いました。受賞にあたり御指導、御協力頂いた皆様方に深謝申し上げます。まだまだ未熟者ではございますが引き続き臨床・研究に精進して参りますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

第41回日本肥満症治療学会学術集会 一般演題優秀演題賞を受賞して

棚橋 洋太

この度2023年11月25日～11月26日に開催されました、第44回日本肥満学会、第41回日本肥満症治療学会学術集会の一般演題優秀演題セッションにおきまして優秀演題賞を受賞することができました。

今回は「腹腔鏡下スリーブ状胃切除術術後の縦隔脂肪量の変化と呼吸機能の関連」というテーマで発表させて頂きました。肥満症患者は健常人と比較し縦隔脂肪容積が大きいことに着目し、縦隔脂肪容積のvolumetryを行い、減量代謝・改善手術後に縦隔脂肪量が減少し胸腔内拡張制限が解除され、肺容積が増大することで呼吸機能の改善を認めることを報告させて頂きました。

佐々木章教授、梅邑晃准教授にスライドの作成、発表のご指導頂かなければ受賞することはできませんでした。今後は自身の力でこのような賞を受賞できるように、また、自身がして頂いたことを後輩にできるようになることを目標に、引き続き研究活動に取り組んでいきたいと考えております。

学位論文報告

高橋 眞人

学位論文名：
Identification of a fatty acid for diagnosing non-alcoholic steatohepatitis in patients with severe obesity undergoing metabolic surgery
掲載雑誌：Biomedicines 2022;10（11）: 2920

大学院博士課程の学位論文である「Identification of a Fatty Acid for Diagnosing Non-Alcoholic Steatohepatitis in Patients with Severe Obesity Undergoing Metabolic Surgery」は、Biomedicines（Impact factor: 4.757）に掲載されました。

高度肥満症患者に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術（laparoscopic sleeve gastrectomy; LSG）では、減量・代謝改善効果に加え、非アルコール性脂肪肝炎（nonalcoholic steatohepatitis; NASH）に対する改善効果が期待されています。一方、NASHにおける炎症促進因子である遊離脂肪酸（free fatty acid; FFA）の体内動態に関しては不明瞭な点が多く、サロゲートマーカーとして注目されています。本研究では、LSGの代謝改善効果と脂肪酸代謝の変化を検討するとともに、血清と肝組織のメタボローム解析により、NASHのサロゲートマーカーとなりうる脂肪酸の探索を目的としました。対象は、岩手医科大学付属病院でLSGが施行された高度肥満症患者20名（2020-2021年）の臨床データを術前と術後６か月で比較しました。対象患者全員にLSG時肝生検を実施し、肝組織の診断結果によりNASH群と非NASH群に分類しました。NASH群では術後６か月に超音波ガイド下肝生検を実施し、NASH継続群とNASH改善群に分類しました。術前・術後６か月の血清ならびに肝組織を採取し、液体クロマトグラフィー質量分析法を用いてメタボローム解析を行い、肝組織リピドミクス解析に関しては、マトリックス支援レーザー脱離イオン化質量分析法を用いた解析を行いました。LSG後に有意な体重減少と代謝指標の改善を認め、検出された血清リン脂質のうち、87種で脂質クラス・炭素鎖・不飽和結合の数が肝組織リピドミクス解析結果と一致しました。同定されたリン脂質についてLSG前後の濃度変化を検討すると、NASH群でPC（18:1e_20:4）の術後の有意な増加を認めました。PC（18:1e_20:4）のNASHの識別に関するAUCは0.707、陽性診断率は81.6%でした。

リン脂質はLSG後増加する傾向があり、特にアラキドン酸を含むPC（18:1e_20:4）は、NASH群においてのみ有意増加しました。本研究で、高度肥満症に対するLSGは、アラキドン酸カスケードの進行を抑制する可能性があり、LSGの代謝改善効果により全身の炎症反応を抑制することで、NASHの改善に影響を与えた可能性が示唆されました。本研究の結果より、PC（18:1e_20:4）がNASHのサロゲートマーカーとなりうる可能性、LSGはアラキドン酸カスケードの進行を抑制することでNASH改善に寄与するというメカニズムの一端を示すことができたと考えております。今後より多くの患者さんに対して臨床応用できるように、研究を進めて参りたいと思っております。

本論文に関しまして、佐々木章教授、梅邑晃准教授、二階春香助教、病理診断科、消化器肝臓内科をはじめ、ご指導ご支援頂きました皆様方に深く感謝致します。今後も研究・臨床に注力していきますので、ご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

小泉 優香

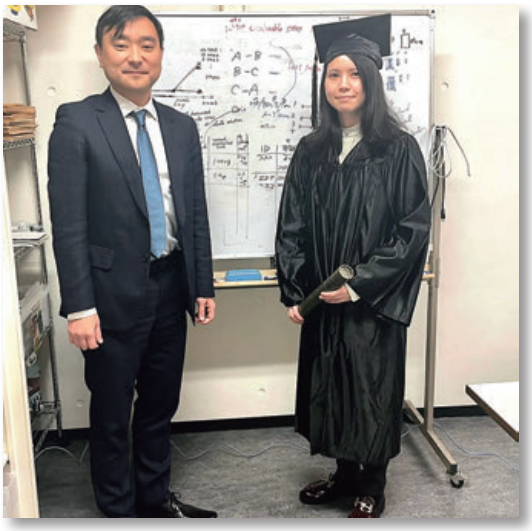
学位論文名：
Helicobacter pylori Modulated Host Immunity in Gastric Cancer Patients With S-1 Adjuvant Chemotherapy
掲載雑誌：
Journal of the National Cancer Institute 2022 ;114（8）:1149-1158

学位論文は「*Helicobacter pylori* Modulated Host Immunity in Gastric Cancer Patients With S-1 Adjuvant Chemotherapy」です。

自験例を含む各国の進行胃癌治療の先行研究では、*Helicobacter pylori*（HP）陽性進行胃癌患者の生存率がいずれの国でもHP陰性患者に比べて高いことがわかりました。これらの報告から、HPにより宿主免疫応答が修飾され、癌治療に有利な影響を及ぼしていることが想定されました。本研究ではHP に対応する宿主免疫応答が胃癌患者の予後に影響を及ぼす可能性についてProgrammed cell death ligand 1（PD-L1）やMicrosatellite instabilityなどの免疫組織学的パラメーターと年齢、治療方法、ステージングなどの疫学的情報を組み合わせて統計解析を行い検証しました。その結果、PD-L1陰性群において「手術単独」群ではHP陽性群・HP陰性群で差がありませんでしたが、「手術+S-1術後補助化学療法」群ではHP陽性群のRFSが82.3%であったのに対し、HP陰性群では55.3%でした（$P<0.001$）。また、多変量解析によりpStageと同様にHP*PD-L1（HPとPD-L1の組合わせ）が進行胃癌における独立した予後因子と考えられました。以上のことから、PD-L1陰性進行胃癌患者においてS-1術後補助化学療法を行った場合、HP感染により修飾された宿主免疫応答が生存率改善に寄与している可能性が示唆されました。

本論文はJournal of the National Cancer Institutesに掲載されました。

御指導、ご協力いただいた皆様方に深謝申し上げます。



菊地 晃司

学位論文名：
Mobilization of multilineage-differentiating stress-enduring cells into the peripheral blood in liver surgery
掲載雑誌：
PLoS One 2022 ;17（7）:e0271698.

大学院博士課程の学位論文である「Mobilization of Multilineage-Differentiating Stress-Enduring Cells into the peripheral blood in Liver Surgery」は、PLoS ONE（Impact factor 3.7）に掲載されました。

Muse細胞は自発的に3胚葉性に分化する能力や自己複製能力を有する多能性幹細胞で、腫瘍性を持たない細胞と言われています。また、最大の特徴としてMuse細胞を回収してそのまま静脈へ投与するだけで損傷組織へホーミング・生着し組織特異的な細胞へ分化することが挙げられます。これらの特徴からMuse細胞の幹細胞移植治療による組織修復や機能回復が期待され、様々な研究が行われています。肝臓分野においては、片桐弘勝先生が行った先行研究にて肝切除を行った免疫不全マウスにGFPラベルされたMuse細胞を移植すると、肝組織修復過程で肝外由来のMuse細胞が損傷部位に誘導され分化を遂げることを報告しておりま

した。本研究は、ヒト肝臓手術におけるMuse細胞動態を明らかにし、Muse細胞と侵襲度および肝再生との関連について検証したものです。本研究の結果から、Muse細胞は肝切除容積、肝組織障害の程度に応じて動員される可能性があること、合併症による組織障害でMuse細胞が動員される可能性がある事が判明しました。また末梢血中のMuse細胞上昇が術後の肝容積回復に関係している可能性があり、肝再生に寄与していることが示唆されました。

本研究は今後のMuse細胞研究並びに肝臓の再生医療領域の発展に寄与するものと期待しております。この場において、研究に時間を割かなければならず、臨床面で多くのご迷惑をおかけした肝胆膵チーム、指導医の片桐弘勝先生、研究指導頂いた消化器内科肝臓分野の鈴木悠地先生、このような貴重な機会を与えて下さった佐々木章教授、新田浩幸教授に心より感謝申し上げます。

佐々木 智子

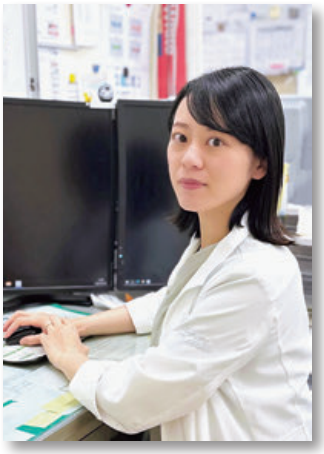
学位論文名：
The clinical validity of digital PCR based circulating tumor DNA monitoring in patients with colorectal cancer who received adjuvant chemotherapy
掲載雑誌：
Journal of Iwate Medical Association 2023;75（3）:95-107

大学院博士課程の学位論文である“The clinical validity of digital PCR based circulating tumor DNA monitoring in patients with colorectal cancer who received adjuvant chemotherapy”は、Journal of Iwate Medical Associationに掲載されました。

近年、大腸癌における検討では腫瘍細胞由来血中循環遊離DNA（circulating tumor DNA, ctDNA）解析が治療後の癌遺残や再発の検出に臨床的妥当性を有することが多数報告されています。本研究は、大腸癌術後のデジタル PCR（digital PCR, dPCR）を用いたctDNAの経時的なモニタリングにより、術後化学療法を受けた大腸癌患者の再発早期発見が可能であるかどうかを検討したものです。

2016年３月11日～2018年６月20日の期間に治癒切除が施行され、術後３年以上が経過した大腸癌症例52例のうち術後化学療法を受けた14例を対象としました。原発巣組織を次世代シーケンサー（NGS）を用いて遺伝子変異スクリーニングを行い、検出された変異からctDNAモニタリングに用いる１～５の症例特異的変異を選定後、primer/probeをデザインし、dPCRによるctDNA解析を行い、治療経過や臨床情報とともにモニタリングを行いました。

結果、初回手術で治癒切除を受けた症例のうち再発した患者では、術後再発のない患者に比べて、術前のctDNA変異アリル頻度（Variant allele frequency, VAF）が有意に高値を示しました。また術後にctDNAが陽性であった患者は、ctDNAが陰性であった患者と比較して再発のリスクが有意に高いことが示されました。さらに、術後経過中に少なくとも１つのctDNA陽性のタイムポイントがあった患者は、ctDNA陰性の結果が持続した患者と比較して、有意に高い再発リスクを示しました。これらの結果より、dPCRによる経時的なctDNAモニタリングは、術後のctDNAモニタリングによる化学療法施行と、CT検査と腫瘍マーカー検査を用いた従来の術後サーベイランスによる再発早期発見の両方を補完することが可能であると結論づけました。



現在は本研究結果から、大腸癌術後サーベイランスにおけるctDNA検査とCT画像検査の再発・無再発診断能を比較し、ctDNA検査を加えた術後サーベイランスにおけるCT検査回数削減の可能性についても検証を行なっております。

また、2022年５月より岩手医科大学付属病院でも自由診療としてctDNAモニタリング検査（OTS-assay）が開始されました。がんの早期再発予測、治療効果判定、無再発確証を目的とした検査で、適応となる症例も多く、本研究の成果が自身の実臨床でも応用できていることを実感し嬉しく思います。

本学臨床腫瘍科 岩谷岳教授、医歯薬総合研究所 医療開発研究部門 西塚哲教授をはじめ、研究から論文作成に至るまで御指導御支援いただいたすべての先生方に深く感謝申し上げます。今後も引き続き研究・臨床に邁進してまいりますので、御指導御鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

学位取得者（博士）

田金　恵

学位論文名：
Examination of fatty infiltration of skeletal muscles by CT value in the evaluation of sarcopenia during preoperative chemotherapy for esophageal cancer
掲載雑誌：
Journal of Iwate Medical Association 2023;75（1）:21-33

大学院の学位論文であるExamination of fatty infiltration of skeletal muscles by CT value in the evaluation of sarcopenia during preoperative chemotherapy for esophageal cancerは、岩手医学雑誌に掲載されました。

本研究では食道癌患者の術前化学療法に伴う骨格筋の量および質の変化と、その変化に影響を及ぼす因子を解析しました。2011年３月より2020年10月までに食道癌に対して術前に化学療法を施行後に食道亜全摘術を施行した患者60名を対象とし、初診時（化学療法治療前）および手術前（化学療法後）の単純腹部CTを用いて第３腰椎レベルの腸腰筋および脊柱起立筋の骨格筋肉量、左右の腸腰筋および脊柱起立筋の画像構成成分（CT値）の変化を解析しました。また、化学療法開始前後の栄養学的指標や化学療法の有害事象との関連性を評価しました。

結果として、化学療法前後で腸腰筋の面積は1217.3±417.5 mm^2から1123.4±354.6 mm^2へと有意に低下し（p=0.003）、脊柱起立筋の面積は3744.3±912.5mm^2から3665.5±843.3mm^2と有意な変化を認めませんでした（p=0.109）。一方で、腸腰筋のCT値は化学療法前後で46.78±5.47 HUから46.54+5.83 HUと有意な減少を認めませんでしたが（p=0.602）、脊柱起立筋のCT値は44.20±11.80 HUから42.54±11.50 HUへと有意に低下しました（p=0.001）。

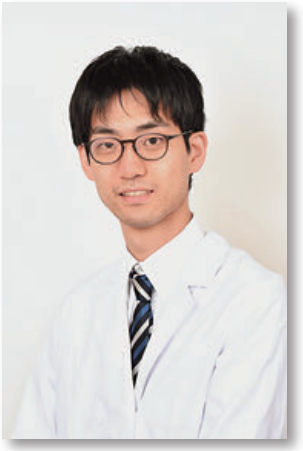
続いて、骨格筋量やCT値変化に影響を及ぼす因子について検討した結果、腸腰筋の減少率の大きい群で化学療法中の下痢が有意に多い結果となりました（p=0.038）。脊柱起立筋のCT値の減少率の大きい群では治療前のBMIが優位に低値でした（p=0.002）。骨格筋の量および質的変化は、栄養学的指標、術後合併症や予後と関連は認めませんでした。

本研究により化学療法は、腸腰筋と脊柱起立筋に異なる影響を与えている可能性が示唆されました。今回我々が解析した方法は、CTを用いて骨格筋量の定量ができるシンプルな方法であり、今後のサルコペニアを評価する上で新たな知見を与える結果であると考えます。

本研究、論文作成に関しまして、佐々木章教授、秋山有史准教授をはじめ、ご指導いただいた先生方に深く感謝申し上げます。

伊藤 浩平

学位論文名：*NFE2L2*変異陽性食道扁平上皮癌の治療抵抗性に関する研究
掲載雑誌：岩手医学雑誌　2023;75（4）:133-145



大学院博士課程の学位論文として、「*NFE2L2*変異陽性食道扁平上皮癌の治療抵抗性に関する研究」を岩手医誌に掲載させていただきました。

本研究では、予後不良な癌の一つである食道扁平上皮癌の中で、*NFE2L2*遺伝子変異を有する症例が野生型と比較して予後不良であるという報告を元に、*NFE2L2*変異の有無が食道癌における治療効果予測因子となりうるかを検討しました。

当院で行った食道癌先行研究（UMIN Clinical Trial Registry: UMIN000038724; 本学倫理委員会承認番号#HGH 27-16）に2015年９月から2019年７月までに参加登録された食道扁平上皮癌症例のうち、原発巣組織の次世代シークエンサー解析が施行された61例を対象として、*NFE2L2*遺伝子の変異率、変異部位、変異アリ

ル頻度（Variant Allele Frequency: VAF）を抽出しました。また、*NFE2L2*遺伝子の変異状況における初回治療効果をFisher's exact testで、*NFE2L2*変異症例における治療効果別のVAFをMann-Whitney test で比較したほか、*NFE2L2*遺伝子の変異の有無による全生存期間、無増悪生存期間をKaplan-Meier分析及びLog-rank検定により比較しました。

次に本研究室で保有している食道癌細胞株11株における*NFE2L2*変異状況をサンガーシークエンス法で確認した上で、DCF療法として食道癌治療で現在使われているドセタキセル、シスプラチン、5-FUそれぞれの50%増殖阻止濃度（GI50）を、CCK-8アッセイを用いて計測し、*NFE2L2*野生型株及び変異株のGI50についてMann-Whitney test で比較しました。

結果として、原発巣変異解析では61症例のうち13例（21.3%）に*NFE2L2*変異を認め、そのほとんどがエクソン２に集中していました。61例のうち、初回手術療法を除く50例においては、奏功した症例が野生型では42例中30例（71.4%）だったのに対し、変異型では８例中２例（25%）と有意に低下しました（p=0.02）。

*NFE2L2*変異症例における治療効果ごとのVAFの平均値は、PR症例では12.6%（6.21-18.9%）に対して、PD症例において34.9%（23.57-54.52%）と有意に上昇していることがわかりました（p=0.03）。また、50例のうち初回化学療法としてDCF療法を行った43例の全生存割合を比較すると、５例の変異例とその他38例では前者が有意に予後不良（p=0.03）であり、前者に関しては全てが２年以内に亡くなっていることがわかりました。無増悪生存率に関しても、変異例の方が有意に低い結果となりました（p<0.0001）。食道癌細胞株においては、11株中４株（36.4%）に*NFE2L2*変異を認め、全薬剤におけるGI50の比較では変異株が野生株に比べて高い結果となりました（p<0.01）。

以上より、食道癌症例における*NFE2L2*変異は化学療法の治療効果を低下させ、予後不良であることを明らかにしました。*NFE2L2*変異の検索は、治療抵抗性の予測を可能にすることが考えられます。

本論文に関しましては、佐々木章教授、岩谷岳教授をはじめ、ご指導ご支援頂きました皆様方に深く感謝いたします。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

有吉　佑

学位論文名：

A novel difficulty scoring system for laparoscopic colorectal cancer surgery for appropriate case selection according to master

掲載雑誌：

Journal of Iwate Medical Association 2023; 75（3）: 81–94

大学院博士課程の学位論文である“A novel difficulty scoring system for laparoscopic colorectal cancer surgery for appropriate case selection according to master”が岩手医学雑誌に掲載されました。

腹腔鏡下大腸癌手術は現在日本で多く施行されておりますが、その手術手技を習得するまでには様々な問題があります。経験の浅い外科医がその手技習得のために適切な症例選択が可能となるよう、手術難易度を予測するスコアリングシステムを構築しました。

当院で2012年から2020年までに施行された1390例の腹腔鏡下大腸癌手術を検討し、解析を行いました。手術難易度の指標には手術時間を用い、手術難易度に関わると思われる項目に対し多変量解析を行うことで、性別、BMI、腫瘍占拠部位の3つの因子によりその手術難易度が決定されることが判明しました。これらに対し線形回帰分析を用いてスコアリングシステムを構築しました。また、検証としてcross validationを行い、その信頼性を評価しました。本スコアリングシステムにより、手術手技習得までの導入期に適切な症例選択が可能になるものと思われます。

本研究において御指導頂きました藤田医科大学先端ロボット・内視鏡手術学講座 大塚幸喜教授、本学外科学講座 八重樫瑞典先生、高清水清治先生、下部消化管グループの先生方、本学数理統計学講座 高橋史朗教授に深く感謝申し上げます。

第34回内視鏡外科フォーラムin盛岡

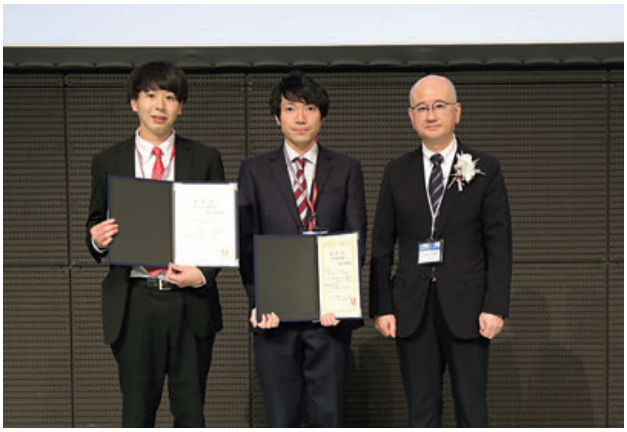
佐々木 章（第34回内視鏡外科フォーラムin盛岡 会長／岩手医科大学医学部外科学講座 教授）

わが国において、内視鏡外科手術は1990年に開始されましたが、開腹や開胸手術に比べて利点が多いことから急速に普及し、外科学は大変革を迎えました。内視鏡外科フォーラムは、1992年４月に徳村弘実先生が第１回学術集会を開催、当初は年２回の開催で東北における内視鏡外科手術の先導の役割を果たしていました。2019年に任意団体内視鏡外科フォーラム（東北）は解散し、特定非営利活動法人内視鏡外科フォーラムとして継承され、30年の歴史があります。2023年に徳村前理事長の後任として、歴史と伝統ある本フォーラムの理事長を仰せつかったことは大変光栄であると同時に、その重責に身の引き締まる思いです。

内視鏡外科手術の技術革新は目覚ましく、現在では多くの診療科で本術式が第一選択となる疾患も多くなりました。さらに現在では、医療用ロボットが手術場に大変革をもたらし、情報技術や遠隔手術も視野に入れて、ロボット支援下手術への転換期を迎えようとしています。ロボット支援下手術は、内視鏡外科手術に熟練したエキスパートにはより精密な手技が可能となり、若手医師に対する手術教育の向上などの利点があると思います。しかしロボットの本体価格や運用・保守費用の課題から、東北地方では導入施設がいまだ少なく、若手医師への教育を行うほどの余裕がないのが現状です。議論すべきことが山積の中で変革期を迎えつつある現状で、安全性を担保しつつ患者へ真の利点を還元できる手技・技術は何か、将来のために今何をすべきかを考えて、東北の内視鏡外科のさらなる発展に貢献していきたいと考えています。

この度、「第34回内視鏡外科フォーラム in 盛岡」を2023年５月20日（土）に盛岡で開催しました。本フォーラムの転換期でもあり、内視鏡外科における新技術の検証や本フォーラムの今後の展望などを議論する場になることを切に願って、テーマは「Rethinking endoscopic surgery: The next step ?」としました。プログラムでは、各領域におけるロボット支援下手術の現状と東北における展望～消化器外科・婦人科・泌尿器科・呼吸器外科～（領域横断シンポジウム）、腹腔鏡下手術の重要性～ロボット手術新時代を見据えて～（スポンサードシンポジウム）、新型4K・3D内視鏡システムとエネルギーデバイスがもたらす 腹腔鏡下手術の新たな可能性（3D放映・4K放映）（スポンサードシンポジウム）、Hybrid RAS～ロボット手術の新時代～（ランチョンセミナー）、ロボット支援手術時代における腹腔鏡下手術の役割（アフタヌーンセミナー）、初期研修医・専攻医優秀演題セッションを企画しました。

ポスト・コロナを感じられるようなフォーラムを目指して現地開催のみとしましたが、盛会のうちに終了することができました。多くの皆様方にご参加いただき、ご協力ご指導いただきましたことを、心より感謝申し上げます。



第29回侵襲とサイトカイン研究会

佐々木 章（第29回侵襲とサイトカイン研究会 会長／岩手医科大学医学部外科学講座 教授）

この度、「第29回侵襲とサイトカイン研究会」を2023年７月６日（木）にシェーンバッハ・サボー（東京）で開催しました。歴史と伝統のある本研究会会長の名誉を賜り、意見交換、新しいアイディアの開発や進歩に貢献することを目的に設立され、2016年から日本外科代謝栄養学会と合同開催しています。今回は、日本外科代謝栄養学会第60回学術集会とアジア代謝栄養学会との合同開催にジョイントして同会場で現地開催となりました。

外科治療、救急、集中治療、麻酔、感染など広い意味での侵襲学に関する基礎研究から臨床研究への発展、研究を研究だけで終わらせず、研究成果の患者還元を目指した発表より議論を深めたいと考え、研究会のテーマは機会を与えいただきました代表世話人の花崎和弘先生、小谷穣治先生と会員の皆様方に心より感謝申し上げます。本研究会は、外科侵襲とサイトカインに関する研究発表、「Bridging the research–patient benefit gap」としました。優秀演題セッション、明日の診療に生かす基礎研究と臨床経験（ワークショップ）、外科手術のパラダイムシフト～低侵襲手術のNext Stage～（スポンサードシンポジウム）、腸内細菌叢と侵襲を科学する（ランチョンセミナー）、最新の医学研究がもたらす新治療戦略（アフタヌーンセミナー）では、熱い議論が交わされていました。

多くの皆様方にご参加いただき、ご協力ご指導いただきましたことを、心より感謝申し上げます。

会長講演　侵襲軽減を目指した外科治療が教えてくれたもの

1988年５月に岩手医科大学外科学第１講座に入局し、卒後６年までは食道良性班と食道悪性班で初期教育を受けた。食道良性班では、食道静脈瘤に対する食道離断術＋術中硬化療法、食道アカラシアに対するfundic patch法、内因性エンドトキシン血症に関する研究、食道悪性班では食道癌に対する食道切除術＋３領域リンパ節郭清、手術侵襲下における代謝栄養・循環動態・免疫に関する研究が中心であった。外科医として研鑽を積みながら、1988年11月に「消化器手術後のエンドトキシン偽陽性物質についての検討」（岩手のエンドトキシン研究会）というテーマで、侵襲学を勉強しながら初めての学術発表を行った。高侵襲外科治療を中心とした教育を受ける中、1995年には内視鏡外科班長となり、消化器外科・内分泌代謝疾患に対する内視鏡外科手術の導入と後進への教育を行ってきた。専門領域を持たずに、患者へ真の利点を還元できる外科治療は何であるかを考えて内視鏡外科一筋に歩んできたが、内視鏡外科を継続しようと思う大きな出来事があった。1998年には、故･大上正裕先生が開発された前胸部アプローチによる内視鏡下甲状腺切除術を開始し、本術式の長期的成績を報告した「Endoscopic thyroidectomy by the breast approach: single institution's 9-year experience」で日本内視鏡外科学会第１回大上賞を受賞した。本術式は、長期的にも開創手術で認められる術後の頸部愁訴を軽減でき、甲状腺良性疾患に対して安全で患者の整容的な満足度が高い術式と結論した。2008年には、高度肥満症に対して腹腔鏡下スリーブ状胃切除術（LSG）を開始した。LSGの良好な減量成績、２型糖尿病に対する高い寛解率と寛解予測因子を報告してきたが、最近では、非アルコール性脂肪性肝炎に対するLSG後の肝線維化消失例も観察でき、改善機序を検討している。本講演では、侵襲軽減を目指した外科治療が教えてくれたものについて概説する。

日本消化器病学会東北支部第216回例会

新田 浩幸（日本消化器病学会東北支部第216回例会 会長／岩手医科大学医学部外科学講座 教授）

第216回日本消化器病学会東北支部例会を2024年２月３日（土）にフォレスト仙台で開催させていただきました。454名の参加と多くの企業の協賛をいただき、若手医師からのすばらしい発表と活発な討論により有意義な会となりましたことを報告させて頂きます。また、同門の先生には多くのご寄付を頂いたことを改めて感謝申し上げます。

感 謝 状

新田 浩幸 殿

あなたは 一般財団法人 日本消化器病学会 東北支部 第 216 回例会の大会長として学会の発展に尽力されました
よってここに感謝状を贈り心から感謝の意を表します

令 和 6 年 2 月 3 日

一般財団法人日本消化器病学会東北支部
支部長 海 野 倫 明

片桐

日本消化器病学会東北支部 第216回例会

日本消化器病学会東北支部 第216回例会
演者
司会

海外学会報告

The 36th Congress of the Pan-Pacific Surgical Association Japan Chapter（第36回環太平洋外科系学会 日本支部会学術大会）

棚橋 洋太

2016年９月９日から３日間、The 36rd Congress of the Pan-Pacific Surgical Association Japan Chapter（PPSA JC）に参加させていただきました。本年度はHawaii（Honolulu）が開催地となっており、自分にとって初めての海外発表・英語発表であり、貴重な経験をすることができました。

海外で発表をするということは言語・知識の面で、様々な視点や幅広い知識が求められ、準備段階から非常に苦労した事を覚えておりますが、準備から発表を通し多くの知識・刺激を得ることができたと感じております。そして、今回の　発表に限りませんが、このような発表の場は自分の視 野・見識を広げ、プレゼンテーションの質を高めるための、非常に有意義な機会であることも実感いたしました。最後になりますが、今回この様な機会を与えて頂き、発表を通じて自分は大きく成長させられたと感じております。多大なる御指導を頂きました先生方、支援を頂きました皆様に心より感謝申し上げます。

菊地 晃司

この度、令和５年８月21日～23日にHonoluluで開催されたThe 36th Congress of the Pan-Pacific Surgical Association Japan Chapterに参加しましたのでご報告させていただきます。

本学会は2020年に開催が予定されていた学会がコロナウイルスの感染拡大の影響で2023年に延期となったものであります。自分自身も2020年に参加予定としておりましたが、初めての海外学会が中止となり落ち込んだことを記憶しております。

今回「Risk-adjusted assessment of learning curve for pure laparoscopic donor hepatectomy for adult recipients」という演題で発表いたしました。本演題は、当教室で先行して取り入れてきた腹腔鏡下ドナー肝切除のラーニングカーブに関す

る論文の内容を報告したものです。腹腔鏡下ドナー肝切除におけるラーニングカーブの報告は、右葉切除または外側区域切除に限定した報告しか存在せず、両葉を含めた報告は今回が初めてになります。これまでにも当教室の先生方が論文で報告し、エビデンスを積み上げて来た領域であり、同テーマを国際学会で発信できたことを大変光栄に思います。

自分自身は英語を話せるわけではないので、発表練習と想定される質問への回答の練習、分からない質問が来たときの回答の練習を繰り返して本番に臨みました。なんとか発表を無事終えることができ、さらにWada Awardという名誉ある賞を受賞することができました。

コロナが収束し、今後海外学会への参加の機会が増えてくるかと思います。学会発表のためのその場しのぎの英語ではなく、本当の意味での英語力を身につける努力をしなければいけないと痛感した学会でした。最後に、佐々木章先生、新田浩幸先生、片桐弘勝先生、梅邑 晃先生をはじめ、研究遂行にご指導いただいた諸先生方、ご協力いただいた皆様方に深く感謝申し上げます。

嶋田 拓明

今回、2023年８月21日～23日にHonolulu, Hawaiiで開催されましたThe 36th congress of Pan-Pacific Surgical Association Japan Chapterに参加させていただきましたのでご報告させていただきます。

本学会では、Case Reportとして「A case of afferent loop obstruction by residual stomach cancer treated by endoscopic drainage and bypass surgery」という演題で発表をさせていただきました。海外での発表、さらに英語での学会発表は初めての経験であり、スライド作成・原稿・質疑応答の回答などに関して準備を進めて参りました。しかし実際の発表になると、用意した質疑応答についての回答をうまく伝えることが出来ず、自身の英語の実力不足・勉強不足を痛感させられました。教室の先輩方や他大学の先生方の発表を拝聴させていただき、年齢や学年に関係なく英語で発表しプレゼンテーションする能力は今後磨いていく必要があることを痛感いたしました。

また、学会終了後にハワイ国際交流セミナー・視察研修に参加させていただき、日本のみならずハワイの病院の様子や診療内容などについて見学をさせていただく事ができ非常に有意義な時間を過ごすことができました。

今回の発表で自身の実力不足を痛感するとともに、今後も学会発表などの学術活動に積極的に取り組んで行きたいという気持ちも強く感じる事ができました。

最後になりますが、今回このような貴重な機会をくださった佐々木教授、梅邑先生、久慈病院の遠野院長、皆川先生、藤井先生、佐々木先生、高橋先生をはじめとした先生方に心より御礼申し上げます。

地域医療支え続け栄誉

県立病院に長年勤務 伊藤達朗・国保葛巻病院長

全国奨励賞に選出

住民との「対話」心がけ

葛巻町の国保葛巻病院の伊藤達朗院長(66)は医療、福祉の向上に貢献した医師を顕彰する第16回地域医療貢献奨励賞(住友生命福祉文化財団主催)に選ばれた。県内各地の赴任先で地域と連携を図り、住民に開かれた病院づくりに尽力。「対話」も心がけ、地域の安心を支えている。

一関市出身の伊藤院長は、地元の桜町中から一関一高を経て、栃木県の自治医大を卒業。1981年の県立宮古病院を皮切りに、医師不足が深刻な沿岸、県北地域で勤務した。

2012年から勤めた県立大船渡病院では、院長として地域医療の復興に力を注いだ。14年度には当時の県立病院で初めて地域包括ケア病棟を開設し、病棟再編を実施。気仙地区の医療、介護、保健、福祉関係者で構成する一般社団法人未来かなえ機構の立ち上げにも携わるなど、東日本大震災から歩み出す被災地に寄り添い続けた。

22年からは国保葛巻病院に勤務。高齢化が進む人口5千人余の地域で、3人の常勤医を中心に奮闘している。「ずっと地域を歩いてきて、やはり住民と話をすることが大事だった。地域、行政、介護、福祉の人らと対話の場をつくること。全ては患者さんのためを考えてのことだ」と変わらぬ情熱を注ぐ。

地域医療貢献奨励賞には伊藤院長を含め全国の6人が選ばれた。本県医師の受賞は4人目。表彰式は3月4日、都内で行われる。

(斉藤大樹)

住民に開かれた病院づくりに力を注ぎ、地域医療貢献奨励賞を受賞した伊藤達朗院長

岩手日報　2023年2月17日掲載

第16回地域医療貢献奨励賞を受けた国保葛巻病院長

伊藤達朗さん(66)

ひと

医の道を歩み40年余。地域との「対話」に力を注ぎ、住民に開かれた病院づくりに奔走した功績が認められた。「これまで一緒に働いてくれたスタッフや家族、いろいろな人たちのおかげ」と表情を緩める。

一関市出身。幼少期に「医者になりたい」と周囲に夢を語り、一関一高卒業後に自治医大(栃木県)に進んだ。学業の傍らラグビー部に所属し、フッカーとして活躍。全国各地から集まった仲間と刺激的な学生生活を送った。

1981年の県立宮古病院を皮切りに沿岸、県北地域を中心に勤務し、長く地域医療に身を投じてきた。東日本大震災が発生した千厩病院長時代は、自身も被災地に足を運んで災禍の現状を確認。近隣病院や沿岸の患者を受け入れるなど、後方支援に力を尽くした。

昨年4月、葛巻町の国保葛巻病院に着任。「自然が豊かで食べ物もおいしい」とくずまきワインもたしなむ。高齢化が進む地域の住民と向き合いながら、気兼ねなく発言できる組織づくりにも心を砕く。

3人の息子は独立。休日は妻が待つ盛岡市の自宅に帰り、山野草を育てたり、ウオーキングをして日々の疲れを癒やす。

(岩手支局・斉藤大樹)

岩手日報　2023年4月4日掲載

教えてセンパイ！ 仕事の現場 6

医師

矢巾・岩手医大　梅邑　晃さん(43)

患者の心に向き合う

矢巾町の岩手医大付属病院で、外科医として働いています。基本的に病院内に常駐して外来診療や手術を行うほか、学生の臨床実習や授業も受け持っています。また、県内の医療法人などでの当直勤務も担っています。

薬を使った治療を主とする内科医に対し、外科医は手術によって患者さんの病を治療します。がんの腫瘍切除や胆のう・胆管にできた胆石の摘出、肝臓の移植など内容は多岐にわたります。また、肥満の方に手術を施して胃を小さくし、体重を減少させて病気の改善につなげる「減量・代謝改善外科」という領域もあります。

外科医が担当する手術は、決して1人で行うことはできません。安全な実施のために医師や看護師などのチームで、一緒に入る先生方やスタッフを信頼して手術に臨んでいます。

医師は人の命に直接関わる仕事。術後に感謝の言葉をいただくこともありますが、手を尽くしても助けることができなかった患者さんもいて、こうした方々のことを心に留めて「二度と同じことがないように」と願いながら業務に当たっています。

患者さんの中には、病気と向き合う恐怖などによって、どうしても治療を受け入れることができない方もいます。そういう場合はこちらから一方的に説明するのではなく、できるだけその人の話に耳を傾け、思いをくむように心がけています。

また、長く病と付き合っていかなければならない方もいて、こうした患者さんには「頑張ってね」と言わないようにしています。もう十分頑張ってもらっているので。

中学生の皆さんには、どんな職業に就くにしても、本当に自分がやりたいことは「無理だ」と思わずに努力してもらいたいと願っています。将来の選択肢を増やすためにも、勉強は大事です。地に足を着けて、自分のできることを着実に積み上げていってもらいたいです。

人工知能（AI）が発達する中で、今後、医療分野ではAIと共存する時代に差しかかってくることが予想されます。医師を志す人は、医学はサイエンス（科学）だということを認識しながら目標に向かっていってほしいと思います。

（談）

（随時掲載）

「できるだけ患者さんの話を聞き、思いをくむようにしている」と語る梅邑晃さん（岩手医大提供）

うめむら・あきら　福島県立安積高―福島県立医大卒。2005年に医師免許取得、医籍登録。同年、医師としての基本的な知識や手技を習得するための臨床研修医として岩手県立胆沢病院に配属。09年岩手医大医学部外科学講座に入局。22年同准教授。福島県郡山市出身、盛岡市在住。

梅邑さん　ある日の業務

午前8時30分	出勤
9時	外来診療
午後0時	昼食を取りながら診断書作成や電子カルテで患者の状態を確認
1時	手術
5時15分	退勤

岩手日報　2023年3月14日掲載

医療ルネサンス　№8036　肥満症の治療　1/5

くらし　家庭

「最後の手」胃を一部切除

「痩せないのは自分の意志が弱いせいだ……」

岩手県内に住むパート女性(40)は、ダイエットに取り組んでは、リバウンドを繰り返した。投げやりになって深夜にスナック菓子を頬張った。仕事は立ち作業が多く、膝が痛んだ。いつも眠く、何をするのもおっくうだった。

そんなとき、胃の約8割を切って小さくする肥満外科手術を紹介するテレビ番組が目に留まった。

これなら痩せられるかも――。2021年春、すがるような思いで、岩手医科大内丸メディカルセンター（盛岡市）の肥満症外科治療センターを受診した。

手術前の写真を見つめながら、「生活が大きく変わりました」と語る女性（盛岡市で）＝画像は一部修整しています

身長1㍍55、体重112㌔で、体重（㌔）を身長（㍍）で2回割った「BMI（体格指数）」は46・6。検査では、糖尿病や高尿酸血症、脂肪肝などの病気が次々と見つかった。特に睡眠時無呼吸症候群は重く、呼吸が1分半止まることもあり、突然死のリスクも指摘された。「高度肥満症ですね。健康に様々な影響が出ています」。岩手医科大教授で外科医の佐々木章さんから告げられた。

「肥満」と「肥満症」は違う。肥満は単に太っているだけだが、BMIが25以上で、糖尿病や高血圧など健康に悪影響が出ていると、「肥満症」という病気になる。BMI35以上だと、高度肥満症と診断される。

治療は、食事の改善や運動療法による減量が基本だが、高度肥満症などでは手術も検討される。胃をバナナ1本分ほど残し、少しの食事でも満腹感を得られるようにする。14年に保険適用された。

女性は21年9月、腹部に4か所の穴を開け、腹腔鏡を使った手術を受けると、直後から食欲が消えた。大好物が目の前にあっても手が伸びず、するすると体重は減り、一時は64㌔に。血液検査の数値が改善し、朝はすっきりと目覚めるようになった。

普通サイズの服でおしゃれができ、外出する機会も増えた。「体が軽く、手術前とは別の人間になったみたい」と、女性は喜びをかみしめる。

だが油断はできない。生活習慣を見直さなければ、体重は再び増加する。岩手医科大など10施設で11～14年に手術した患者322人の追跡調査では、2年後に15％以上体重が減少していない人が約7％に上った。

女性は現在、70㌔前後を維持しているが、3か月に1度、外来に通い、体重が増えないよう、気を引き締める。体重の記録を続け、「手術までしたのだから」と間食を我慢する。

佐々木さんは「手術は最後の手段で、減量のきっかけにすぎない。手術後も適切な食事や運動を続けていくことが大切です」と話す。

（このシリーズは全5回）

読売新聞　2023年6月19日掲載

術後の生活 影響に配慮

病院の実力 ～岩手編184

小児外科

今回は小児外科を取り上げる。患者は新生児から中学生までで、消化器、呼吸器、泌尿器など様々な分野の手術を行う。生殖機能の温存など、子どもの発育や将来を見据えた治療が必要だ。一覧表では、小児外科分野で治療件数が多い、「鼠径（そけい）ヘルニア・陰のう水腫」と「急性虫垂炎」の手術件数などを掲載した。

鼠径ヘルニア・陰のう水腫は、鼠径部の腫れや腹痛などがあれば、早めの受診が必要だ。根治には手術が必要なことが多い。

急性虫垂炎は「右下腹部が痛む」という訴えが特徴だが、幼い子どもは痛みがある場所を正確に伝えることが難しい。普段より元気がない、食欲が落ちたなどの症状にも注意が必要だ。

新生児手術は、生まれつき臓器や体の組織が正常に働いていない患者が多い。産科や麻酔科などと連携して備えるため、実績は専門性の指標となる。

小児外科の専門医になるには、外科専門医などになった後に、小児外科のトレーニングを重ねる必要がある。小児泌尿器科は腎臓や生殖器の病気を取り扱う。

子どもの臓器は未成熟で、手術後も長く続く生活への配慮がいる。大きな試練に直面する心の負担も大きい。保護者は、医師の説明をよく聞き、手術方法やその後の注意点について十分理解しておく必要がある。

「心身に傷残さない」目指す

岩手医科大医学部外科学講座の鈴木信准（のぶよし）教授（49）（小児外科などが専門）に、主な疾患の治療法などについて聞いた。

◇

子どもは体温を失いやすく容体が急変しやすいため、手術中や前後の管理も専門的な知識が必要となる。

手術は、足の付け根の皮膚の下に腸が出てくる「鼠径ヘルニア」や、精巣の近くに液体がたまる「陰のう水腫」などが多い。どちらも通常30分前後で終わり、2泊3日で治療を行う。

手術の傷痕は子どもが一生背負うもの。皮膚のしわに従って切ったり、縫い方を工夫したりして、体にも心にも傷を残さない外科医療を目指している。鼠径ヘルニアの場合、従来の手術法では2センチ程度切開するが、岩手医大付属病院では傷跡が目立ちにくい「極小切開法」（約6ミリ）を採用している。

新生児では、出生時の体重が1000グラム未満の「超低出生体重児」など、専門医のみ対応可能な患者も治療する。出生時体重2000グラム以上の場合は、大人より体が小さく、難易度が高いとされる内視鏡外科手術も積極的に行う。食道閉鎖や十二指腸閉鎖の手術は、東北で唯一、外部から執刀医を招かずに行える。

県内の小児外科専門施設は当院と県立中央病院の2施設で、医療体制は非常に脆弱（ぜいじゃく）。専門医の負担も大きい。

大都市圏と同等の医療が提供できるように、当院では県内で完結する治療や救急医療の充実に力を入れている。また、月に1回、私が沿岸や県北の県立病院などに赴いて小児外科外来を開くなど、県内各地で小児外科医療を受けられる環境の実現を目指している。

小児外科を受診すべきかわからなければ、まずは近くの小児科を受診するのも良い。排便の調子が悪い、食欲がない、よく吐く、呼吸が速いなど、子どもの様子が普段と異なっていないか、小さなサインを見逃さないことも大切だ。（聞き手・高吉友佳）

読売新聞　2023年9月30日掲載

病院の実力「小児外科」
医療機関別2022年治療実績
（読売新聞調べ）

医療機関名	鼠径ヘルニア・陰のう水腫手術（件）	急性虫垂炎手術（件）	新生児の手術（件）	常勤の小児外科専門医（23年6月現在）	常勤の小児泌尿器科専門医（23年6月現在）
岩手					
県立中央	45	19	2	2	0
岩手医大	38	5	27	2	1
見前ファミリーク	0	0	0	1	0
青森					
八戸市立市民	37	5	2	1	0
弘前大	33	2	10	2	0
秋田					
秋田赤十字	5	0	1	1	0
宮城					
東北大	39	5	17	7	0
石巻赤十字	16	13	0	1	0
大崎市民	9	11	11	0	0

「ク」はクリニック

手術支援ロボ 戦力に

県内3病院 高度内視鏡

ダヴィンチを使って内視鏡手術を進める盛岡市立病院の医師ら＝盛岡市本宮（同病院提供）

県内の医療現場で、手術支援ロボットが戦力となっている。高度な内視鏡手術ができる「ダヴィンチ」は実績を重ね、盛岡市本宮の市立病院（加藤章信院長）が今年、県内で3番目に導入。直腸手術に取り入れた。小さな傷口でも精密な手術が可能で、患者と医師双方への負担軽減が期待される。ただ、高額で操作には資格も必要なため、普及には依然課題も多い。

手術台から1㍍離れた場所で、執刀医が3Dモニターをのぞき込む。慎重に操作すると、4本のロボットアームが細やかに動いた。盛岡市の市立病院は30日、機器や操作の様子を報道公開。加藤院長と須藤隆之手術部長、藤原久貴外科第二科長が最新鋭機器の特徴を報道陣に説明した。

アームの先の「鉗子（かんし）」は手首以上の可動域があり、動きにぶれがない。患者の血管や神経を傷つけるリスクを減らし、合併症を防げる。傷口が小さいため出血量も少なく、術後の回復が早まる。従来は医師が立ったまま手術していたが、座ったままで処置が可能になり、負担が軽減される。

患者、医師の負担軽減

普及へ費用や資格課題

市立病院は6月に直腸がんの手術を開始。これまで10症例あり、年50症例程度を想定する。手術実績を重ねることで施設の保険適用範囲を広げ、胃がんなどにも活用したい考えだ。購入費は約2億8千万円。維持経費は1症例当たり23万円と見込み、年50症例で1150万円。患者の負担額は従来と同程度で済む。

操作する医師は技術認定医の資格のほか約2カ月のトレーニングでライセンスを取得する必要がある。同病院で唯一ライセンスを持つ藤原医師は「最善の動かし方を模索したい」と今後を見据える。

市立病院によると、ダヴィンチ導入は2013年の岩手医大付属病院（19年に矢巾町移転）、15年の県立胆沢病院（奥州市）に続く。胆沢病院によると、泌尿器科と呼吸器外科、外科で既に約500症例の実績がある。「医師のモチベーション維持、医療の質の向上」をメリットとしている。機器の更新には多額の費用を要する見込みだ。

県医療局によると、今後の導入は各病院からの要望や県保健医療計画などを踏まえて検討する。同局業務支援課の千葉直樹総括課長は「メリットは大きいが導入・維持管理費は限られた予算では難しく、医療従事者のトレーニングも必要。地域のニーズなども踏まえながら考えたい」と話す。

岩手日報　2023年10月31日掲載

望むケア 価値観共有を

県医師会 県 盛岡で「人生会議」講座

人生の最期に望む医療やケアなどを事前に関係者と話し合っておく「人生会議（ＡＣＰ）」の県民公開講座が23日、盛岡市で開かれた。岩手医大緩和医療学科の木村祐輔特任教授が講演し「将来に対する考えや価値観を共有することを目標にしてほしい」と説いた。

県医師会と県が主催。約250人が聴講した。ＡＣＰに関する県民会議の議長を務める木村特任教授は「大勢の高齢者が持つ多様な価値観を尊重し、一人一人に対応するための方策として導入が進められた。延命措置をするかどうかを主な目標にしないでほしい」と説明した。

人生の最期を考えるのは患者や家族にとってつらい体験になる可能性があるほか、高齢者や障害者ら弱い立場の人が「治療を続けたい」と遠慮なく言えるよう留意する必要があると指摘。「話し合いをしたい人のために、それを支える人や場所の準備を進めていく。安心、安全なＡＣＰがどうあるべきか考えていきたい」と述べた。

同会の久保田公宜常任理事は、ＡＣＰで活用できる「わたしの『生きる』ノート」について紹介。碧祥寺（西和賀町）の太田宣承住職が「一人十色の死生観」と題して特別講演した。

ＡＣＰはアドバンス・ケア・プランニングの略。認知症や体調悪化で意思決定ができなくなると、望む医療を受けられなくなる恐れがあるとして、厚生労働省が人生会議の愛称で普及に取り組んでいる。

「ＡＣＰについて一緒に考えてみませんか」と題して講演する木村祐輔特任教授

岩手日報　2023年11月24日掲載

へき地医療貢献者表彰

葛西院長（県立軽米病院）が栄誉

表彰を受ける県立軽米病院の葛西敏史院長（右）

県立軽米病院の葛西敏史院長(62)は本年度のへき地医療貢献者表彰を受けた。27日に県庁で伝達式が行われ、達増知事から賞状を受け取った。

外科医の葛西院長は、幼少期を過ごした軽米町の同病院に1997年着任。以来26年にわたり、二戸地域の2次医療圏の地域医療活動に尽力している。

2022年4月に院長に就任し、医療と介護の円滑な連携体制の構築に努め、地域包括ケアシステムの維持・向上の中心的な役割を果たしている。人材育成を重視し、地域の広報紙や病院ホームページで積極的な情報発信も行う。

葛西院長は「無理せずに微力ながらも地域医療のためにお手伝いしていきたい」と抱負を述べた。

同表彰は全国自治体病院開設者協議会などが行う。1981年度の開始以降、本県で表彰を受けたのは48人目。

岩手日報　2023年11月28日掲載

体に優しい内視鏡外科手術とは

には腹腔鏡（ふくくうきょう）下手術、心臓や肺など胸部の場合には胸腔鏡（きょうくうきょう）下手術と呼ばれます。

内視鏡外科手術は、テレビと同じように平面の画像を見ながら、臓器を触れる感覚もない中で手術を行うので、従来の手術法に比べて手術が難しくなります。しかしカメラの拡大視により、目では見えないような神経や血管が確認でき、繊細な手術が可能で出血量を減らすことができます。傷跡は小さく、術後の痛みも少ないことから回復が早く、早期の社会復帰が可能など、利点が多い手術法です。

日本内視鏡外科学会のアンケートによると、内視鏡外科手術は腹部外科、減量・代謝外科、小児外科、呼吸器外科、乳腺・甲状腺外科、心臓血管外科、産婦人科、泌尿器科、整形外科、形成外科領域など多くの領域で適応が拡がっています。わが国において、1990年から2021年までに合計3,651,935例の内視鏡外科手術が報告され、近年では早期がんのみならず、進行がんに対しても行われています。

最近では、高画質なカメラやモニターの開発、手術の評価・教育に対する人工知能の活用やロボットを使用したロボット支援下手術の導入が始まっています。この40年間で外科学は大きく変わりましたが、今後さらなる新しい内視鏡外科手術が開発され、患者さんへの負担が少ない体に優しい手術（低侵襲手術）が普及していくことが考えられます。

岩手日報　2023年12月24日掲載

ひと

へき地医療貢献者表彰を受けた軽米病院長

葛西敏史（かさい としふみ）さん（62）

外科医として26年にわたり二戸圏域の医療を支えた活動が評価された。「長く務めたからだろうか」と謙虚に受け止めつつ「将来の地域医療を守りたい」と決意を新たにする。

「地元で生まれ育った人材が、その地域を支えることが重要」と語るように、幼少期を軽米町で過ごした。医師だった父や祖父の背中を見て育ち「勧められたわけではない」が医師を志して、盛岡一高を経て岩手医大に進んだ。

「手術ができることにやりがいを感じ、気づけば26年が経っていた」。昨年4月、院長に就任。ハラスメント目安箱を置くなど気持ちよく働ける職場づくりから始めた。町広報誌や病院ホームページで、医療職に就くための進路や奨学金制度を紹介し人材育成にも力を入れる。

スキーは指導員を務める腕前で、冬季は週1日ほど奥中山高原スキー場へ。ドクターパトロールも兼ね、雪山で心肺蘇生をしながらドクターヘリを呼んだ経験もある。

自宅は盛岡市で妻、高校生の長男と長女、中学生の次男の5人家族。6年前から単身赴任だが、休日は自宅に帰り、子どもの部活や塾の送迎など家族の役割にも精を出す。

（二戸支局・平賀百香）

岩手日報　2023年12月20日掲載

岩手医科大学医学部 外科学講座

佐々木 章 教授

手術は、患者さんに人為的に外傷を負わせることから、時間が短い小さな手術でも体に負担がかかります。今までは、お腹や胸に大きな傷（手術創）を加え、手術を行ってきました。これに対して、1980年代から始まった内視鏡外科手術は、体に3～15㎜程度の小さな孔を数か所あけ、体内に二酸化炭素を入れて手術操作スペースを作ります。体内にカメラ（内視鏡）を入れて、映し出されたモニターを確認しながら、小さな孔から入れた棒状の細長い器具で手術を行います。この方法は、胃や大腸に内視鏡を入れて、消化管内腔の観察やポリープを採るような内科的処置とは異なります。手術する部位が腹部の場合

May 5

第34回内視鏡外科フォーラムin盛岡（2023.5.20）

June 6

巌刀会（2023.6.3）

July 7

第29回侵襲とサイトカイン研究会（2023.7.6）

December 12

巌刀会 忘年会（2023.12.2）

クリスマス（2023.12.23）

December 12

Iwate Prefectural Ninohe Hospital

岩手県立二戸病院

2023年度の岩手県立二戸病院の近況をご報告申し上げます。年度変わりに佐々木教之先生が異動され、外科医師が１人減員となりました。他は変わらず御供（副院長兼感染管理室長）、松井雄介先生（外科長兼災害医療科長）、石井勇吾先生（外科医長）の３人体制で診療にあたっております。

前年度同様、外来診療応援は、新田浩幸教授、木村祐輔教授（緩和ケア外来）、鈴木信准教授（小児外科外来）、石田和茂先生（乳腺外来）、遠藤史隆先生（臨床腫瘍科外来）、手術応援は武田大樹先生に、今年度から毎週木曜日に佐々木教之先生に外来をお手伝いいただいております。また毎週木曜日の山田裕彦先生（高度救命センター准教授）外来は大学退職に伴い終了となりました。26年間と長期にわたり当院の外来診療をしていただき大変お世話になりました。当科からは引き続き松井先生が毎週水曜日に大学外来応援に行っております。医局の先生方には度重なるご支援賜りまして誠に有難うございます。

2023年の手術件数は全手術数279件でした（前年度304件）。全身麻酔手術数248件（274）、鏡視下手術数104件（116）、緊急手術数は33件（27）でした。前年度と比較しますと、全手術数が25件減少しました。外科含む３西病棟での大規模な新型コロナウィルスによるクラスター発生に伴い手術制限がかかり、２月は全身麻酔下手術が５件のみでした。それ以外の時期も手術制限がかかった時期があり、件数減少の要因になっていると思われます。

３月まで当科に在籍していた佐々木教之先生は、当院での症例報告を英文誌（Int J Surg Case Rep.）に載せるなど関連病院にいてもモチベーションが高く、大学大腸グループへ戻りましたが今後一層の活躍に期待しております。松井先生は岩手県に10人しかいない乳腺専門医を持っております。乳癌ほぼ全症例を担当してもらっておりますが、消化器疾患の担当も多く、オールラウンドプレーヤーとして幅広く腕を振るってもらっておりとても頼りになる存在です。石井先生は卒後５年目（当院は２年目）になりましたが、胆石症、ヘルニア、虫垂炎はもちろん、最近では大腸癌や胃癌手術の執刀も増えており、メキメキ成長しております。TAPPも手術応援に来てもらっている武田先生の熱い指導の下、だいぶ進化を遂げているようです。

４月からはいよいよ医師働き方改革がスタートするわけでありますが、当院では昨年４月から資格を取得した診療看護師（NP:Nurse Practitioner）が外科医１人減員に伴い、まずは１年間の研修期間ということで当科に配置されています。そのおかげもあってさまざまな場面でタスクシフティングが可能になっており、今のところなんとか業務を縮小せずに維持できております。岩手県では２人目、県立病院では初の試みとなります。岩手県は人口10万人あたりの医師数が少ない県でワースト５位であり、このような医師不足の地域でこそNPのような職種が増えてくれることを願っております。写真はIBC岩手放送のNP報道特別番組取材時のものです。（右から２番目はNPの川上憂記看護師、右から３番目はIBC岩手放送の奥村奈穂美アナウンサー）2024年３月30日（土）25：28～25：58 IBCテレビ「いわて見聞録」※YouTubeにて放送アーカイブ 公開期間：６ヶ月まで

各地域で人口減少が進んでおりますが、当圏域も例外でなく二戸市だけでもこの10年間で約4500人の人口減少がみられており今後はさらに加速すると予想されております。また圏域の医師確保において難航している施設もみられており、地域における医師不足も深刻な問題となりつつあります。これからの地域医療は診療縮小や集約化へ向かっていかざるを得ないのか、ICTを活用したオンライン診療などを導入していくのか、遠からず検討しなければならない事項が次々に出てくると思われます。いろいろな問題を抱えながら診療に携わっていくことになると思いますが、地域の皆様が安心して暮らせることを一番に考えて、来年度もこの地域の医療に力を注いでいきたいと思っております。　（文責：御供真吾）

Iwate Prefectural Karumai Hospital

岩手県立軽米病院

令和５年度の軽米病院の近況報告をさせていただきます。

外科医局からの応援は水曜から木曜にかけて川島先生、木村先生、口田先生がいらしてくれて、週末の土・日には岩佐先生、大塚先生、畑中先生、佐々木先生、岩崎先生、菅野先生、天野先生など大勢の先生方が手伝いに来てくれています。皆さんのおかげで、軽米病院はいつも助かっております。有り難うございます。

コロナも５類になり、対面での飲食も許可されるようになったおかげで、今年の巌刀会では懐かしい面々とお会いでき

て、久しぶりに皆さんとゆっくり飲むことができました。引き続きこうありたいですね。

さて、当院に求められている役目とすれば、軽米町・九戸村を中心とした地元の一次救急、県北の慢性期医療を支えることです。しかし二戸圏域は岩手県の中でも最も人口減少が進む予測で、あと十数年で人口が半減するとのこと。これでは病院のみならず、市町村自体の存続が危ぶまれます。

当院も、二戸・久慈などから多数の転院を受け入れてはいますが、毎月十名以上の死亡退院がございます。それゆえ病床稼働率がすぐに下がってしまい、地域病院としては頑張っている方ですが、今後の病棟のあり方などは悩ましいところです。また、ACP症例には事欠かないものの、急性期医療の機会が少ないため、若い医師たちには魅力的とは言えないかもしれません。しかし、専門医も少ないなかで自分が総合的に考えることや、患者・家族に寄り添いながら今後を見据えるという時間は決して無駄とは思いませんので、地域医療研修で是非当院も選択肢に入れていただけると幸いです。

※秋祭り風景。玄関前のATMは12月29日終了。岩手銀行さんからの連絡では、県立病院のATMは一部以外なくなる予定のようです。

別稿でも述べましたが、今年、「令和５年度へきち医療貢献者表彰」を受賞させていただきました。これに慢心せず、これからも地域に根差した医療・介護を大事にしていきたいと考えています。

軽米町は確かに僻地ではありますが、八戸市にも近く、緑豊かな街です。どうかこれからも軽米病院をよろしくお願いいたします。

（文責：葛西敏史）

Iwate Prefectural Kuji Hospital

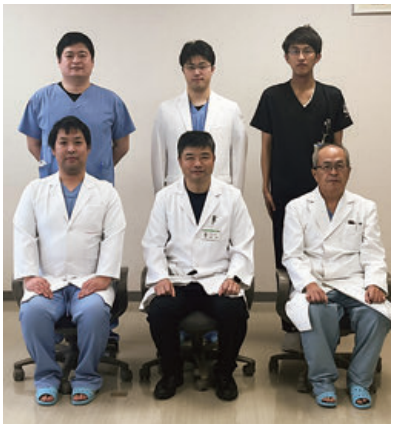
岩手県立久慈病院

令和５年度の久慈病院の近況報告をさせていただきます。

令和５年度は前年度から引き続きのスタッフとして、院長遠野千尋先生、藤井仁志、佐々木秀策先生の３名と岩手医科大学より高橋眞人先生、当院の初期研修研修を終了した嶋田拓明先生が着任され、皆川幸洋　救急センター長を加えた６名で診療にあたっております。高橋先生は久慈病院で初期研修を行なっており、４年ぶりに久慈での勤務となりました。

外来診療には、小児外科外来に鈴木信准教授、乳腺外来に石田和茂先生、臨床腫瘍科として岩谷岳教授が毎月１回の応援診療に来て頂いております。手術応援には、佐々木章教授、新田浩幸教授、秋山有史准教授、片桐弘勝准教授に来て頂き手術の指導をして頂きました。また10月まで週末の当直として、安藤太郎先生に毎月１回の応援に来ていただいておりました。今年も医大医局からたくさんの先生を派遣していただき大変感謝しております。

令和５年の手術件数は全手術件数327件（前年度339件）、全身麻酔下手術数 273件（285件）、鏡視下手術数150件（145件）、緊急手術数40件（57件）でした。新型コロナウイルス感染症の影響で、若干の診療体制の抑制があり、昨年度に比べて手術件数は減少してしまいましたが、鏡視下手術が増加しております。また、今年度から医師の働き方改革の一環として、臨床工学士による腹腔鏡手術における腹腔鏡の保持・操作のタスクシフトを開始しました。今後更なる活用をすることで医師の負担軽減や手術件数の増加などに結びつけばと考えております。



今年の話題としては、高橋先生が消化器外科専門医を取得しました。また、嶋田先生が２月に、高橋先生が９月にそれぞれ結婚をされ、幸せな報告が続いております。

また今年度から脳神経外科の撤退があり、脳出血やくも膜下出血の転院後の入院も外科で担当することとなりました。外科としての業務はもちろんのこと外科以外の業務も数多く行なっておりますが、今後も全員で協力しながら診療を行なっていきたいと考えております。

今年は新型コロナウイルス感染症も落ち着きをみせ、各々が学会などにも現地参加することができました。今後も学術活動なども活発に行なっていきたいと考えております。

当院は盛岡から２時間以上かかる遠方の病院でありますが、医療の均てん化や新しいことへのチャレンジ精神を持ちながら地域のニーズ・個々の病態に応じられるよう日々の診療を行なって行きたいと思います。

来年度も引き続きスタッフ一丸となって、久慈市、洋野町、野田村、普代村からなる医療圏のニーズに外科診療で貢献していきたいと思います。

今後とも医局先生方、関連病院の先生方のご指導・ご鞭撻、ご支援の程、何卒よろしく願い申し上げます。

（文責：藤井仁志）

Morioka Japanese Red Cross Hospital

盛岡赤十字病院

巌刀会の先生方におかれましては、平素より格別の御高配を賜り、誠に有難うございます。

2023年度の盛岡赤十字病院の近況報告を致します。

長年当院で御尽力頂いた杉村好彦先生が退職され、加藤久仁之先生が開業されたため、新規体制で開始となりました。

今年度は、大山健一、西成悠、佐々木智子、下沖美里、對馬真緒の５人体制に始まり、佐々木の産休と育休で７月から４人体制で行いました。例年通り、小児外科領域は緩和ケア科と併科し畠山元先生が診療及び指導的立場、小林めぐみ先生にも月２回の診療応援・手術応援をして頂いております。

当院の本年度の手術件数は、全身麻酔件数が432件（前年484件）、腹腔鏡手術件数は342件（前年356件）でありました。全身麻酔件数はやや減少しましたが腹腔鏡下手術はほぼ維持できている状況でした。

水曜日は加藤久仁之先生が手術応援をして頂き、我々の代わりに若手外科医への手術指導を懇切丁寧にして頂き、以前の狂犬が影を完全に潜め、御釈迦様の様な対応となり衝撃を受けました。外科医の本質は見て学ぶ、技術を盗むのが根底にあるとは思いますが、令和の時代であるため、それを言わずでは指導にならず、言葉で説明し指導をする難しさを感じました。

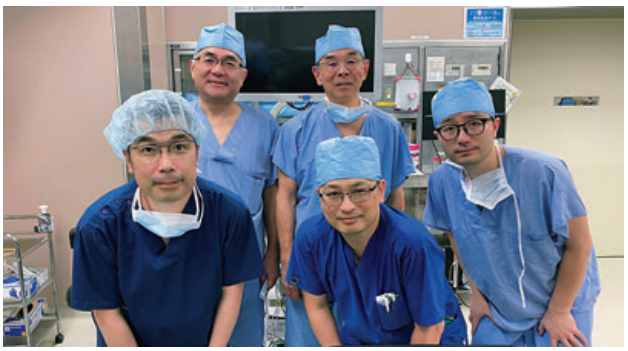
近年の女性外科医の増加に伴い、当院も女性外科医が半数を占める状況での指導となりました。いずれの先生も若手のため、まずは一般外科としての胆嚢摘出、鼠径ヘルニア、虫垂炎が中心となり腹腔鏡手術に尽力を割いてもらいました。下沖は厳しい指導下でも食らいついてもらい、順当に手術件数を重ね、現時点で医師５年目としては腹腔鏡手術のクオリティは保てている状態にあります。對馬は乳腺外科希望との事もあり、医師４年目でしたが岩手医大乳腺グループの石田和茂先生に大学で、週２回専門外来と手術指導と御指導して頂き、現在当院の乳癌患者の新規手術の６割強を担当させる事が出来ました。

結婚・出産適齢期の女性外科医の手術指導などの教育問題は、岩手県全体の外科医不足の現状から、どの関連施設でも今後対応せざるを得ない問題であり、当院も他施設よりも女性外科医が多い現状でありましたが、特に問題なく指導をしております。令和になったこの御時世にも合わせ、今後も手術指導に邁進したいと思っております。同門の先生方の御指導，御鞭撻の程，今後も宜しくお願い致します。

（文責：西成　悠）

Morioka Municipal Hospital

盛岡市立病院



令和５年度は、須藤隆之（昭和63年岩手医大卒）、藤原久貴先生（平成10年岩手医大卒）と令和３年10月より東京山手メディカルセンターから松尾鉄平先生（平成17年岩手医大卒）、令和５年４月より県立宮古病院から瀬川武紀先生（平成25年秋田大学卒）、令和５年６月より県立中部病院より直島君成先生（平成15年奈良県立医大卒）に勤務頂き計５名で診療を行いました。令和５年12月で松尾医師が退職され、令和６年１月より盛岡市みたけに松尾医院を新規開業されました。肛門疾患を中心に腕を振るわれます。６月21日に、藤田医科大学の大塚幸喜教授をプロクターとして当院にお招きして藤原先生を中心として、手術支援ロボット　da Vinci Xiを用いた直腸癌の低位前方切除術の第１例目を経験することが出来ました。その後、直腸癌に対するロボット支援下低位前方切除術、直腸切断術を12月現在で11例経験することが出来ました。手術支援ロボットda Vinciは、岩手医大、岩手県立胆沢病院に次いで岩手県で３台目の導入です。令和５年度の消化器外科領域のロボット支援下手術は、食道癌、胃癌、結腸癌、直腸癌、膵頭部癌、膵体部癌にて保険適応が認められております。今後も医局

と連携してロボット支援下手術件数を増やしていきたいと思っております。

令和５年の全身麻酔手術は636件と令和４年の679件に比べて減少してしまいました。昨年に比べて今年は、新型コロナ感染症による入院規制と手術規制の期間がより長く厳しかったせいであったと思われます。11月より手術室の使用規制が緩和され、徐々に手術件数が戻りつつあります。来年こそは、念願の全麻手術700件越えを目指して頑張りたいと思います。令和５年の腹腔鏡下手術（ロボット支援下手術を含む）は、492件で腹腔鏡下手術率は77.4％（492／636件）でした。

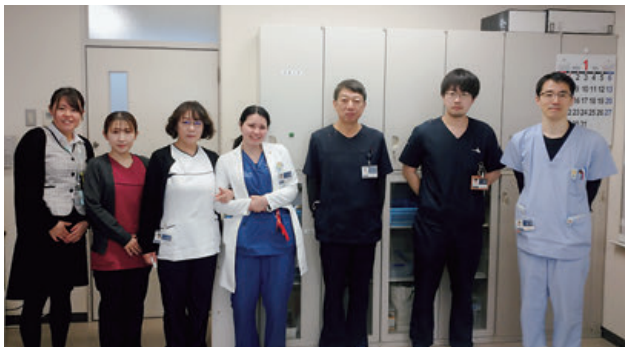
当科の恒例行事でありましたキッズセミナーは、13回目の予定でありましたがコロナ禍で４年連続中止せざるを得ませんでした。

当院は、昨年度初めて２名の臨床研修医を迎え、今年度は４名の研修医を迎えることが出来ました。

当科は、ほぼ毎日全身麻酔手術を午前中から開始して、３－４件／日と多忙でありますが、今後も中規模病院の機動性の良さを生かした医療、岩手医大外科の支援病院としての使命を果たしていく所存でおります。紹介患者は、待機手術、緊急手術を問わず必ず直ぐに引き受けますのでお気軽にお電話いただければ幸いです。今後もご指導よろしくお願いいたします。　（文責：須藤隆之）

Iwate Prefectural Kamaishi Hospital

岩手県立釜石病院



令和５年度　岩手県立釜石病院の診療状況を報告させていただきます。

外科スタッフは、院長　坂下伸夫先生、 副院長兼外科長　箱崎将規、外科医長　田金恵先生、外科医師　小泉優香先生の常勤医４名で４月より診療にあたりました。

10月より木村拓先生に３か月ですが勤務いただいております。

外来診療は、昨年同様に一般診察は、２名体制で行い、専門外来は、月１度の食道専門外来　臨床腫瘍科　岩谷岳先生、乳腺外来は県立中央病院から、診療応援をいただいております。

水曜日には例年同様に県立大槌病院　院長　石川徹先生に、診察、手術指導いただき、医局の先生方にも、月、火、金の午後の手術応援をいただいております。

週末の当直、救急対応も応援もいただき、若手常勤医が少ない中で大変助けられております。

また、専門疾患について、各グループの先生方に手術指導や診療方針のアドバイス等ご教示いただき当院での治療につなげております。

癌化学療法、人工肛門管理、創傷処置、緩和ケア、嚥下障害、放射線治療など、認定看護師スタッフとの協力も必要不可欠で、みんなで日常診療にあたっております。

医療クラークさんたちにも、外来診察時の業務や診断書などさまざまな面で協力いただいております。

手術においては、釜石地域の人口減少などもあってか、年々やや減少傾向あります。手術件数210件施行し、うち全身麻酔は175件でした。緊急手術12件、 鏡視下手術95件でした。大腸、胃、乳房、胆嚢、ヘルニア、虫垂、甲状腺手術が疾患の中心となっております。

田金先生は、子育てをしながらの日常業務にて大変だったと思われますが、その中でも、外来業務や、緊急対応、また手術も、大腸癌における腹腔鏡下手術や胆嚢摘出術、ヘルニア手術等執刀いただきました。

小泉先生は、大学院でのResearchを終えて、釜石で本格的な実臨床経験の開始となりました。当初は、外来や手術も不安と緊張の連続だったと思われますが、１年の経験を通じ手術や外科処置において上達が感じられます。

2020年から続くコロナ禍の影響も未だに続いており、今年度は病棟ロックダウンも経験しました。予定手術の延期や、入院制限を余儀なくされた中での診療を続けていく大変さを経験し、改めて地域でのコロナ診療と日常診療を同時に行う難しさを考えさせられました。

今後も地域のニーズに答えられるようにスタッフ一同で診療に臨んでいきたいと思います。

これからもよろしくお願いします。

（文責：箱崎将規）

Iwate Prefectural Miyako Hospital

岩手県立宮古病院

令和５年度は、日本国中が、コロナウィルスの蔓延による停滞から起き上がろうとしているところから始まります。とはいうものの、病院内のあちらこちらからコロナウィルス感染の患者が発生（水際対策は実施しておりましたが）し、その都度、病院機能が部分的にストップしながら、経過していきました。そのようななかでも、徐々にではありますが、人の移動も回復し始め、５月のGW明けには、感染症法上、コロナウィルス感染症も第５類へ移行し、世の中も以前の状態にほぼ戻り、私も、６月には、約３年７か月ぶりに、東京への学会出張に出かけました。

当院は、川村英伸院長先生、私（藤社勉、副院長兼感染管理室長兼第一外科長兼緩和医療科長）、細井信之先生（第二外科長、済生会北上病院から異動）、中村侑哉先生（外科医長、岩手県立久慈病院から異動）、そして、今年度も国立国際医療研究センター外科から宮本将秀先生（外科医師）の５人で外科診療を行っております。また、昨年度まで、当院副院長として、外科診療、病院運営を引っ張ってこられた阿部薫先生は、岩手県立山田病院院長に就任されました。さらに、岩手医科大学からの診療応援は、鈴木信准教授（小児外科外来）、石田和茂先生（乳腺外科外来）、火曜日の外来応援に安藤太郎先生、火曜日の当直応援に琴畑洋介先生、大塚観喜先生、岩崎崇文先生、佐々木教之先生、菅野正紀先生、水曜日の外来応援には、藤澤良介先生、熊谷秀基先生に来ていただいております。また、４月26日に、秋山有史准教授の腹腔鏡補助下幽門側胃切除術、６月13日に、新田浩幸教授の腹腔鏡下肝左葉切除術、10月12日には、佐々木章教授の腹腔鏡下胆嚢摘出術の手術応援、指導のため、宮古病院に来ていただきました。患者さんはもとより、当院スタッフも、貴重な手術に参加することができ、本当に感謝しております。

岩手県の医師不足、医師偏在が、解決、改善されないまま、高齢化率の増加、人口減少が進み、医師の働き方改革の影響もあって、沿岸部においては、その傾向はより顕著、深刻であります。岩手県は、令和６年４月からの第８次医療計画の策定を目指し、新たに「がん」、「脳卒中」、「脳血管疾患」の３つの疾患に対して、新医療圏域を設定することを協議し、専門人材や医療機器の配置を重点的に進めていく方針とのことです。要するにこれまでの２次医療圏が３次医療圏の広さになり、医療設備、人材を集約化するわけです。宮古地域も盛岡地域の医療圏へ部分的に加わることになります。現場では、もう何年も前から２次医療圏内で、対応できない疾患が増加し、自ずと盛岡方面への紹介受診、救急搬送の場面が増加してきておりました。宮古盛岡横断道路（令和３年３月完成した新しい国道106号）が出来たとはいえ、住民の負担、医療者の様々な負担は、増えていきます。

当院も、平成４年６月に現在の場所に、新築移転してから、32年となり、院内の様々な機能がだいぶ時代遅れとなっているため、令和６年度より、改修工事が開始となります。新築移転とは異なり、一部の病棟を工事しながら診療も実施していくことになり、なかなか難しい状況が予想されますが、現在そして今後20年程度未来の医療状況に対応できるようになってくれるものと大いに期待しております。手術室も部屋数減で、部屋は広くなる予定のようですので。

最後に、当院の外科スタッフへ。本来ならば、消化器一般外科領域で大いに実力を発揮してもらいたいところではありますが、医師不足の中核病院で、各科の常勤医師もいないところもあり、呼吸器科領域、耳鼻咽喉科領域、様々な外傷、整形外科領域、内科領域、そして、全身麻酔（今年度から常勤麻酔科医の先生が赴任したため、普段の全身麻酔をしなくてもよくなりましたが）まで、様々な患者さんを担当してもらい、非常に感謝しております。これからも体も心も健康を維持しながら、頑張っていきましょう。

（文責：藤社　勉）

Iwate Prefectural Senmaya Hospital

岩手県立千厩病院

2023年４月から、川島到真先生から伊藤浩平先生に交代となり、佐藤一院長（平成２年卒）塩井義裕（平成13卒）伊藤浩平（平成29卒）の３人体制でスタートしました。

2023年の当院の全手術件数は、全身麻酔手術件数が189件（昨年147件、29％増）、腹腔鏡下手術件数は127件（昨年99件、28％増）でした。腹腔鏡下手術率は67％と昨年（67％）と同等の割合でした。この手術件数の増加は、新型コロナ感染症の収束により、手術室を順調に稼働できたことによります。

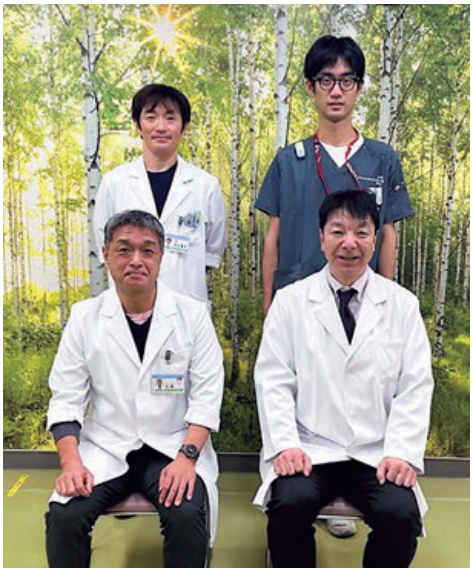
臨床面では、伊藤浩平先生が当院で外科手術症例の研鑽を積み、日本外科学会の専門医の規定手術数をクリアし、外科専門医を取得確定となりました。

学術面では、伊藤浩平先生が日本臨床外科学会で悪性黒色腫の小腸転移の症例を発表し、また特には、川島到真先生の閉鎖孔ヘルニア・内視鏡外科手術に関する英文原著論文が見事アクセプトされました。

岩手医科大学からは、佐々木章教授に伊藤浩平先生の手術指導をしていただきました。新田浩幸教授にはPpPDや肝切除などを執刀していただき、肥田圭介教授には腹腔鏡下胃切除術を手術指導していただきました。また、診療応援いただきました西成尚人院長先生、下沖収教授、西塚哲教授、小原眞院長先生、松谷英樹先生、藤井大和先生、大学の若手の先生方には大変お世話になりました。

2023年は龍年、岩手医科大学外科学講座と岩手県立千厩病院・総合診療外科がさらなる飛躍ができるよう頑張りますので今後ともご指導ご支援をよろしくお願いいたします。

（文責：塩井義裕）



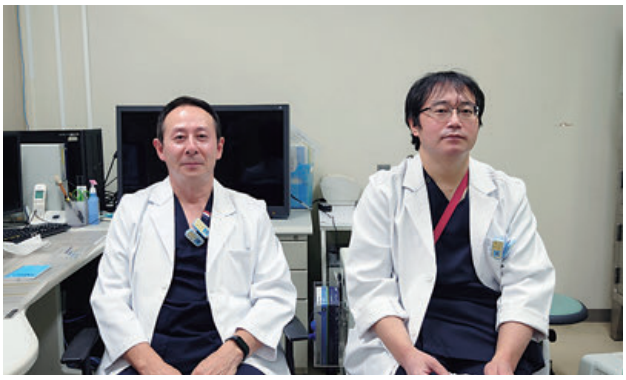
※写真は、佐藤一院長先生、下沖収教授、塩井義裕、伊藤浩平先生の４人です。

Iwate Prefectual Esashi Hospital

岩手県立江刺病院

巌刀会の先生方におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。当院の近況を御報告申し上げます。

今年度も昨年度に引き続き私 川村と石黒副院長の二人体制で診療を行ってきました。さらに石黒先生には北上済生会病院の診療応援（外来・手術）もあり、当院との“二刀流”で負担を強いる状況となっておりますが、貴院に貢献していることに嬉しく思っております。外来の診療応援には、火曜日に県立紫波診療センターから松尾力先生、水曜日に中部病院の吉田徹院長（いずれも隔週）、金曜日には医大から肥田圭介教授（毎週）に来ていただいております。木曜の午後からの当直、隔週月曜日の当直及び土・日の当直応援には複数の先生方〔天野（総）、天野（怜）、岩崎、大塚、川島、菅野、木村、口田、熊谷、高清水、琴畑、武田、馬場、藤澤〕に来て頂いておりました。このように、医師不足の病院においては多くの先生方に支えられていることで負担軽減、「宿日直許可」にも貢献しておりこの場を借りまして医局の皆様方に感謝申し上げる次第です。



当院のこの１年を振り返ってみますと、３月13日に手術室の空調ダクトからの火災が発生し、皆様には御迷惑、ご心配をお掛けしました。幸い職員の迅速な避難対応にて怪我人はありませんでしたが、ダクト清掃・改修工事のため半年以上

手術が出来ない状況となったため当院としては大打撃を受けました。一方、５月８日以前の２年間はコロナ対応で苦慮してきましたが、それ以降は収束したと思えるくらいにコロナ患者は減少したため、診療の負担が軽減され安堵しています。９月には病院機能評価の更新受審（3rdG:Ver.3.0）し、12月８日無事認定されました。

今後高齢者の増加と共に医療と介護の複合ニーズが一層高まり、地域病院においては“治す医療”から“癒し支える医療（健康寿命、生き方・逝き方、ACP）”が中心となります。人口減少下での病院経営は、病院機能分化と連携による共存を図ることが重要で、特に我々のような中小病院がその責務を担うことになります。手術件数は決して多くはありませんが、地域医療構想に準じた病院機能の役割、当院の立ち位置を見極め今後も継続して診療を行っていきたいと思っております。医師確保のため県立胆沢病院から奨学金養成医師（消化器内科）のローテート勤務により病院の活性化が図られており、これこそ地域医療連携の一役を担っているものと感じております。

さて、数年前から県立病院では処遇も含め定年退職後の医師の働き方に関する検討が行われております。あと数年で定年退職を迎える私にとって１つの転帰になると思い以前から感じていたことを述べてみたいと思います。ある医師から相談を受けたことで今回の投稿の後押しにもなりました。若い先生方にはピンとこないかもしれませんが何かしらの参考にして頂ければ幸いです。

年齢を重ねていきますと、個人差はあれ気力・体力が徐々に低下してくる（そうでない先生もいると思いますが…）もので、若い頃と同じような仕事量・質、モチベーション維持が難しくなってくるのではないかと思います。特に基幹病院に勤務されている40代50代の先生方におかれましては現在現役でバリバリ仕事をしていても、いつまでも手術が出来るとは限りませんし、後進にも道を譲らなければならぬときが必ず来ます。さてそこでその後の長い人生の中で仕事や生活をどうするのか？ 外科でいえば開業、他病院勤務、緩和医療、訪問診療、行政、施設等各々な道がありますが、近年定年退職を迎える医師が多くなってきていること、医師バンクによる他県からの応募を鑑みれば、今後希望する場所（立ち位置）での勤務ができるかどうか危機感を覚えます。そう思うと内科系に比べあまり潰しがきかぬ外科系（勤務医）は不利であり、何かしら手を打たなければなりません。但し専門ジャンルによっては定年後も続けることは出来ますが、それは一部に留まるに過ぎません。再就職して今のスキルが通用するのか？ 殆どは途中でキャリアチェンジを強いられるかと思います。ちなみに開業の先生方は既に実行していることではあります。これから更に高齢者が多くなることを鑑みればそれに対応（慢性疾患等）できるスキルを得られるよう、少しずつ準備をしておくことをお勧めします。

定年を迎えるということは“仕事の居場所が一旦無くなる”ということで、これは医療職も含めそれ以外の全職種にも言えることです。よって定年後の職場は自ら探さなければならないか、或いは様々な伝手で外部からの勧誘等により新規職場を取得することになります。現在定年を迎える県立病院の医師はそこを勘違いしており問題となっているところです。但し沿岸部や地域病院の医師不足にある病院におかれましてはむしろそのまま勤務延長を強いられており、それが地域貢献の一役を担っているのが現状です。このようなことから今後定年後の就職先は昔と比べ厳しくなることが予想され、県立病院に関しては定年後の常勤規定がさらに狭まることになるでしょう。自分に向いていることは何か、自分のポジションをどこに置くか、最終的に自分らしい働き方・生き方をどう探すのかの問題につながってきそうです。

我々は何の為に生きているのでしょうか？　それは…人生を楽しむため、幸せになるためで、皆それに向かって日々努力・生活しているのです。決して仕事のために生きているのではなく、あくまでも仕事は生きる“手段”に過ぎないのです。我々はその手段に「医学」、突き詰めれば「外科」という道を選んだのです。決して一所懸命に努力し働いておられる先生方を否定するわけではありません。仕事で忙殺されている中でつい忘れがちになる普段の生活を見直してみるきっかけを作ってみてはどうでしょうか。この年報をお読みになられる諸先輩方より「何言ってら！」とお叱りを受ける気がしますが、僅かでも心の片隅にでも留めていただけたらと思います。時代は変わってきているのです。そのために限られた自分の時間を有効に使うこと、釈迦に説法ではありますが、昔から言われているように時間は自分で作るもの、メリハリをつけて仕事をするということです。何を伝えたいのかと言いますと、『働き方改革』はただ単なる目先の時間感覚だけではなく、視点を変えて如何に広い視野で自分の大切な時間を確保し使うかということです。今年４月から医師の働き方改革が実行されるのであればなおさら意識すべきではないかと思います。皆さん各々に紆余曲折の人生がある（あった）と思いますが、最後には「良い人生であった、悔いは無い」と思えるような「思い出」を作ってみてはどうでしょうか？　年齢とともに、やりたいと思っていることができなくなる可能性があります。生き甲斐は人それぞれですので、健康を失わないうちに人生計画を立ててしっかりとお金を有効に使い、今後自分がどうなりたいのか、どうしたいのかを残りの人生を俯瞰して自分が納得いく方向に実行してみること

をお勧めします。以上近々定年を迎える前期高齢者前の１医師のつぶやきでした。近況報告とは全く違うことを記載して申し訳ありません。

それでは皆様の益々のご健勝、ご活躍をお祈りし、来年度も引き続き先生方からのご支援、ご協力を賜りますよう、宜しくお願いいたします。（文責：川村秀司）

Hakodate Goryoukaku Hospital

函館五稜郭病院

函館五稜郭病院の近況を御報告させていただきます。2023年度は高金明典副院長（S62）、小林慎診療部長（弘大 S59）、舩渡治科長（Ｈ７）、木村仁先生（札医 Ｈ６）、米澤仁志先生（Ｈ７）、千葉丈広先生（H15）、川岸涼子先生（H21）、佐藤慧先生（H21）、藤野紘貴先生（札医 H27）、村松里沙先生（札医 H30）石村陸先生（札医 Ｒ３）と木村聡元（H14）の12名で診療を行っております。

新型コロナウイルス感染症の影響にてここ数年症例数が減少しておりましたが、その収束が見え始め５月から５類感染症となったことから、患者数、手術件数の増加を期待しておりました。しかし期待ほどの増加とはならず、総手術件数は941件（CVポート造設術：265件は除く）、そのうち全身麻酔下手術は914件、緊急手術は102件でした。この症例数の減少は紹介患者数の減少も影響しており、高金副院長が中心となり病院全体で対策を行っております。2024年度は全身麻酔下手術1000例を目標にできればと考えております。悪性疾患は、甲状腺癌が７件、食道癌が12件、胃癌が60件（切除は47例、うちGISTは10例）、大腸癌が189例（切除は172例）、乳癌が177例、胆膵癌が25例（切除は22例）、肝癌が27例（転移性肝腫瘍は16例）でした。腹腔鏡下手術は541例で、乳腺手術を除く全身麻酔下手術の73.5%を鏡視下にて施行しており、そのうちロボット手術は73例（胃癌：５例、大腸癌：68例）でした。ロボット手術症例の増加に伴い、昨年までの術者３名に加え、2023年から千葉先生、藤野先生も執刀を開始しました。40才以下の外科医減少が深刻な問題となっておりますが、泌尿器科のように若い先生方でもロボット手術が執刀可能な環境を作っていければと考えております。また、藤野先生と昨年度在籍していた吉田瑛司先生（札医 H27）が2023年度の技術認定審査に申請しました。当院は症例数も多く外科医の修練の場としてとても良い環境が整っておりますが、さらに臨床研修にも力を入れており2022年の卒後臨床研修評価機構（JCEP）の評価では「４年間」の認定に加え「エクセレント賞」も受賞しました（認定290病院のうち当院を含め23病院）。当院は毎年約80人の見学生と50人の臨床実習生（北海道大学、札幌医科大学、岩手医科大学）を受け入れており、その実習の経験から「初期研修もこのように指導体制・設備・環境が整った中で受けたい」という要望が多く、道内に限らず道外からの臨床研修の応募も増加しております。また昨年より有志の医師による「初期臨床研修医を育てる会」が発足し、2023年より研修における問題や研修後のキャリアなどを気軽に相談できるシステムとしてメンター制度も導入しました。このような取り組みの中で外科における研修も充実したものになるよう当科の先生方も熱心に指導を行っております。以上のようにしっかりした研修環境が整っておりますので、ぜひ岩手医科大学の学生さん、特に外科志望の学生さんに当院研修をお勧めいただければと思います。

昨年度はご多忙中にもかかわらず新田教授には手術応援、大塚教授にはご講演にいらしていただきました。遠方よりわざわざご足労いただき、誠にありがとうございました。本年度も医局の先生方、同門の先生方からのご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。（文責：木村聡元）

Noshiro Kousei Medical Center

能代厚生医療センター

当院の2023年は全手術件数357例、全身麻酔手術件数296例、腹腔鏡下手術198例と前年がコロナ禍で手術件数が減少したという状況であったにも関わらず、さらなる減少がみられました。市内で外科手術を実施している病院に伺ったところ当院と同様に手術件数が減少しているということでした。これは秋田県の高齢化率39.3%という状況や、能代市の人口が年々1000人ずつ減少し続けており、患者の絶対数が減少していることから、致し方ないかと判断しております。その中でも開業医の先生方への挨拶回りや、逆紹介を積極的に行うなどのアクションは継続しております。腹腔鏡下率の減少は、乳癌症例の増加と胃癌症例の腹腔鏡下手術の割合が減少したことが原因です。今後は胃癌症例に対しても積極的に腹腔鏡下手術を行いたいと考えております。

一方で、化学療法の実施件数は2021年257件から2022年424件、2023年540件と年々100件以上増加しており、昨年同様進行癌で診断に至る症例も少なくない現状があります。

本年のスタッフは４月から有末篤弘、石橋正久、畠山瑞生の３人体制となりました。肝胆膵領域に関しまして、例年に引き続き新田教授の応援を頂き、高難度の手術を御執刀頂いており、非常にありがたく思っております。また、大山先生・冨澤先生・加藤久仁之先生・馬場先生・天野怜先生にも応援を頂き、専門性の高い手術の御執刀や御指導を頂きました。引き続きの応援をよろしくお願い致します。

畠山先生は、喜ばしいことに入局を決めてくださり、現在は外科専門医取得にむけた修練を実施しております。当施設も消化器外科専門医制度認定施設にもなることが出来ましたので、消化器外科専門医も同時に目指し、修練に励んで頂いております。地元能代出身であり、能代の医療を担っていこうという熱意もあり、今年は４月から12月までに、学会活動も頑張っている中で85件の手術を執刀頂きました。

遠方の関連病院で、人口は減りつつありますが、症例数の維持を目標に、引き続き頑張って参ります。同門の先生方の御指導、御鞭撻の程、今後ともよろしくお願い致します。

（文責：有末篤弘）

Hachinohe Japanese Red Cross Hospital

八戸赤十字病院

巌刀会の皆様、いつもお世話になっております。八戸赤十字病院の2023年の活動を報告いたします。

2023年は玉澤佳之、藤澤健太郎、野田宏伸、有末篤弘、菊地晃司の５名のスタッフでスタートしました。４月に有末、菊地が異動となり、新たに川上亜紀子先生、屋成信吾先生の２名が加わりました。

また、これまで同様に近隣の先生方と大学医局からの応援を頂きながら業務に当たっております。手術応援として近隣の南部町で開業されている川守田究先生、譜代村診療所の荒谷宗光先生に週１回来ていただいております。

大学医局からは、外来応援に片桐弘勝先生、石田和茂先生、手術応援に武田大樹先生にいらして頂きました。馬場誠朗先生には腹腔鏡下胃切除の手術指導を頂きました。先生方に大変感謝申し上げます。

本年の手術件数は456件（うち全麻410件）と前年より50件以上の増加をみました。引き続き手術件数の増加に努めてまいります。

さて本年加わった２名は同期でもあります。川上先生は３年ぶり２回目の勤務で、今までの修練の成果を発揮し、手術に外来にと奮闘しています。2023年11月に行われた日本臨床外科学会総会では故郷の岡山に錦を飾ることができました。屋成先生は当院での初期研修以来４年ぶり２回目の勤務です。研修医時代とはうって変わって朝方人間になっておりましたが、相変わらず魚が食べられないようです。2023年は外科専門医試験に見事合格しました。これからののびしろに期待です。

また本年度当院での初期臨床研修修了予定の徐光仁先生

が入局を決めてくれました。私たちの働く姿を見て入局を決めてくれたとのことで、大変嬉しく思っています。皆様の御指導をよろしくお願いいたします。病院としての研修医数の増加は、相対的な入局者につながる非常に重要な要素と考えます。当院では2023年度のマッチ率が50％でしたので70から80％台を維持し、外科系志望者をなるべく勧誘していければと考えております。

2023年５月にCOVID-19が５類に移行し、日常が徐々に戻ってきたことを実感しております。しかしながら入れ変わるようにインフルエンザの流行を見、予防の重要さの普遍性を感じております。

通常の診療業務以外にも副院長業務、病院経営、医局長業務、研修医指導、化学療法、緩和、NST、感染、クリニカルパス、広報、RRT（Rapid Response Team）、災害対策等、病院全体の業務に関して外科スタッフが中心となって担当している分野が多岐にわたります。

特に日赤病院という性質上、災害対策には力を入れております。今年度はDMAT東北ブロック訓練が青森県で行われましたが、東北、北海道から参集したDMATが当院に多数来院され、非常に有意義な訓練となりました。2024年元日に能登半島地震が発生し、災害対策の重要性を改めて感じる次第です。

暗い出来事でスタートした2024年ではありますが、私たちは今できることをしっかり行い、未来に向けて精進していく所存です。同門の先生方におかれましてもお体を御自愛いただき、今後とも御指導御鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。（文責：野田宏伸）

Kazuno Kosei Hospital

かづの厚生病院

厳刀会の皆様、いつもお世話になっております。令和５年度のかづの厚生病院外科の近況をご報告いたします。

2023年の手術件数は全手術195件（前年：197件）、全身麻酔手術は150件（前年：154件）でした。

これまで同様大学医局から月曜日には藤澤良介先生、琴畑洋介先生に当直、救急診療業務を行っていただいております。木曜日には臨床腫瘍科の岩谷岳教授、医療安全学講座の秋山有史准教授に手術応援に来ていただいております。また佐々木章教授、新田浩幸教授にもご多忙中に私の腹腔鏡下胆嚢摘出術の指導、膵頭部癌に対する全胃幽門輪温存膵頭十二指腸切除術の執刀をしていただきました。その他にも大学病院や近隣の関連病院の先生方に助けていただきながら、診療を行っております。大変感謝申し上げます。

令和４年度は小川雅彰副院長、有吉佑先生、屋成信吾先生の３人体制でしたが、本年度からは小川副院長と菊地晃司の２人体制となりました。経験年数の少ない自分との２人体制であり、小川先生にはかなりご負担をおかけしたと感じております。２人体制ということで、休日の手術や手術中の急患対応など忙しいタイミングは多々ありましたが、幸い大きいな事故はありませんでした。プライベートでは鹿角市分化の杜交流館・コモッセにて開催されました「男の台所 男の中華」というイベントに小川副院長と自分で参加し、トマト入り卵炒めと冷やし担々麺の作り方を学んできました。

今後も地域のニーズに応えられるように知識をアップデートしつつ、診療を行って参ります。同門の先生方におかれましても御自愛いただき、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。（文責：菊地晃司）

外科紹介医療機関

2023年もたくさんの患者様をご紹介いただきありがとうございました。今後も最善をつくし治療させていただきます。また、地域連携パスが稼働した際には、ぜひとも先生方のご協力をお願いいたします。

医療機関名	院長	郵便番号	住所		
あ					
青森県立中央病院	藤野安弘	030-8553	青森県	青森市	東造道2-1-1
青森労災病院	玉澤直樹	031-0822	青森県	八戸市	白銀町字南ケ丘1番地
秋田赤十字病院	小棚木　均	010-1495	秋田県	秋田市	上北手猿田字苗代沢222-1
安部医院	安部彦満	024-0061	岩手県	北上市	大通り1-11-23
あべ内科・消化器科クリニック	阿部礼司	020-0146	岩手県	盛岡市	長橋町17-45
飯島医院	飯島　信	020-0668	岩手県	滝沢市	鵜飼狐洞1-277
飯塚市立病院	武冨　章	820-0088	福岡県	飯塚市	弁分633-1
硫黄島航空基地診療所	徳留秀和	252-1101	神奈川県	浅瀬市	無番地 海上自衛隊厚木航空基地内
池田外科・消化器内科医院	池田健一郎	020-0041	岩手県	盛岡市	境田町5-18
石鳥谷駅前クリニック	髙橋仁志	028-3101	岩手県	花巻市	石鳥谷町好地第7地割209番地2
一関病院	佐藤隆次	021-0884	岩手県	一関市	大手町3-36
いとうファミリークリニック	伊藤　雄	023-1103	岩手県	奥州市	江刺区西大通り11-14
岩手医科大学附属病院(矢巾)	小笠原邦昭	028-3695	岩手県	紫波郡矢巾町	医大通ニ丁目1番1号
(公財)岩手県対がん協会	狩野　敦	020-0834	岩手県	盛岡市	永井14-46
(公財)岩手県対がん協会 けん館	村上晶彦	028-3609	岩手県	盛岡市	西仙北1-17-18
(公財)岩手県対がん協会 すこや館	村上晶彦	028-3390	岩手県	紫波郡矢巾町	医大通2丁目1-6
岩手県対がん協会いわて健康管理センター	狩野　敦	020-0864	岩手県	盛岡市	西仙北1-17-18
岩手県予防医学協会(含付属診療所)	田巻健治	020-0834	岩手県	盛岡市	永井4-42
岩手県立胆沢病院	郷右近祐司	023-0864	岩手県	奥州市	水沢区龍ヶ馬場61
岩手県立一戸病院	佐々木由佳	028-5312	岩手県	二戸郡一戸町	一戸字砂森60-1
岩手県立磐井病院	佐藤耕一郎	029-0192	岩手県	一関市	狐禅寺字大平17
岩手県立江刺病院	川村秀司	023-1103	岩手県	奥州市	江刺区西大通り5-23
岩手県立大槌病院	石川　徹	028-1131	岩手県	上閉伊郡大槌町	大槌第13地割字八幡前129-11
岩手県立大船渡病院	中野達也	022-8512	岩手県	大船渡市	大船渡町字山馬越10-1
岩手県立釜石病院	坂下伸夫	026-8550	岩手県	釜石市	甲子町10-483-6
岩手県立久慈病院	遠野千尋	028-8040	岩手県	久慈市	旭町第10地割1番
岩手県立千厩病院	佐藤　一	029-0803	岩手県	一関市	千厩町千厩字草井沢32-1
岩手県立中央病院	宮田　剛	020-0066	岩手県	盛岡市	上田1-4-1
岩手県立中部病院	吉田　徹	024-8507	岩手県	北上市	村崎野17-10
岩手県立遠野病院	鈴木　雄	028-0541	岩手県	遠野市	松崎町白岩14-74
岩手県立二戸病院	小笠原敏浩	028-6193	岩手県	二戸市	堀野字大川原毛38-2
岩手県立宮古病院	川村英伸	027-0096	岩手県	宮古市	崎鍬ケ崎1-11-26
いわてリハビリテーションセンター	大井清文	020-0503	岩手県	岩手郡雫石町	七ツ森16-243
植田内科消化器科医院	植田　修	020-0633	岩手県	滝沢市	穴口183-3
内丸病院	宮川朋久	020-0015	岩手県	盛岡市	本町通1-12-7

	医療機関名	院長	郵便番号	住所		
あ	内丸メディカルセンター	下沖　収	020-8505	岩手県	盛岡市	内丸19-1
	エールクリニック八幡平	菊地大輝	028-7112	岩手県	八幡平市	田頭37-103-1
	えんどう消化器科内科クリニック	遠藤稔弥	022-0004	岩手県	大船渡市	猪川町字中井沢7-2
	奥州病院	佐藤直夫	023-0828	岩手県	奥州市	水沢区東大通り1-5-30
	大阪医科薬科大学病院	南　敏明	569-8686	大阪府	高槻市	大学町2-7
	大澤クリニック(医科)	大澤宏之	020-0822	岩手県	盛岡市	茶畑2-8-3
	小野寺内科医院	小野寺正幸	028-5312	岩手県	二戸郡一戸町	一戸字向町148-1
	おばら内科・消化器内科クリニック	小原啓彦	025-0077	岩手県	花巻市	仲町5-8
か	開運橋消化器内科クリニック	遠藤昌樹	020-0022	岩手県	盛岡市	大通3丁目9-3
	かづの厚生病院	吉田雄樹	018-5201	秋田県	鹿角市	花輪字向畑18
	鹿角中央病院	髙橋今日子	018-5201	秋田県	鹿角市	花輪字六月田97
	かなざわ内科クリニック	金澤　格	020-0125	岩手県	盛岡市	上堂1-18-24
	亀田京橋クリニック	岸本誠司	104-0031	東京都	中央区	京橋3-1-1 東京スクエアガーデンビル4F
	川久保病院	田村　茂	020-0835	岩手県	盛岡市	津志田26-30-1
	川村内科医院	川村光郎	020-0883	岩手県	盛岡市	志家町4-4
	菊田外科泌尿器科	菊田　裕	022-0002	岩手県	大船渡市	大船渡町字明神前11-1
	菊池俊彦内科クリニック	菊池俊彦	028-0522	岩手県	遠野市	新穀町5-19
	北上済生会病院	一戸貞文	024-8506	岩手県	北上市	九年橋3-15-33
	京都予防医学センター附属診療所	酒井泰彦	604-8491	京都府	京都市	中京区西ノ京左馬寮町28
	栗原クリニック	土井秀之	020-0015	岩手県	盛岡市	本町通1-16-4
	恵佑会札幌病院	久須美貴哉	003-0026	北海道	札幌市	白石区本通9-1-1
	孝仁病院	西成尚人	020-0052	岩手県	盛岡市	中太田泉田28
	国保葛巻病院	伊藤達朗	028-5402	岩手県	岩手郡葛巻町	葛巻16-1-1
	国立病院機構東京医療センター	新木一弘	052-8902	東京都	目黒区	東が丘2丁目5-1
	国立病院機構盛岡医療センター	木村啓二	020-0133	岩手県	盛岡市	青山1-25-1
さ	済生会横浜市南部病院	竹林茂生	234-8503	神奈川県	横浜市	港南区港南台3-2-10
	ささきクリニック	佐々木盛光	025-0053	岩手県	花巻市	中北万丁目836
	さとう消化器科内科クリニック	佐藤慎一郎	028-3101	岩手県	花巻市	石鳥谷町好地16-9-5
	三愛病院	清野耕治	020-0121	岩手県	盛岡市	月が丘1-29-15
	三愛病院附属矢巾クリニック	藤島幹彦	028-3601	岩手県	紫波郡矢巾町	高田11-25-2
	三本柳かんのクリニック	菅野公徳	020-0831	岩手県	盛岡市	三本柳23-10-5
	雫石大森クリニック	大森浩明	020-0541	岩手県	岩手郡雫石町	千刈田79-2
	自治医科大学附属病院	川合謙介	329-0498	栃木県	河内郡南河内町	薬師寺3311-1
	順天堂大学医学部附属練馬病院	浦尾正彦	177-8521	東京都	練馬区	高野台3丁目1番10号
	市立田沢湖病院	星野良平	014-1201	秋田県	仙北市	田沢湖生保内字浮世坂17-1

外科紹介医療機関

	医療機関名	院長	郵便番号	住所		
さ	志和診療所	城戸正美	028-3441	岩手県	紫波郡紫波町	上平沢字川原52
	紫波中央小児科	武藤秀和	028-3318	岩手県	紫波郡紫波町	紫波中央駅前2-3-94 オガールセンター 1F
	すがさわ外科・内科クリニック	菅澤治彦	025-0312	岩手県	花巻市	二枚橋6-440-1
	鈴木肛門外科・守口内科	鈴木俊輔	020-0016	岩手県	盛岡市	名須川町16-14
	鈴木整形外科	鈴木正弘	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮字石仏20-1
	鈴木内科医院	鈴木知己	020-0872	岩手県	盛岡市	八幡町2-17
	せいてつ記念病院	佐藤滋	026-0052	岩手県	釜石市	小佐野町4-3-7
	せんだい総合健診クリニック	石垣洋子	980-0811	宮城県	仙台市	青葉区一番町1-9-1
	総合東京病院	渡邉貞義	165-0022	東京都	中野区	江古田3-15-2
	総合花巻病院	後藤勝也	025-0082	岩手県	花巻市	御田屋町4番56号
た	高木丘クリニック	佐藤寧	025-0016	岩手県	花巻市	高木18-61-2
	高宮消化器科内科医院	高宮秀式	028-3603	岩手県	紫波郡矢巾町	大字西徳田2-106-3
	滝沢中央病院	山内広平	020-0668	岩手県	滝沢市	鵜飼笹森42番地2
	たぐち脳神経外科クリニック	田口壮一	020-0015	岩手県	盛岡市	本町通1丁目4-19
	たけ循環器内科クリニック	武者毅彦	020-0857	岩手県	盛岡市	北飯岡1-2-70
	竹花乳腺クリニック	竹花教	023-0852	岩手県	奥州市	水沢区山崎町8-1
	たにむらクリニック	谷村武宏	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮小板小瀬13-2
	ちえ内科・外科クリニック	伊藤千絵	020-0066	岩手県	盛岡市	上田1-1-19
	千葉医院	千葉純子	028-0516	岩手県	遠野市	穀町1-22
	千葉県がんセンター	藤里正視	260-8717	千葉県	千葉市	中央区仁戸名町666-2
	筑波大学附属病院	原晃	305-8576	茨城県	つくば市	天久保2-1-1
	東海大学医学部付属八王子病院	向井正哉	192-0032	東京都	八王子市	石川町1838
	東京国際クリニック医科	高橋通	100-6209	東京都	千代田区	丸の内1-11-1 パシフィックセンチュリープレイス丸の内9F
	東京慈恵会医科大学附属第三病院	中村敬	201-8601	東京都	狛江市	和泉本町4-11-1
	東京女子医科大学病院	板橋道朗	162-0054	東京都	新宿区	河田町8番1号
	東北大学病院	張替秀郎	980-0872	宮城県	仙台市	青葉区星陵町1番1号
	東北中央病院	田中靖久	990-0064	山形県	山形市	和合町3-2-5
	遠山病院	千葉知	020-0877	岩手県	盛岡市	下ノ橋町6-14
	栃内病院	白石秀夫	020-0878	岩手県	盛岡市	肴町2-28
	とみさわ甲状腺・乳腺のクリニック八戸	冨澤勇貴	031-0042	青森県	八戸市	十三町1番地 ヴィアノヴァ 2階-10
	とみさわ甲状腺・乳腺のクリニック盛岡	冨澤勇貴	020-0022	岩手県	盛岡市	大通1-1-16 岩手教育会館1F
	豊川市民病院	佐野仁	442-8561	愛知県	豊川市	八幡町野路23番地
	十和田市立中央病院	高橋道長	034-0093	青森県	十和田市	西十二番町14-8
な	なおしま医院	直島淳太	028-3441	岩手県	紫波郡紫波町	上平沢字川原田33-5
	中津市立中津市民病院	折田博之	871-8511	大分県	中津市	大字下池永173番地

	医療機関名	院長	郵便番号	住所		
な	中通総合病院(秋田)	奥山　慎	010-8577	秋田県	秋田市	南通みその町3-15
	なかの消化器内科クリニック	中野　洋一郎	018-5201	秋田県	鹿角市	花輪字下中島81-2
	成田内科胃腸科医院	成田　知史	028-3614	岩手県	紫波郡矢巾町	大字又兵工新田第8地割101番地
	南昌病院(帰厚堂)	木村　宗孝	028-3621	岩手県	紫波郡矢巾町	大字広宮沢1-2-181
	にしね眼科クリニック	藤原　貴光	028-7111	岩手県	八幡平市	大更第24地割29-1
	乳腺外科いしだ外科胃腸科クリニック	石田　茂登男	020-0834	岩手県	盛岡市	盛岡駅前通14-9 ヒラトヤビル3F
	練馬高野台病院	今井　政人	177-0033	東京都	練馬区	高野台三丁目8番8号
	野崎内科・神経内科医院	野崎　有一	028-3303	岩手県	紫波郡紫波町	高水寺字大坊183-1
	能代厚生医療センター	太田原　康成	016-0014	秋田県	能代市	落合字上前田地内
は	はちのへ99クリニック	内海　謙	031-0004	青森県	八戸市	南類家5丁目1-8
	八戸市立市民病院	水野　豊	031-8555	青森県	八戸市	田向3-1-1
	八戸赤十字病院	紺野　広	039-1104	青森県	八戸市	大字田面木字中明戸2
	八幡平市立病院	瀧山　郁雄	028-7111	岩手県	八幡平市	大更25-328-1
	花巻市石鳥谷医療センター	似内　郊雄	028-3163	岩手県	花巻市	石鳥谷町八幡5-47-2
	羽後町立羽後病院	鎌田　敦志	012-1131	秋田県	雄勝郡羽後町	西馬音内字大戸道44-5
	日高見中央クリニック	岡本　秀樹	024-0072	岩手県	北上市	北鬼柳22-46
	平塚共済病院	稲瀬　直彦	254-8502	神奈川県	平塚市	追分9-11
	広島大学医学部病院	工藤　美樹	734-0037	広島県	広島市	南区霞1丁目2番3号
	藤島内科医院	藤島　敏智	020-0013	岩手県	盛岡市	愛宕町4-18
	ブレスト齊藤外科クリニック	齊藤　純一	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮6丁目17-6
	宝陽病院	後藤　振一郎	028-3111	岩手県	花巻市	石鳥谷町新堀15-23
	星が丘瀬川皮膚科クリニック	瀬川　郁雄	025-0065	岩手県	花巻市	星が丘1丁目8-14
	堀江医院	堀江　圭	028-3603	岩手県	紫波郡矢巾町	西徳田6-143
	本田胃腸内科外科	本田　健一	023-0816	岩手県	奥州市	水沢区西町4番21号
ま	まきた内科ハートクリニック	蒔田　真司	025-0091	岩手県	花巻市	西大通り2丁目11-8
	松園第二病院	平澤　大	020-0103	岩手県	盛岡市	西松園3-22-3
	美希病院	井筒　大人	029-4201	岩手県	奥州市	前沢区古城字丑沢上野100
	三沢市立三沢病院	伊藤　悦朗	033-0001	青森県	三沢市	大字三沢字堀口164-65
	三沢中央病院	棟方　博文	033-0001	青森県	三沢市	中央町3丁目11-2
	三田記念病院	磯野　寿育	020-0807	岩手県	盛岡市	加賀野3-14-1
	みつわ台総合病院	中田　泰彦	264-0021	千葉県	千葉市	若葉区若松町531-486
	南矢巾ハートクリニック	佐藤　義浩	028-3615	岩手県	紫波郡矢巾町	南矢幅第6地割143番地31
	宮城県立がんセンター	佐々木　治	981-1293	宮城県	名取市	愛島塩手字野田山47-1
	みやもと内科クリニック	宮本　康弘	020-0143	岩手県	盛岡市	上厨川字杉原101-4
	未来の風せいわ病院	田嶋　宣行	020-0401	岩手県	盛岡市	手代森9-70-1

外科紹介医療機関

	医療機関名	院長	郵便番号	住所		
ま	むつ総合病院	松浦　修	035-0071	青森県	むつ市	小川町1-2-8
	メディケアプラザ中央通りクリニック	及川　浩樹	020-0021	岩手県	盛岡市	中央通3丁目16-23
	もりおか胃腸科内科クリニック	佐藤　邦彦	020-0871	岩手県	盛岡市	中ノ橋通2-3-2
	もりおか往診ホームケアクリニック	木村　幸博	020-0857	岩手県	盛岡市	北飯岡3-20-3
	盛岡観山荘病院	小泉　幸子	020-0114	岩手県	盛岡市	高松4-20-40
	盛岡市立病院	加藤　章信	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮5丁目15-1
	盛岡赤十字病院	久保　直彦	020-8560	岩手県	盛岡市	三本柳6-1-1
	盛岡つなぎ温泉病院	関　博文	020-0055	岩手県	盛岡市	繋字尾入野64-9
	盛岡ふじさわ整形外科クリニック	藤澤　博一	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮3-9-13
	盛岡南病院	田中　英治	020-0835	岩手県	盛岡市	津志田13-18-4
	盛岡友愛病院	佐々木　達哉	020-0834	岩手県	盛岡市	永井12-10
	もりた整形外科	盛田　哲郎	020-0004	岩手県	盛岡市	山岸1-3-8
や	八角医院	阪川　肇	028-4125	岩手県	盛岡市	玉山区好摩字夏間木101-2
	八角病院	八角　有紀	028-4125	岩手県	盛岡市	玉山区好摩字夏間木70-190
	やまだ胃腸内科クリニック	山田　宏之	020-0838	岩手県	盛岡市	津志田中央2-18-31
	ゆかわ脳外科	湯川　宏胤	025-0091	岩手県	花巻市	西大通り2-2-10
	横浜リーフみなとみらい健診クリニック	高木　重人	220-0012	神奈川県	横浜市	西区みなとみらい4-6-5 リーフみなとみらい11.12F
わ	わたなべおしりのクリニック	渡邊　陽太郎	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮5-1-3
	わたなべ内科・脳神経内科クリニック	渡邊　活見	020-0114	岩手県	盛岡市	高松三丁目9-8

獲得研究費

科学研究費助成事業

【研究代表者】

1. 2022-2024　基盤研究 (C)
「ctDNA を用いた大腸癌化学療法効果判定法と転移巣切除適応症例層別化の確立」
研究代表者：八重樫 瑞典　　研究分担者：西塚 哲 , 岩谷 岳
2. 2022-2024　基盤研究 (C)
「高度肥満患者の細菌叢変化とマルチオミックス解析による肝線維化メカニズムの探索」
研究代表者：梅邑 晃　　研究分担者：佐々木 章
3. 2021-2023　基盤研究 (C)
「臓器横断的観察研究による再発形式依存性腫瘍由来血中 DNA 動態の解明」
研究代表者：西塚 哲　　研究分担者：岩谷 岳
4. 2023-2025　基盤研究 (C)
「ctDNA 解析による UR-LA 膵癌 Conversion Surgery 適応症例の層別化と治療効果判定の確立」
研究代表者：片桐 弘勝　　研究分担者：西塚 哲
5. 2023-2025　基盤研究 (C)
「肥満非アルコール性脂肪性肝炎に対する外科治療の改善機序と新規バイオマーカーの検索」
研究代表者：佐々木 章　　研究分担者：梅邑 晃 , 二階 春香

【研究分担者】

1. 2023-2025　基盤研究 (C)
「動物個体の発生原理を利用した、異種間肝臓作製技術の確立」
研究分担者：片桐 弘勝
2. 2023-2025　基盤研究 (C)
「卵巣明細胞癌に対する HSF1 経路を標的とした新規治療法の開発」
研究分担者：岩谷 岳 , 遠藤 史隆
3. 2021-2023　基盤研究 (C)
「上部尿路上皮癌術後経過における血中・尿中 ctDNA 変異遺伝子モニタリング」
研究分担者：西塚 哲
4. 2022-2024　基盤研究 (C)
「膀胱癌の再発診断における血漿および尿沈渣中変異 DNA モニタリング」
研究分担者：西塚 哲

【AMED研究分担者】

1. 2023-2025　革新的がん医療実用化研究事業
「局所進行胃癌に対する術前化学療法の有効性を検証する臨床第 III 相試験
研究分担者：秋山 有史 , 馬場 誠朗 , 遠藤 史隆 , 二階 春香

その他の外部資金（奨学寄附金）

1. 大鵬薬品工業株式会社
「減量・代謝改善手術における非アルコール性脂肪性肝炎改善機構の解明と新規バイオマーカーの検索」
研究代表者：佐々木 章
2. 一般社団法人　日本血液製剤機構
「潰瘍性大腸炎に対する小児期および成人期大腸全摘後の小腸形質変化の比較検討」
研究代表者：鈴木 信
3. アボットジャパン
「胃がん手術後のサルコペニアの評価」
研究代表者：馬場 誠朗
4. 科研製薬
「狭小空間手術モデルが手術パフォーマンス向上に与える影響」
研究代表者：鈴木 信
5. 中外製薬
「慢性腎臓病合併高度肥満症患者に対する減量・代謝改善手術の意義とその改善機序に関わる研究」
研究代表者：梅邑 晃

英文論文

1. Sasaki A, Tachimori H, Akiyama Y, Oshikiri T, Miyata H, Kakeji Y, Kitagawa Y. Risk model for mortality associated with esophagectomy via a thoracic approach based on data from the Japanese National Clinical Database on malignant esophageal tumors. Surg Today 2023 ; 53(1) : 73-81
2. Umemura A, Nitta H, Takahara T, Hasegawa Y, Katagiri H, Kanno S, Takeda D, Sasaki A. Pure laparoscopic left lateral graft procurement with removing segment 3 employing Glissonean approach, indocyanine green fluorescence imaging and in situ splitting for a small infant. J Minim Access Surg 2023 ; 19(1) : 165-167
3. Watanabe Y, Yamaguchi T, Nagayama D, Tanaka S, Sasaki A, Naitoh T, Matsubara H, Yokote K, Okazumi S, Ugi S, Yamamoto H, Ohta M, Ishigaki Y, Kasama K, Seki Y, Tsujino M, Shirai K, Miyazaki Y, Masaki T, Saiki A, Tatsuno I. Factors Associated with Relapse of Type 2 Diabetes Mellitus after Laparoscopic Sleeve Gastrectomy in Japanese Subjects: A Subgroup Analysis of J-SMART Study. Obes Facts 2023 ; 16(2) : 119-130
4. Kajiwara Y, Takahashi A, Ueno H, Kakeji Y, Hasegawa H, Eguchi S, Goi T, Saiura A, Sasaki A, Takiguchi S, Takeuchi H, Tanaka C, Hashimoto M, Hiki N, Horiguchi A, Matsuda S, Mizushima T, Marubashi S, Gotoh M, Konno H, Yamamoto H, Miyata H, Seto Y, Kitagawa Y. Annual report on National Clinical Database 2020 for gastroenterological surgery in Japan. Ann Gastroenterol Surg 2023 ; 7(3) : 367-406
5. Ishida K, Iwaya T, Komatsu H, Amano S, Kiyokawa M, Usami S, Ohnuki K, Obata K, Fukushima A, Sasaki A. Dramatic Response to Platinum-Based Chemotherapy in a Germline PALB2 Variant Breast Cancer: A Case Report. Ann Clin Case Rep 2023 ; 8 : 2395
6. Sugimoto R, Uesugi N, Yamada N, Osakabe M, Baba S, Yanagawa N, Akiyama Y, Habano W, Sasaki A, Oda Y, Sugai T. Gastroblastoma mimics the embryonic mesenchyme of the foregut: a case report. Diagn Pathol 2023 ; 18(1) : 24
7. Kumagai H, Yaegashi M, Okutsu M, Otsuka K, Iwasa T, Sasaki A. Bleeding ileal schwannoma resulting in severe anemia requiring massive blood transfusion: A rare case report. Int J Surg Case Rep 2023 ; 102(107820) : 1-4
8. Sasaki N, Mitomo S, Matsui Y, Ishii Y, Sasaki A. Incarcerated Larrey hernia with small bowel obstruction: A case report. Int J Surg Case Rep 2023 ; 104(107968) : 1-3
9. Katagiri H, Nitta H, Kanno S, Umemura A, Takeda D, Ando T, Amano S, Sasaki A. Safety and Feasibility of Laparoscopic Parenchymal-Sparing Hepatectomy for Lesions with Proximity to Major Vessels in Posterosuperior Liver Segments 7 and 8. Cancers (Basel) 2023 ; 15(7) : 2078
10. Tagane M, Akiyama Y, Tamura A, Ieko Y, Iwaya T, Sasaki A . Examination of fatty infiltration of skeletal muscles by CT value in the evaluation of sarcopenia during preoperative chemotherapy for esophageal cancery. JIMA 2023 ; 75(1) : 21-33
11. Umemura A, Sasaki A, Fujiwara H, Harada K, Amano S, Takahashi N, Tanahashi Y, Suto T. Comparison of olanexidine versus povidone-iodine as a preoperative antiseptic for reducing surgical site infection in both scheduled and emergency gastrointestinal surgeries: A single-center randomized clinical trial. Ann Gastroenterol Surg 2023 ; 7(5) : 819-831
12. Kobayashi M, Suzuki M, Toya Y, Matsumoto A, Sasaki A. Oral synechia with complete obstruction of the oral cavity and laryngopharynx. Pediatr Int 2023 ; 65(1) : e15555
13. Etoh T, Ohyama T, Sakuramoto S, Tsuji T, Lee SW, Yoshida K, Koeda K, Hiki N, Kunisaki C, Tokunaga M, Otsubo D, Takagane A, Misawa K, Kinoshita T, Cho H, Doki Y, Nunobe S, Shiraishi N, Kitano S, JLSSG. Five-Year Survival Outcomes of Laparoscopy-Assisted vs Open Distal Gastrectomy for Advanced Gastric Cancer The JLSSG0901 Randomized Clinical Trial. JAMA Surg 2023 ; 158(5) : 445-454
14. Takemoto M, Hayashi A, Inaba Y, Tanaka T, Chun TH, Hayashi H, Kasama K, Saiki A, Sasaki A, Okazumi S, Matsubara H, Tatsuno I. Safety and effectiveness of metabolic surgery in older Japanese patients. Ann Gastroenterol Surg 2023 ; 7(5) : 750-756
15. Kikuchi K, Nitta H, Umemura A, Katagiri H, Kanno S, Takeda D, Ando T, Amano S, Sasaki A. Risk-Adjusted Assessment of the Learning Curve for Pure Laparoscopic Donor Hepatectomy for Adult Recipients. World J Surg 2023 ; 47(10) : 2488-2498
16. Okazumi S, Oshiro T, Sasaki A, Matsubara H, Tatsuno I. Verification of safety and efficacy of sleeve gastrectomy based on national registry by Japanese Society for Treatment of Obesity. J Clin Med 2023 ; 12 : 4303
17. Umemura A, Nitta H, Katagiri H, Sasaki A. Standardization of pure laparoscopic extended cholecystectomy with en-bloc lymphadenectomy of the hepatoduodenal ligament for gallbladder cancers. Asian J Endosc Surg 2023 ; 16(3) : 662-665
18. Yanari S, Sasaki S, Sato H, Ishida K, Kojika M, Inoue Y, Mase T, Sasaki A. Potentially Lethal Combination of Fruit and Gastric Acid: The Persimmon Bezoar Causing Esophageal Rupture. Am J Gastroenterol 2023 ; 118(11) : 1918
19. Kumagai H, Umemura A, Nitta H, Katagiri H, Nishiya M, Uesugi N, Sugai T, Sasaki A. Extensively Invasive Gallbladder Cancer from Intracholecystic Papillary Neoplasm Treated with Pylorus-Preserving Pancreaticoduodenectomy and Extended Cholecystectomy: A Case Report and Literature Review. Case Rep Surg 2023 ; 2023(5825045) : 1-10
20. Ariyoshi Y, Otsuka K, Yaegashi M, Takashimizu K, Hatanaka T, Nakamura Y , Sasaki T, Takahash F, Sasaki A. A novel difficulty scoring system for laparoscopic colorectal cancer surgery for appropriate case selection according to master. JIMA 2023 ; 75(3) : 81-94

21. Sasaki T, Yaegashi M, Sasaki A, Iwaya T. The clinical validity of digital PCR based circulating tumor DNA monitoring in patients with colorectal cancer who received adjuvant chemotherapy. JIMA 2023；75(3)：95-107
22. Hatanaka M, Fujino J, Kanda H, Kikuchi K, Hasegawa M, Igarashi A, Tuchioka T, Suzuki K, Kojima K. Successful enucleation of a cystic nephroma in an infant: A case report. J. Pediatric Surg. Case Rep. 2023；98(102718)：1-6
23. Ogushi K, Nobusawa S, Shirakura T, Hirato J, Erkhem-Ochir B, Okami H, Dorjkhorloo G, Nishi A, Suzuki M, Otake S, Saeki H, Shirabe K. High Tumoral STMN1 Expression Is Associated with Malignant Potential and Poor Prognosis in Patients with Neuroblastoma. Cancers (Basel) 2023；15(18)：4482
24. Kawashima T, Shioi Y, Sato H, Kumagai H, Nitta H, Sasaki A. Elective Laparoscopic Repair of Obturator Hernia Using a Mesh Plug Following Ultrasound?Guided Manual Reduction. Indian J Surg 2023；doi.org/10.1007/s12262-023-03934-6. Online ahead of print.
25. Hayakawa F, Soga H, Fujino J, Ota T,Yamaguchi M,Tamanoa M. Utility of ultrasonography in a mouse model of non-alcoholic steatohepatitis induced by a choline-deficient, high-fat diet and dextran sulfate sodium. Biochemistry and Biophysics Reports 2023；36
26. Umemura A, Sasaki A, Takamura T, Takayama H, Takeshita Y, Toya Y, Kakisaka K, Hasegawa Y, Ishigaki Y. Relationship between the changes in hepatokine levels and metabolic effects after laparoscopic sleeve gastrectomy in severely obese patients. Surg Today 2023；doi: 10.1007/s00595-023-02767-w. Online ahead of print.
27. Umemura A, Sasaki A. Invited commentary: The outcome of closure of inguinal hernia with laparoscopic percutaneous extraperitoneal closure in young adults. World J Surg 2023；48(2)：377-378
28. Kumagai H, Sasaki A, Umemura A, Kakisaka K, Iwaya T, Nishizuka SS. Effects of laparoscopic sleeve gastrectomy on nonalcoholic fatty liver disease and TGF-β signaling pathway. Endocr J 2023；doi: 10.1507/endocrj.EJ23-0411. Online ahead of print.

和文論文

1. 梅邑 晃，新田 浩幸，片桐 弘勝，菅野 将史，武田 大樹，佐々木 章．【肝移植手術を再考する】腹腔鏡下生体肝移植ドナー手術．手術 2023；77(1)：61-66
2. 竹本 稔，林 愛子，田中 智洋，全 泰和，林 秀樹，竹本 稔，笠間 和典，齋木 厚人，佐々木 章，岡住 慎一，松原 久裕，龍野 一郎，稲葉 洋介．減量・代謝改善手術の適応年齢に関する検討 高齢者肥満外科の適用委員会ならびに高齢者肥満外科手術の適応のワーキンググループからの報告（第２報）．肥満症治療学展望 2023；11(1)：12-13
3. 藤村 匠，矢内 俊裕，小林 めぐみ，早野 恵，平井 みさ子，高清水 奈央，松本 敦，鈴木 信，佐々木 章．【共有したい術式および手術経験：手術のポイントや工夫】先天性胆道拡張症に対する臍部小切開による胆道外瘻造設術後の二期的根治術．小児外科 2023；55(3)：285-290
4. 大塚 由一郎，新田 浩幸，長谷川 康，土屋 勝，若林 剛，金子 弘真．【進化する肝臓外科 - 高難度腹腔鏡下手術からロボット支援下手術の導入まで】高難度低侵襲肝切除の教育と普及における課題 肝臓内視鏡外科研究会による腹腔鏡下肝切除術ハンズオントレーニングプログラム．臨床外科 2023；78(3)：325-328
5. 天野 怜，新田 浩幸，片桐 弘勝，菅野 将史，梅邑 晃，武田 大樹，安藤 太郎，佐々木 章．【進化する肝臓外科 - 高難度腹腔鏡下手術からロボット支援下手術の導入まで】腹腔鏡下ドナー肝切除 完全腹腔鏡下ドナー肝切除．臨床外科 2023；78(3)：315-318
6. 安藤 太郎，新田 浩幸，片桐 弘勝，菅野 将史，梅邑 晃，武田 大樹，天野 怜，佐々木 章．【消化器外科における各種デバイスの使い方とピットフォール】肝胆膵 Glisson 鞘と肝静脈に対する自動縫合器の使い方とピットフォール．外科 2023；85(4)：372-380
7. 佐々木 章，梅邑 晃，高橋 眞，熊谷 秀基，棚橋 洋太，新田 浩幸．定型的腹腔鏡下スリーブ状胃切除術．手術 2023；77(4)：445-450
8. 小林 めぐみ，矢内 俊裕，田金 恵，小野寺 千夏，石川 健，鈴木 信，佐々木 章．新生児期に急性腎後性腎不全に陥った先天性中部尿管狭窄症を伴う機能的単腎の１例．日本小児外科学会雑誌 2023；59(2)：212-216
9. 小田 智靖，佐々木 章．肥満症の外科治療 第１回減量・代謝改善手術とβ細胞機能の変化．The Lipid 2023；34(1)：4-10
10. 口田 脩太，佐藤 慧，大塚 観喜，吉田 瑛司，千葉 丈広，木村 聡元，舩渡 治．遊離大腿筋膜張筋・前外側大腿皮弁を用いて腹壁再建を行った人工肛門直下大腸癌の１例．日本外科系連合学会誌 2022；47(2)：152-159
11. 中尾 朋平，永井 爽，白石 昌久，長田 紀大，藤野 順子，長谷川 真理子，畑中 政博，土岡 丘，佐藤 泰樹，伴 慎一，野崎 美和子，松原 知代．化学療法を専攻させることで腫瘍が縮小し、腫瘍全摘術ができた先天性間葉芽腎腫の１例．日本小児血液・がん学会雑誌 2023；60(1)
12. 小林 めぐみ，矢内 俊裕，田金 恵，小野寺 千夏，古川 ひろみ，石川 健，鈴木 信，佐々木 章．膀胱憩室切除および膀胱皮膚瘻造設が有用であったMenkes 病の１例．日本小児泌尿器科学会雑誌 2023；32(1)：96-100
13. 佐々木 章．減量・代謝改善手術とアンチエイジング．第４版 アンチエイジング医学の基礎と臨床 2023；4(1)：377-379
14. 新田 浩幸，片桐 弘勝，菅野 将史，梅邑 晃，武田 大樹，安藤 太郎，天野 怜，岩佐 友寛，佐々木 章．【肝胆膵外科手術における術中トラブルシューティング】肝臓 腹腔鏡下・ロボット支援下肝切除術における肝静脈・下大静脈出血への対処法．外科 2023；85(8)：881-886
15. 梅邑 晃，佐々木 章．見る脂質のページ 肥満症の外科治療（第２回）減量・代謝改善手術と術後脂質代謝．The Lipid 2023；34(2)：98-102
16. 佐々木 章，新田 浩幸，梅邑 晃．肥満症治療の Update 外科療法．Medical Science Digest 2023；654(11)：21-24

著　　書

1. 佐々木 章 . 1. 減量・代謝改善手術とアンチエイジング . 第４版 アンチエイジング医学の基礎と臨床 2023；1(1)：377-379

国際学会発表

International Gastric Cancer Congress 2023, Yokohama, 2023/06/14 ～ 06/17

1. Baba S, Nikai H, Akiyama Y, Fujisawa R, Sasaki N, Yaegashi M, Endo F, Umemura A, Katagiri H, Suzuki M, Iwaya T, Nitta H, Koeda K, Sasaki A. Short-term outcomes of robot-assisted laparoscopic proximal gastrectomy. Poster Presentation
2. Nikai H, Akiyama Y, Baba S, Endo F, Fujisawa R, Sasaki N, Yaegashi M, Umemura A, Katagiri H, Suzuki M, Iwaya T, Nitta H. The efficacy and safety of nivolumab in unresectable advanced or recurrent gastric cancer patients. Poster Presentation

The 36th Congress of the Pan-Pacific Surgical Association Japan Chapter, Hawaii, USA, 2023/08/21 ～ 08/23

1. Kikuchi K, Nitta H, Umemura A, Ogawa M, Katagiri H, Kanno S, Takeda D, Ando T, Amano S, Sasaki A. Learning curve of pure laparoscopic donor hepatectomy in adult patients with end-stage liver diseases: A cumulative sum analysis. Oral Session
2. Tanahashi Y, Umemura A, Iwasaki T, Kumagai H, Sasaki A. Relationships between changes in hepatokines levels and metabolic effects in severely obese patients who underwent laparoscopic sleeve gastrectomy. Oral Session
3. Umemura A, Nitta H, Katagiri H, Kanno S, Takeda D, Taro A, Satoshi A, Kikuchi K, Sasaki A. Pure Laparoscopic Living Donor Left Lateral Sectionectomy Using Glissonean Approach and Original Bridging Technique. Oral Session
4. Shimada H, Tono C, Takahashi N, Sasaki S, Fujii H, Minakawa Y, Sasaki A. A case of afferent loop obstruction by residual stomach cancer treated by endoscopic drainage and bypass surgery, Case report

Asian Transplantation Week 2023, Seoul, Korea, 2023/11/15 ～ 11/18

1. Umemura A, Nitta H, Katagiri H, Kanno S, Kikuchi K, TakedaD, Ando T, Amano S, Sasaki A. What are operating-time-determining factors of pure laparoscopic donor hepatectomy for adult recipients?. Oral Presentation
2. Nitta H. Laparoscopic donor posterior sectionectomy. Postgraduate Course 5

国内学会発表

第 95 回日本胃癌学会総会 , 札幌 , 2023/02/23 ～ 02/25

1. 奥津 美里 , 秋山 有史 , 馬場 誠朗 , 琴畑 洋介 , 高橋 眞人 , 藤澤 良介 , 佐々木 教之 , 二階 春香 , 遠藤 史隆 , 上杉 憲幸 , 岩谷 岳 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 . 胃切除後 16 年で胸膜播種再発した胃癌の 1 例 . デジタルポスター
2. 馬場 誠朗 , 秋山 有史 , 鳥谷 洋右 , 二階 春香 , 八重樫 瑞典 , 遠藤 史隆 , 梅邑 晃 , 片桐 弘勝 , 鈴木 信 , 岩谷 岳 , 新田 浩幸 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 . 教室における胃粘膜下腫瘍に対する腹腔鏡下胃楔状切除術と LECS の手術成績 . デジタルポスター

第 40 回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会 , 東京 , 2023/02/24 ～ 02/25

1. 八重樫 瑞典 . 直腸癌における Ileostomy の合併症に対する当科の周術期対策 . パネルディスカッション

第 59 回日本腹部救急医学会総会 , 宜野湾 , 2023/03/09 ～ 03/10

1. 有末 篤弘 . 待機的手術で救命し得た上腸間膜動脈閉塞症の 1 例 . 一般口演
2. 八重樫 瑞典 . エキスパートに訊く 一大腸がん手術の卓越した Heart(心意気)・Head(戦略)・Hand(技術) ー . ランチョンセミナー
3. 二階 春香 , 馬場 誠朗 , 秋山 有史 , 佐々木 章 . 上部消化管術後縫合不全に対する W-ED tube を用いた保存的加療の有用性 . 一般口演

＊ 梅邑 晃 . 一般演題 147 救急全般⑤ . 司会

＊ 佐々木 章 . 一般演題 食道 2. 司会

第 123 回日本外科学会定期学術集会 , 東京 , 2023/04/27 ～ 04/29

1. 武田 大樹 , 新田 浩幸 , 片桐 弘勝 , 菅野 将史 , 梅邑 晃 , 安藤 太郎 , 天野 怜 , 八重樫 瑞典 , 馬場 誠朗 , 鈴木 信 , 秋山 有史 , 佐々木 章 . 当科における UR-LA 膵癌に対する集学的治療の現状 . デジタルポスター

2. 梅邑 晃 , 佐々木 章 , 新田 浩幸 , 高橋 眞人 , 熊谷 秀基 , 片桐 弘勝 , 馬場 誠朗 , 八重樫 瑞典 , 秋山 有史 , 鈴木 信 . 減量・代謝改善手術におけるヘパトカインの変動と代謝動態の変化 . シンポジウム
3. 天野 総 , 石田 和茂 , 清川 真緒 , 橋元 麻生 , 松井 雄介 , 佐々木 章 . 当科における腋窩郭清をともなう乳癌手術での 超音波凝固切開装置使用の検討 . デジタルポスター
4. 石田 和茂 , 天野 総 , 八重樫 瑞典 , 馬場 誠朗 , 梅邑 晃 , 片桐 弘勝 , 鈴木 信 , 秋山 有史 , 新田 浩幸 , 佐々木 章 . 薬剤師と医師の診療連携におけるアンケート調査 . デジタルポスター

＊ 佐々木 章 . シンポジウム 14 減量・代謝改善手術 ネクストステージ . 司会

第 38 回日本臨床栄養代謝学会学術集会 , 神戸 , 2023/05/09 ～ 05/10

1. 島田 崇史 , 米澤 紗織 , 伊藤 凌 , 金子 千洋 , 柿澤 良江 , 小野 彰子 , 宇夫方 直子 , 小田 知靖 , 梅邑 晃 , 秋山 有史 , 遠藤 龍人 , 西村 行秀 , 小林 琢也 . ALS 患者の嚥下機能と食形態および舌圧との関係 . ポスター

＊ 梅邑 晃 . 一般演題 (ポスター)03 呼吸器・消化器 . 座長

＊ 秋山 有史 . 一般演題 (ポスター)13 高齢者・フレイル・サルコペニア 2. 座長

第 66 回日本糖尿病学会年次学術集会 , 鹿児島 , 2023/05/11 ～ 05/13

1. 佐々木 章 . 肥満治療 : 外科療法の観点から . シンポジウム
2. 八代 諭 , 金野 寛史 , 小田 知靖 , 長澤 幹 , 長谷川 豊 , 梅邑 晃 , 佐々木 章 , 石垣 泰 . 高度肥満者に対するマジンドールの体重減少効果と HbA1c に及ぼす影響 . 一般口演
3. 渡邉 康弘 , 山口 崇 , 田中 翔 , 齋木 厚人 , 佐々木 章 , 内藤 剛 , 松原 久裕 , 横手 幸太郎 , 岡住 慎一 , 卯木 智 , 山本 寛 , 太田 正之 , 石垣 泰 , 笠間 和典 , 関 洋介 , 辻野 元祥 , 白井 厚治 , 宮崎 安弘 , 正木 孝幸 , 永山 大二 , 龍野 一郎 . 腹腔鏡下スリーブ状胃切除術後の 2 型糖尿病再発に関連する因子についての検討 (多施設共同 J-SMART 研究サブグルー プ解析). 一般口演
4. 竹本 稔 , 林 愛子 , 稲葉 洋介 , 田中 智洋 , 全 泰和 , 林 秀樹 , 笠間 和典 , 齋木 厚人 , 佐々木 章 , 岡住 慎一 , 松原 久裕 , 龍野 一郎 . 高齢者高度肥満症患者の減量・代謝改善手術に関する検討 第 2 報 . 一般口演

第 21 回日本ヘルニア学会学術集会 , 大阪 , 2023/05/26 ～ 05/27

1. 石橋 正久 , 畠山 瑞生 , 有末 篤弘 . 傍ストーマヘルニアに対する腹腔鏡手術の治療成績 . 一般口演
2. 菊地 晃司 , 小川 雅彰 , 梅邑 晃 , 天野 怜 , 安藤 太郎 , 武田 大樹 , 菅野 将史 , 片桐 弘勝 , 新田 浩幸 , 佐々木 章 . 当科における enhanced-view totally extraperitoneal repair (eTEP) の導入 . 一般口演

第 41 回日本肝移植学会学術集会 , 松山 , 2023/06/01 ～ 06/02

1. 片桐 弘勝 , 新田 浩幸 , 菅野 将史 , 梅邑 晃 , 武田 大樹 , 安藤 太郎 , 天野 怜 , 佐々木 章 . リツキシマブと高用量 γ グロブリンを用いた脾臓摘出・血漿交換を施行しない ABO 不適合生体肝移植プロトコル . 一般口演
2. 梅邑 晃 , 新田 浩幸 , 片桐 弘勝 , 菅野 将史 , 武田 大樹 , 安藤 太郎 , 天野 怜 , 佐々木 章 . 低体重児に対する生体肝移植における完全腹腔鏡下 S2 monosegment グラフト採取術 . 一般口演
3. 天野 怜 , 新田 浩幸 , 片桐 弘勝 , 梅邑 晃 , 菅野 将史 , 武田 大樹 , 安藤 太郎 , 佐々木 章 . ABO 不適合生体肝移植後の胆管吻合部狭窄に対する磁石圧迫吻合術が有効であった 1 例 . 一般口演
4. 新田 浩幸 , 片桐 弘勝 , 菅野 将史 , 梅邑 晃 , 武田 大樹 , 安藤 太郎 , 天野 怜 , 佐々木 章 . 腹腔鏡下ドナー肝切除術の手術手技と成績 . ワークショップ

第 60 回日本小児外科学会学術集会 , 大阪 , 2023/06/01 ～ 06/03

1. 鈴木 信 , 田金 恵 , 小山 亮太 , 小林 めぐみ , 佐々木 章 . 完全重複腎盂尿管を有する膀胱尿管逆流症に対する気膀胱下膀胱尿管新吻合術 . ビデオセッション
2. 小林 めぐみ , 小山 亮太 , 鈴木 信 , 佐々木 章 . 学童期に根治術を行った Extensive Aganglionosis の 1 例 . ポスター
3. 小山 亮太 , 田金 恵 , 小林 めぐみ , 鈴木 信 , 佐々木 章 . 下腹壁原発ユーイング様肉腫の一幼児例 . ポスター

＊ 鈴木 信 . ポスター 21 手術手技・医工連携・先端技術 . 座長

第 48 回日本外科系連合学会学術集会 , 横浜 , 2023/06/07 ～ 06/09

1. 梅邑 晃 , 佐々木 章 , 二階 春香 , 高橋 眞人 , 熊谷 秀基 , 棚橋 洋太 , 岩崎 崇文 , 新田 浩幸 . 減量・代謝改善手術による閉塞型睡眠時無呼吸と非アルコール性脂肪肝炎の組織学的変化 . パネルディスカッション
2. 馬場 誠朗 , 二階 春香 , 秋山 有史 , 藤澤 良介 , 熊谷 秀基 , 八重樫 瑞典 , 梅邑 晃 , 片桐 弘勝 , 鈴木 信 , 新田 浩幸 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 . 当院の早期胃癌に対するロボット支援腹腔鏡下噴門側胃切除術の再建法 . ワークショップ
3. 石井 勇吾 , 御供 真吾 , 佐々木 教之 , 松井 雄介 , 新田 浩幸 , 佐々木 章 . 鼠径ヘルニア修復術 19 年後にメッシュプラグによる S 状結腸穿通をきたした 1 例 . ポスター
4. 熊谷 秀基 , 梅邑 晃 , 高橋 眞人 , 二階 春香 , 馬場 誠朗 , 片桐 弘勝 , 新田 浩幸 , 佐々木 章 . 高度肥満症患者の閉塞性睡眠時無呼吸スクリーニングにおける InBody 体成分分析の有用性 . ワークショップ

＊ 佐々木 章 . パネルディスカッション 2 本邦における減量・代謝改善外科の現状と課題 . 司会

第 36 回日本腹部放射線学会 , 仙台 , 2023/06/09 ～ 06/10

1. 向井田 瑛佑 , 田村 明生 , 藤田 洸太郎 , 折居 誠 , 加藤 健一 , 吉岡 邦浩 , 西谷 匡央 , 上杉 憲幸 , 菅井 有 , 阿部 珠美 , 遠藤 啓 , 及川 隆喜 , 黒田 英克 , 武田 大樹 , 菅野 将史 , 片桐 弘勝 , 新田 浩幸 . 成人先天性心疾患を背景に発生した HCC の一例 . セッション

第 59 回日本小児放射線学会学術集会 , 東京 , 2023/06/09 ～ 06/10

＊鈴木 信 . 一般演題 5 消化管・他 . 座長

第 65 回日本老年医学会学術集 , 横浜 , 2023/06/16 ～ 06/18

1. 竹本 稔 , 林 愛子 , 稲葉 洋介 , 田中 智洋 , 林 秀樹 , 笠間 和典 , 齋木 厚人 , 佐々木 章 , 岡住 慎一 , 龍野 一郎 . 減量・代謝改善手術の高齢者高度肥満症患者への適応に関する検討 第 2 報 . 一般口演

第 77 回日本食道学会学術集会 , 大阪 , 2023/06/29 ～ 06/30

1. 馬場 誠朗 , 二階 春香 , 秋山 有史 , 高橋 眞人 , 藤澤 良介 , 熊谷 秀基 , 遠藤 史隆 , 岩谷 岳 , 新田 浩幸 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 . 食道癌に対するロボット支援胸腔鏡下食道切除術の短期手術成績 . ポスター
2. 二階 春香 , 馬場 誠朗 , 秋山 有史 , 高橋 眞人 , 藤澤 良介 , 熊谷 秀基 , 遠藤 史隆 , 岩谷 岳 , 新田 浩幸 , 佐々木 章 . 当院における食道癌に対する Nivolumab 療法の治療成績 . ポスター
3. 遠藤 史隆 , 岩谷 岳 , 伊藤 浩平 , 秋山 有史 , 馬場 誠朗 , 二階 春香 , 板持 広明 , 西塚 哲 . NFE2L2 変異陽性食道扁平上皮の化学療法抵抗性 . 一般口演

第 31 回日本乳癌学会学術総会 , 横浜 , 2023/06/29 ～ 07/01

1. 三浦 一穂 , 土屋 希 , 鈴木 有紀 , 下田 弥生 , 川野 由美子 , 徳田 恵 , 天野 総 , 橋元 麻生 , 石田 和茂 , 木村 祐輔 . 乳がん患者へのアドバンスケアプランニングの現状と課題 . ポスター
2. 守谷 結美 , 土屋 希 , 石田 和茂 , 藤本 祐末 , 徳丸 剛久 , 尾上 琢磨 , 岸野 瑛美 , 大森 幸恵 , 吉田 奈央 . 若年乳がん患者のケアを向上させる . 会長特別企画
3. 石田 和茂 , 清川 真緒 , 橋元 麻生 , 天野 総 , 松井 雄介 , 小松 英明 , 佐々木 章 . 当科における BRACAnalysis 実施状況と結果の解析 . ポスター
4. 増田 慎三 , 伊藤 充矢 , 田辺 裕子 , 井上 賢一 , 河口 浩介 , 八十島 宏行 , 高野 利実 , 坂東 裕子 , 中村 力也 , 山中 隆司 , 石田 和茂 , 有賀 智之 , 柳田 康弘 , 徳永 えり子 , 青儀 健二郎 , 大野 真司 , 笠井 宏委 , 片岡 竜貴 , 森田 智視 , 戸井 雅和 . 原発性 HER2 陽性乳癌に対する T-DM1 術前薬物療法の可能性 (JBCRG-20). ポスター
5. 清川真緒 , 石田和茂 , 天野総 , 橋元麻生 , 松井雄介 , 小松英明 . リンパ節転移陽性乳癌に対する術前化学療法後のリンパ節転移 状況の検討 . ポスター
6. 橋元 麻生 , 清川 真緒 , 天野 総 , 松井 雄介 , 石田 和茂 , 小松 英明 , 佐々木 章 . cNO 乳癌における術前化学療法後のセンチネルリンパ節生検結果の検討 . ポスター
7. 天野 総 , 石田 和茂 , 清川 真緒 , 橋元 麻生 , 松井 雄介 , 小松 英明 , 佐々木 章 . 当科おける dose-dense 療法の検討 . ポスター
8. 有末 篤弘 , 玉澤 佳之 . 乳癌術後 15 年で胃転移再発と診断された 1 例 . ポスター

第 35 回日本肝胆膵外科学会学術集会 , 東京 , 2023/06/30 ～ 07/01

1. Takeda D, Nitta H, Katagiri H, Kanno S, Umemura A, Ando T, Amano S. Benefits of staging laparoscopy in the treatment of pancreatic cancer. Poster
2. Katagiri H, Nitta H, Kanno S, Umemura A, Takeda D, Ando T, Amano S, Kimura T, Sasaki A. Efforts for the introduction, the challenges and future prospects of Robotic-Assisted Liver Resection. Mini-Workshop
3. Umemura A, Nitta H, Katagiri H, Kanno S, Takeda D, Ando T, Amano S, Sasaki A. Extensively invasive gallbladder cancer from intracholecystic papillary neoplasm treated with pylorus-preserving pancreaticoduodenectomy and extended cholecystectomy. Poster
4. Kanno S, Nitta H, Katagiri H, Umemura A, Takeda D, Ando T, Amano S, Kimura T, Sasaki A. Treatment algorithm centered on laparoscopic surgery for gallbladder cancer. Workshop

＊Umemura A. Oral 13 Metastatic liver cancer 2. Moderators

＊Katagiri H. Oral 14 Bile duct cancer. Moderators

＊Nitta H. Video Symposium 1 Challenges in highly difficult laparoscopic liver resection 1. Moderators

＊Nitta H. Luncheon Seminar 4 Laparoscopic hepatectomy for the era of robotic surgery. Moderator

第 78 回日本消化器外科学会総会 , 函館 , 2023/07/12 ～ 07/14

1. 片桐 弘勝 , 新田 浩幸 , 菅野 将史 , 梅邑 晃 , 武田 大樹 , 安藤 太郎 , 天野 怜 , 平田 勇一郎 , 佐々木 章 . ロボット支援下肝切除術導入の取り組みと課題および展望 . 主題関連演題
2. 平田 勇一郎 , 武田 大樹 , 新田 浩幸 , 片桐 弘勝 , 菅野 将史 , 梅邑 晃 , 安藤 太郎 , 天野 怜 . 完全大血管転位術後 , うっ血肝に発症した若年発症肝細胞癌に対し腹腔鏡下肝切除術を施行した一例 . 一般口演
3. 武田 大樹 , 新田 浩幸 , 片桐 弘勝 , 菅野 将史 , 梅邑 晃 , 安藤 太郎 , 天野 怜 , 八重樫 瑞典 , 馬場 誠朗 , 佐々木 章 . 当科の UR-LA 膵癌治療の現状と今後の課題 . 一般口演
4. 二階 春香 , 馬場 誠朗 , 秋山 有史 , 八重樫 瑞典 , 梅邑 晃 , 片桐 弘勝 , 鈴木 信 , 新田 浩幸 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 . 切除不能進行・再発胃癌に対する Nivolumab 療法の投与経験 . 一般口演
5. 馬場 誠朗 , 二階 春香 , 秋山 有史 , 八重樫 瑞典 , 梅邑 晃 , 片桐 弘勝 , 鈴木 信 , 新田 浩幸 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 . ロボット支援腹腔鏡下噴門側胃切除術の短期成績 . 一般口演
6. 藤澤 良介 , 中村 侑哉 , 佐々木 秀策 , 藤井 仁志 , 皆川 幸洋 , 遠野 千尋 , 佐々木 章 . 原発性虫垂癌との鑑別を要した ,S 状結腸癌術後の盲腸播種再発の 1 例 . 一般口演

7. 新田 浩幸 . 肝切除術におけるトラブルシューティング 〜特に出血への対応について〜 . 教育講演
8. 藤井 仁志 , 藤澤 良介 , 中村 侑哉 , 佐々木 秀策 , 遠野 千尋 , 新田 浩幸 , 佐々木 章 . 腹壁浸潤を伴う局所進行大腸癌に対して術前化学療法が奏功した 1 例 . 一般口演
9. 天野 怜 , 新田 浩幸 , 片桐 弘勝 , 菅野 将史 , 梅邑 晃 , 武田 大樹 , 安藤 太郎 , 佐々木 章 . Covered Stent が有効であった膵頭十二指腸切除術後出血の症例 . 一般口演
10. 大塚 観喜 , 武田 大樹 , 奥津 美里 , 天野 怜 , 安藤 太郎 , 菅野 将司 , 梅邑 晃 , 片桐 弘勝 , 新田 浩幸 , 佐々木 章 . 腹腔鏡下手術で完全切除に至った後腹膜原発成熟嚢胞性奇形腫の一例 . 一般口演
11. 菅野 将史 , 新田 浩幸 , 片桐 弘勝 , 梅邑 晃 , 武田 大樹 , 安藤 太郎 , 天野 怜 , 平田 勇一郎 , 佐々木 章 . 高齢者膵癌における膵頭十二指腸切除の適応と限界 . 要望演題
12. 口田 脩太 , 新田 浩幸 , 佐々木 章 . 胃局所浸潤を伴う膵 SPN に対する多臓器合併切除後に腹腔鏡下再肝切除術を施行した 1 例 . 専攻医セッション
13. 奥津美里 , 武田 大樹 , 天野 怜 , 安藤 太郎 , 菅野 将史 , 梅邑 晃 , 片桐 弘勝 , 新田 浩幸 , 佐々木 章 . 腹膜に発生した巨大孤立性線維性腫瘍の 1 例 . 一般口演
14. 嶋田拓明 , 佐々木秀策 , 藤井仁志 . 残胃癌により生じた輸入脚閉塞に対し内視鏡・手術と二期的に行った症例 . 一般口演
15. 石橋 正久 , 畠山 瑞生 , 有末 篤弘 . 下腹部術後の鼠径部ヘルニアに対するメッシュプラグ法と腹腔鏡下修復法の比較検討 . 要望演題ビデオ
16. 菊地 晃司 , 梅邑 晃 , 天野 怜 , 安藤 太郎 , 武田 大樹 , 菅野 将史 , 片桐 弘勝 , 新田 浩幸 , 佐々木 章 . A case of pathological CR with nal-IRI + 5-FU/LV for unresectable locally advanced pancreatic cancer. 一般口演

＊ 佐々木 章 . ワークショップ 7【総論】減量・代謝改善手術の現状と将来展望 . 司会
＊ 八重樫 瑞典 . 一般演題 164【総論】ヘルニア 6. 座長

第 11 回日本くすりと糖尿病学会学術集会 , 神戸 , 2023/09/02 〜 09/03

1. 佐々木 章 . 肥満症・糖尿病に対する減量・代謝改善手術の現状と展望 . 大会特別企画 1

日本睡眠学会第 45 回定期学術集会・第 30 回日本時間生物学会学術大会 合同大会 , 横浜 , 2023/09/15 〜 09/17

1. 山口 貴之 , 峯田 武典 , 白石 としえ , 白濱 龍太郎 , 細川 里絵 , 細川 敬輔 , 武田 智弓 , 豊巻 世津子 , 佐々木 章 , 西島 嗣生 . BMI>35kg/m^2 の肥満に合併する閉塞性睡眠時無呼吸症候群に対する減量・代謝改善手術の効果 . ポスター

第 65 回日本小児血液・がん学会学術集会 , 札幌 , 2023/09/29 〜 10/01

1. 鈴木 信 , 小山 亮太 , 田金 恵 , 藤野 順子 , 吉田 太郎 , 及川 慶介 , 佐々木 章 . 下腹壁原発 NTRK-rearranged spindle cell neoplasm の一幼児例 . 一般口演

第 61 回日本癌治療学会学術集会 , 横浜 , 2023/10/19 〜 10/21

1. 岩谷 岳 , 遠藤 史隆 , 八重樫 瑞典 , 佐々木 教之 , 佐々木 智子 , 藤澤 良介 , 開 勇人 , 阿保 亜紀子 , 板持 広明 , 西塚 哲 . がん患者診療における Circulating tumor DNA 検査の意義 . 優秀演題

＊ 新田 浩幸 . 一般口演 51 膵臓 (手術、集学的治療)1. 座長

第 39 回日本小児外科学会秋季シンポジウム , 福岡 , 2023/10/26 〜 10/28

1. 藤野 順子 . Complicated Appendicitis にドレーンが必要でないことの後方視的検討 . シンポジウム
2. 小山 亮太 , 田金 恵 , 藤野 順子 , 鈴木 信 , 佐々木 章 . 脳室腹腔内シャントを有する患児に対する腹腔鏡下手術 . セッション

第 31 回日本消化器関連学会週間 (JDDW 2023 KOBE), 神戸 , 2023/11/02 〜 11/05

1. 馬場 誠朗 , 二階 春香 , 熊谷 秀基 , 藤澤 良介 , 遠藤 史隆 , 八重樫 瑞典 , 梅邑 晃 , 片桐 弘勝 , 秋山 有史 , 鈴木 信 , 岩谷 岳 , 新田 浩幸 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 . 教室の胃 GIST に対する手術成績 . ポスター

＊ 新田 浩幸 . 胆道 (炎症性疾患・悪性腫瘍 (再発・転移)・術後合併症). 座長
＊ 佐々木 章 . 食道・咽頭 (手術治療 (良性・悪性)・内視鏡下手術 (悪性)). 座長

第 78 回日本大腸肛門病学会学術集会 , 熊本 , 2023/11/10 〜 11/11

1. 八重樫 瑞典 , 高清水 清治 , 佐々木 教之 , 畑中 智貴 , 岩崎 崇文 , 大塚 観喜 , 琴畑 洋介 . 当科における脾彎曲部癌に対する腹腔鏡下手術を安全に行うためのアプローチ法と内ヘルニア対策 . 一般口演

第 45 回日本臨床栄養学会総会・第 44 回日本臨床栄養協会総会 第 21 回大連合大会 , 大阪 , 2023/11/11 〜 11/12

1. 梅邑 晃 , 佐々木 章 , 熊谷 秀基 , 棚橋 洋太 , 岩崎 崇文 , 新田 浩幸 . 高度肥満症患者に対する減量・代謝改善手術前減量による非アルコール性脂肪性肝炎の改善効果 . 一般口演
2. 岩崎 崇文 , 佐々木 章 , 梅邑 晃 , 熊谷 秀基 , 棚橋 洋太 , 二階 春香 , 片桐 弘勝 , 新田 浩幸 . 当院における腹腔鏡下スリーブ状胃切除術の治療成績 . 一般口演
3. 棚橋 洋太 , 梅邑 晃 , 岩崎 崇文 , 熊谷 秀基 , 片桐 弘勝 , 新田 浩幸 , 佐々木 章 . 減量・代謝手術前後の栄養管理・指導の有効性 . 一般口演

＊ 佐々木 章 . 日本臨床栄養代謝学会合同シンポジウム がんサルコペニアにおける栄養や運動の役割を改めて考え直す . 座長
＊ 新田 浩幸 . 一般演題 08 外科系② . 座長

第 85 回日本臨床外科学会総会 , 岡山 , 2023/11/16 〜 11/18

1. 畠山 瑞生 , 石橋 正久 , 有末 篤弘 . 腹腔鏡下胆嚢摘出術後に肝被膜下血腫を来し血管内治療を要した一例 . 一般示説

2. 新田 浩幸 , 片桐 弘勝 , 菅野 将史 , 梅邑 晃 , 武田 大樹 , 安藤 太郎 , 天野 怜 , 佐々木 章 . 当科における腹腔鏡下肝切除術の手術手技と教育 . ワークショップ
3. 川上 亜紀子 , 藤澤 健太郎 , 屋成 信吾 , 野田 宏伸 , 玉澤 佳之 . Cronkhite-Canada 症候群に横行結腸癌を合併した一例 . 一般口演
4. 伊藤 浩平 . 肛門悪性黒色腫術後の小腸転移の一例 . ポスター発表

＊ 馬場 誠朗 . 一般示説 84 胃・十二指腸⑩ . 座長
＊ 梅邑 晃 . 一般示説 137 ヘルニア・他⑩ . 座長
＊ 片桐 弘勝 . 一般示説 38 胆嚢・膵臓・脾臓・門脈⑲ . 座長
＊ 鈴木 信 . 一般示説 35 胆嚢・膵臓・脾臓・門脈⑯ . 座長
＊ 石田 和茂 . 一般示説 17 乳腺① . 座長
＊ 藤野 順子 . 一般示説 122 小児 . 座長
＊ 片桐 弘勝 . 研修医セッション 肝② . 座長

第 44 回日本肥満学会・第 41 回日本肥満症治療学会学術集会 , 仙台 , 2023/11/25 ～ 11/26

1. 冨樫 弘文 , 吉田 絵里子 , 長谷川 豊 , 高橋 智 , 佐藤 悠 , 佐々木 駿 , 松下 百合子 , 千田 愛 , 半谷 真理 , 小田 知靖 , 長澤 幹 , 梅邑 晃 , 佐々木 章 , 石垣 泰 . スリーブ状胃切除術前後での持続血糖モニタリングを用いた血糖プロ ファイルの検討 . 一般口演
2. 梅邑 晃 , 佐々木 章 , 石垣 泰 , 宇夫方 直子 , 熊谷 秀基 , 棚橋 洋太 , 岩崎 崇文 , 新田 浩幸 . 超高度肥満患者に対する多職種連携チームによる減量・代謝改善手術の 取り組み . パネルディスカッション
3. 梅邑 晃 , 佐々木 章 , 笠間 和典 , 稲嶺 進 , 関 洋介 , 柿坂 啓介 , 石垣 泰 . 肥満 NASH に対する減量・代謝改善手術の病理組織学的改善効果と肝線維化の予測因子 . シンポジウム
4. 渡邉 康弘 , 山口 崇 , 齋木 厚人 , 佐々木 章 , 内藤 剛 , 松原 久裕 , 横手 幸太郎 , 岡住 慎一 , 卯木 智 , 山本 寛 , 太田 正之 , 石垣 泰 , 笠間 和典 , 関 洋介 , 辻野 元祥 , 白井 厚治 . 高齢者に対するスリーブ状胃切除術の成績 (J-SMART 研究サブ解析). 一般口演
5. 竹本 稔 , 林 愛子 , 林 秀樹 , 稲葉 洋介 , 河野 貴史 , 石田 晶子 , 田中 智洋 , 全 泰和 , 笠間 和典 , 齋木 厚人 , 佐々木 章 , 岡住 慎一 , 松原 久裕 , 龍野 一郎 . 高齢者肥満外科手術適用委員会 委員会報告 . 一般口演
6. 棚橋 洋太 , 梅邑 晃 , 岩崎 崇文 , 熊谷 秀基 , 片桐 弘勝 , 新田 浩幸 , 佐々木 章 . 腹腔鏡下スリーブ状胃切除術術後の縦隔脂肪量の変化と呼吸機能の関連 . 一般口演
7. 小田 知靖 , 石垣 泰 , 八代 諭 , 長澤 幹 , 武部 典子 , 長谷川 豊 , 岡田 健太 , 梅邑 晃 , 佐々木 章 . 経口ブドウ糖負荷試験でみた減量・代謝改善手術前後のインスリン分泌 および血中 GLP-1 の変化 . 一般口演
8. 岩崎 崇文 , 佐々木 章 , 梅邑 晃 , 熊谷 秀基 , 棚橋 洋太 , 二階 春香 , 片桐 弘勝 , 鈴木 信 , 新田 浩幸 . 非糖尿病高度肥満症患者の減量・代謝改善手術による血中ケトン体の変化と術後変化との関連 . 一般口演
9. 宇夫方 直子 , 佐々木 章 , 梅邑 晃 , 俵 万里子 , 佐藤 由美 , 大畠 美紗子 , 小野 彰子 , 小野寺 由起 . 減量・代謝改善手術における術前減量成績 . 一般口演
10. 熊谷 秀基 , 梅邑 晃 , 高橋 眞人 , 棚橋 洋太 , 岩崎 崇文 , 片桐 弘勝 , 新田 浩幸 , 佐々木 章 . 高血圧症に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術の長期的な治療効果と寛解・再発因子の検討 . 一般口演

＊ 佐々木 章 . JSTO ビデオシンポジウム 減量・代謝改善手術の合併症とその対策 . 座長
＊ 佐々木 章 . ランチョンセミナー 腸内細菌代謝産物と肥満 . 座長
＊ 佐々木 章 . 日本肝臓学会・JSTO 合同シンポジウム 肥満の制御から考える脂肪性肝疾患に対する新しいアプローチ . 座長
＊ 梅邑 晃 . JSTO 一般演題 (ポスター 7) 外科治療～成績 1 ～ . 座長

第 36 回日本内視鏡外科学会総会 , 横浜 , 2023/12/07 ～ 12/09

1. 木村 拓 , 新田 浩幸 , 片桐 弘勝 , 菅野 将史 , 梅邑 晃 , 武田 大樹 , 安藤 太郎 , 天野 怜 , 川島 到真 , 口田 脩太 , 八重樫 瑞典 , 馬場 誠朗 , 鈴木 信 , 佐々木 章 . 腹腔鏡下肝切除術におけるスコピストが手術に及ぼす影響 . ミニオーラル
2. 二階 春香 , 馬場 誠朗 , 鳥谷 洋右 , 藤澤 良介 , 熊谷 秀基 , 秋山 有史 , 八重樫 瑞典 , 梅邑 晃 , 片桐 弘勝 , 新田 浩幸 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 . 非穿孔式内視鏡的胃壁内反切除術により診断しえた胃内反性過誤腫の一例 . ミニオーラル
3. 西成 悠 , 石橋 正久 , 奥津 美里 , 佐々木 智子 , 大山 健一 , 新田 浩幸 , 佐々木 章 . 当院における結腸憩室穿孔に対しての腹腔鏡下手術の検討 . ミニオーラル
4. 藤澤 良介 , 馬場 誠朗 , 二階 春香 , 熊谷 秀基 , 棚橋 洋太 , 八重樫 瑞典 , 藤野 順子 , 梅邑 晃 , 片桐 弘勝 , 鈴木 信 , 秋山 有史 , 新田 浩幸 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 . 胃癌に対するロボット支援腹腔鏡下胃全摘術の短期手術成績 . 一般口演
5. 伊藤 浩平 , 塩井 義裕 , 佐藤 一 , 佐々木 章 . 馬蹄腎を合併した直腸癌に対する腹腔鏡下直腸切断術の一例 . ミニオーラル
6. 中村 侑哉 , 川村 英伸 , 細井 信之 , 藤社 勉 , 佐々木 章 . 当院における腹壁ヘルニアに対する MILOS 法の導入 . ミニオーラル
7. 梅邑 晃 , 佐々木 章 , 熊谷 秀基 , 棚橋 洋太 , 岩崎 崇文 , 片桐 弘勝 , 新田 浩幸 . NASH 合併高度肥満症患者における減量・代謝改善手術前後のケトン体濃度の NASH 改善効果との関連 . シンポジウム
8. 片桐 弘勝 , 新田 浩幸 , 菅野 将史 , 梅邑 晃 , 武田 大樹 , 安藤 太郎 , 天野 怜 , 川島 到真 , 木村 拓 , 口田 脩太 , 八重樫 瑞典 , 馬場 誠朗 , 鈴木 信 , 佐々木 章 . ロボット支援下膵体尾部切除術導入の手技・成績からみた課題と展望 . 一般口演
9. 武田 大樹 , 新田 浩幸 , 片桐 弘勝 , 菅野 将史 , 梅邑 晃 , 安藤 太郎 , 天野 怜 , 川島 到真 , 木村 拓 , 口田 脩太 , 八重樫 瑞典 , 馬場 誠朗 , 鈴木 信 , 佐々木 章 . 主要脈管に病変が近接した S7、S8 領域高難度肝切除における HALS の有用性 . 一般口演

10. 馬場 誠朗 , 西成 悠 , 二階 春香 , 鳥谷 洋右 , 藤澤 良介 , 熊谷 秀基 , 八重樫 瑞典 , 藤野 順子 , 梅邑 晃 , 片桐 弘勝 , 鈴木 信 , 秋山 有史 , 肥田 圭介 , 新田 浩幸 , 佐々木 章 . 教室における LECS の治療成績 . 一般口演
11. 大山 健一 , 西成 悠 , 佐々木 智子 , 奥津 美里 , 新田 浩幸 , 佐々木 章 . RALP 術後に発症したソケイヘルニア症例に対する腹腔鏡下アプローチの検討 . 一般口演
12. 川島 到真 , 口田 脩太 , 木村 拓 , 天野 怜 , 安藤 太郎 , 武田 大樹 , 梅邑 晃 , 菅野 将史 , 片桐 弘勝 , 新田 浩幸 , 佐々木 章 . 当施設でのロボット支援下膵体尾部切除術における Grade B/C 膵液瘻予防の取り組み . ミニオーラル
13. 菅野 将史 , 新田 浩幸 , 片桐 弘勝 , 梅邑 晃 , 武田 大樹 , 安藤 太郎 , 天野 怜 , 川島 到真 , 木村 拓 , 口田 脩太 , 佐々木 章 . 当科における腹腔鏡下肝尾状葉切除 . シンポジウム
14. 新田 浩幸 , 片桐 弘勝 , 菅野 将史 , 梅邑 晃 , 武田 大樹 , 安藤 太郎 , 天野 怜 , 川島 到真 , 木村 拓 , 佐々木 章 . 当科における腹腔鏡下ドナー肝切除術の手術手技と成績 . パネルディスカッション
15. 口田 脩太 , 武田 大樹 , 新田 浩幸 , 片桐 弘勝 , 菅野 将史 , 梅邑 晃 , 安藤 太郎 , 天野 怜 , 川島 到真 , 木村 拓 , 八重樫 瑞典 , 馬場 誠朗 , 鈴木 信 , 佐々木 章 . 当院での膵癌に対する審査腹腔鏡の手術手技と若手外科医への教育的意義 . 一般口演
16. 石橋 正久 , 畠山 瑞生 , 有末 篤弘 . 腹腔鏡下胆嚢摘出術における内視鏡スコープホルダーロックアームの有用性および安全性の検討 . 一般口演
17. 藤野 順子 , 田金恵 , 小山亮太 , 八重樫 瑞典 , 馬場 誠朗 , 梅邑 晃 , 片桐 弘勝 , 鈴木 信 , 新田 浩幸 , 佐々木 章 . 地方都市における高難度新生児内視鏡手術の導入と指導医育成 . シンポジウム
18. 熊谷 秀基 , 梅邑 晃 , 高橋 眞人 , 棚橋 洋太 , 岩崎 崇文 , 片桐 弘勝 , 新田 浩幸 , 佐々木 章 . 肥満症外科治療センター開設とチーム医療の成熟化による減量・代謝改善手術患者の集約 . パネルディスカッション
19. 琴畑 洋介 , 八重樫 瑞典 , 高清水 清治 , 佐々木 教之 , 畑中 智貴 , 岩崎 崇文 , 大塚 観喜 , 馬場 誠朗 , 梅邑 晃 , 片桐 弘勝 , 鈴木 信 , 新田 浩幸 , 佐々木 章 . 後腹膜経路による人工肛門造設術後に絞扼性腸閉塞を来した直腸癌の 1 例 . 一般口演
20. 八重樫 瑞典 , 高清水 清治 , 佐々木 教之 , 畑中 智貴 , 岩崎 崇史 , 大塚 観喜 , 琴畑 洋介 , 馬場 誠朗 , 梅邑 晃 , 片桐 弘勝 , 鈴木 信 , 新田 浩幸 , 佐々木 章 . 当科における腹腔鏡下低位前方切除に対する縫合不全軽減対策 . ワークショップ
21. 棚橋 洋太 , 梅邑 晃 , 岩崎 崇文 , 熊谷 秀基 , 新田 浩幸 , 佐々木 章 . Super obesity 症例に対する術前減量による手術難易度・周術期リスクの低減効果 . 一般口演
22. 小山 亮太 , 田金 恵 , 八重樫 瑞典 , 馬場 誠朗 , 藤野 順子 , 梅邑 晃 , 片桐 弘勝 , 鈴木 信 , 新田 浩幸 , 佐々木 章 . 腹腔鏡下膵腫瘍核出術を施行した膵充実性偽乳頭状腫瘍の一女児例 . 一般口演
23. 安藤 太郎 , 八重樫 瑞典 . 腹腔鏡下で後腹膜神経鞘腫摘出を施行した 2 例 . ミニオーラル
24. 佐々木 教之 , 八重樫 瑞典 , 高清水 清治 , 畑中 智貴 , 菅野正紀 , 岩崎 崇文 , 大塚 観喜 , 馬場 誠朗 , 梅邑 晃 , 片桐 弘勝 , 新田 浩幸 , 佐々木 章 . 当科における左側大腸憩室炎に対する腹腔鏡下手術の治療成績 . ワークショップ

＊馬場 誠朗 . ミニオーラル 8 胃・十二指腸良性 症例報告 3. 司会
＊新田 浩幸 . シンポジウム 21 高難度腹腔鏡下肝切除術の手術手技と成績 . 司会
＊佐々木 章 . シンポジウム 減量・代謝改善手術の適応拡大を目指した最新エビデンス . 座長
＊鈴木 信 . ミニオーラル 11 小児外科 消化管 1. 司会

第 36 回日本外科感染症学会総会学術集会 , 北九州 , 2023/12/15 ～ 12/16

1. 梅邑 晃 , 佐々木 章 , 須藤 隆之 , 藤原 久貴 , 天野 怜 , 棚橋 洋太 , 小野寺 直人 , 及川 みどり , 新田 浩幸 . 緊急および待機消化器外科手術症例に対する術前消毒薬としてのポビドンヨードとオラネキシジンの単施設前向きランダム化比較試験 . 一般口演
2. 及川 みどり , 小野寺 直人 , 庄司 弘美 , 梅邑 晃 , 高清水 清治 , 大森 紀和 , 齋藤 葉子 , 兼平 貢 , 遠藤 史隆 , 嶋守 一恵 , 近藤 啓子 , 長島 広相 . 多職種で構成する外科周術期感染管理チーム (SPICT) 活動の推進 : エビデンスの構築に向けて . 要望演題

講演会・研究会・セミナー

日本消化器病学会東北支部第 214 回例会 , 仙台 , 2023/02/11

1. 澤井 駿亮 , 平井 みなみ , 阿部 弘昭 , 米澤 剛広 , 笹生 俊一 , 新田 浩幸 , 上杉 憲幸 , 水谷 久太 . 当科で経験した Intracystic Papillary Neoplasm の 1 例 . 一般口演

＊佐々木 章 . 特別企画 2「目指せ ! 消化器病専門医 ― 専攻医からの報告」. 審査員

第 476 回八戸外科集団会 , 八戸 , 2023/02/17

1. 八重樫 瑞典 . これからの大腸癌治療 . 講演

第 15 回北東北 LAC 情報交換会 , 盛岡 , 2023/02/18

＊八重樫 瑞典 . 基調講演 . 座長

第 20 回日本乳癌学会東北地方会 , 仙台 , 2023/03/01 ～ 03/05

1. 橋元 麻生 , 清川 真緒 , 天野 総 , 松井 雄介 , 石田 和茂 , 佐々木 章 . 急速な臨床経験をたどった乳房腫瘤の一例 . 一般口演
2. 石田 和茂 , 清川 真緒 , 橋元 麻生 , 天野 総 , 松井 雄介 , 佐々木 章 . 岩手県の地域乳腺診療における現状と課題 . シンポジウム
3. 川島 到真 , 塩井 義裕 , 竹花 教 , 佐藤 一 . 当院における乳癌手術症例の検討 . 一般口演

＊ 石田 和茂 . スペシャルセッション 2「HER2,Luminal HER タイプ」. 座長

第 8 回腹部集中治療研究会 , 盛岡 , 2023/03/03

1. 安藤 太郎 . 肝胆膵領域周術期における門脈血栓症に対する治療経験 . 一般口演

＊ 佐々木 章 . 特別講演 高難度手術とその周術期管理法を再考する . 座長

第 132 回日本消化器病学会北海道支部例会 , 札幌 , 2023/03/04 ～ 03/05

1. 千葉 丈広 , 村松 里沙 , 吉田 瑛司 , 及能 拓朗 , 川岸 涼子 , 佐藤 慧 , 木村 聡元 , 米澤 仁志 , 舩渡 治 , 木村 仁 , 小林 慎 , 山野 三紀 , 髙金 明典 . 興味深い所見を呈した回盲弁癌の 1 例 . 一般口演

第 33 回東北消化器病研究会 , オンライン開催 , 2023/03/18

1. 小山 亮太 , 田金 恵 , 鈴木 信 , 佐々木 章 . 学童時に Martin 法による根治術を行った Extensive aganglionosis の一例 . 一般口演

第 25 回岩手内視鏡外科研究会 , 盛岡 , 2023/04/15

＊ 佐々木 章 . 特別講演Ⅰ Navigation Surgery を駆使した低侵襲肝胆膵手術の実際と未来 - 蛍光イメージングと AI による color coded surgery を目指して -. 座長

＊ 新田 浩幸 . 一般演題 . 座長

第 25 回外科分子細胞治療研究会 , 東京 , 2023/04/28

1. 岩谷 岳 , 遠藤 史隆 . 消化器癌における circulating tumor DNA モニタリングシステムの開発 . 一般口演

痛みの治療 Web セミナー , Zoom, 2023/05/12

＊ 馬場 誠朗 . 特別講演 . 座長

第 77 回手術手技研究会 , 名古屋 , 2023/05/12 ～ 05/13

1. 新田 浩幸 , 佐々木 章 . 当科における腹腔鏡下肝切除術の教育 . 主題

第 34 回内視鏡外科フォーラム in 盛岡 , 盛岡 , 2023/05/20

1. 安藤 太郎 , 天野 怜 , 武田 大樹 , 梅邑 晃 , 菅野 将史 , 片桐 弘勝 , 新田 浩幸 , 佐々木 章 . 巨大肝転移を有する FAP に対し、腹腔鏡下で二期的に肝右葉切除と結腸全摘術を施行した一例 . 一般口演
2. 奥津 美里 , 馬場 誠朗 , 二階 春香 , 藤澤 良介 , 熊谷 秀基 , 八重樫 瑞典 , 梅邑 晃 , 片桐 弘勝 , 鈴木 信 , 秋山 有史 , 新田 浩幸 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 . Side-Overlap 法を用いた腹腔鏡下噴門側胃切除の機能温存の工夫 . 一般口演
3. 加藤 久仁之 , 大山 健一 , 西成 悠 , 石橋 正久 , 加藤 典博 , 佐々木 章 . 直腸脱に対する、腹腔鏡下直腸挙上固定術の治療成績 . 一般口演
4. 岩崎 崇文 , 須藤 隆之 , 池田 健一郎 , 藤原 久貴 , 松尾 鉄平 , 佐々木 章 . 偶発的に発見された右副腎骨髄脂肪腫を腹腔鏡下に切除し得た一例 . 一般口演
5. 熊谷 秀基 , 佐々木 章 , 梅邑 晃 , 片桐 弘勝 , 新田 浩幸 . 原発性アルドステロン症を併発した高度肥満症患者に対する二期的治療戦略 . 初期研修医・専攻医優秀演題セッション
6. 佐々木 智子 , 加藤 久仁之 , 大山 健一 , 杉村 好彦 . 急性腹症で発症した肝円索膿瘍に対して腹腔鏡手術を施行した 1 例 . 初期研修医・専攻医優秀演題セッション
7. 新田 浩幸 , 須藤 隆之 , 池田 健一郎 , 藤原 久貴 , 松尾 鉄平 , 佐々木 章 . 腹腔鏡下手術の重要性 ～ロボット手術新時代を見据えて～ . シンポジウム
8. 石井 勇吾 , 御供 真吾 , 松井 雄介 , 佐々木 教之 , 佐々木 章 . 上行結腸癌術後吻合部との十二指腸瘻孔形成に対し保存的加療を行った 1 例 . 一般口演
9. 石橋 正久 , 棚橋 洋太 , 西成 悠 . TAPP における内視鏡スコープホルダーロックアームの安全性および有用性の検討 . 一般口演
10. 大山 健一 , 加藤 久仁之 , 佐々木 智子 , 新田 浩幸 , 佐々木 章 . メッシュ術後の再発ソケイヘルニア症例に対する TAPP 変法の検討 . 一般口演
11. 棚橋 洋太 , 西成 悠 , 石橋 正久 , 梅邑 晃 , 新田 浩幸 , 佐々木 章 . 有棘縫合糸を用いて縫合閉鎖を行なった腹腔鏡下胆嚢亜全摘術の治療成績 . 初期研修医・専攻医優秀演題セッション
12. 中村 侑哉 , 川村 英伸 , 宮本 將秀 , 細井 信之 , 藤社 勉 , 佐々木 章 . 腹壁ヘルニアに対する MILOS 法 . 一般口演
13. 梅邑 晃 , 佐々木 章 , 二階 春香 , 高橋 眞人 , 熊谷 秀基 , 棚橋 洋太 , 岩崎 崇文 , 新田 浩幸 . 減量・代謝改善手術による気管支喘息に対する治療効果 . 一般口演
14. 梅邑 晃 , 新田 浩幸 , 片桐 弘勝 , 菅野 将史 , 武田 大樹 , 安藤 太郎 , 天野 怜 , 佐々木 章 . T2 胆嚢癌に対する肝十二指腸間膜 en-bloc 郭清による完全腹腔鏡下肝床切除術の定型化 . 一般口演
15. 八重樫 瑞典 , 高清水 清治 , 佐々木 教之 , 畑中 智貴 , 岩崎 崇文 , 大塚 観喜 , 琴畑 洋介 , 馬場 誠朗 , 梅邑 晃 , 片桐 弘勝 , 鈴木 信 , 新田 浩幸 , 佐々木 章 . 当科におけるロボット支援手術の 普及と術者教育の問題 . ワークショップ
16. 片桐 弘勝 , 新田 浩幸 , 菅野 将史 , 梅邑 晃 , 武田 大樹 , 安藤 太郎 , 天野 怜 , 川島 到真 , 木村 拓 , 口田 脩太 , 佐々木 章 . ロボット支援下肝胆膵手術導入の取り組みと課題および展望 . シンポジウム

17. 鈴木 信 , 田金 恵 , 小山 亮太 , 藤野 順子 , 佐々木 章 . 当院における新生児・乳児に対する内視鏡外科手術 . 一般口演

＊佐々木 章 . スポンサードシンポジウム 2 新型 4K・3D 内視鏡システムとエネルギーデバイスがもたらす腹腔鏡下手術の新たな可能性 . 座長

＊新田 浩幸 . 領域横断シンポジウム 1 各領域におけるロボット支援下手術の現状と東北における展望 (消化器外科). ディスカッサント

＊藤野 順子 . セッションⅠ (婦人科・小児外科). 座長

＊八重樫 瑞典 , 高清水 清治 , 佐々木 教之 , 畑中 智貴 , 岩崎 崇文 , 大塚 観喜 , 琴畑 洋介 , 馬場 誠朗 , 梅邑 晃 , 片桐 弘勝 , 鈴木 信 , 新田 浩幸 , 佐々木 章 . セッションⅢ (下部消化管). 座長

第 2 回 Archive Meeting ～呼吸器外科 / 消化器外科領域横断セミナー～ , 金沢市 , 2023/05/26

1. 佐々木 章 . 最新研究が切り拓く肥満症治療 . 特別講演

BTC Online Seminar in Iwate, オンライン開催 , 2023/05/30

1. 武田 大樹 . 胆道癌の治療変遷～外科医の立場より～ . 基調講演

＊新田 浩幸 . 基調講演 . 座長

第 183 回東北外科集談会 , 仙台 , 2023/06/10

1. 琴畑 洋介 , 八重樫 瑞典 , 高清水 清治 , 畑中 智貴 , 平田 勇一郎 , 奥津 美里 , 口田 脩太 , 新田 浩幸 , 馬場 誠朗 , 秋山 有史 , 佐々木 章 . 大腸癌化学療法中の 5FU に伴った高アンモニア血症 . 一般口演
2. 口田 脩太 , 武田 大樹 , 新田 浩幸 , 片桐 弘勝 , 菅野 将史 , 梅邑 晃 , 安藤 太郎 , 天野 怜 , 佐々木 章 . 巨大な肝 MCN に対し腹腔鏡下肝左葉切除を施行した 1 例 . 一般口演
3. 小山 亮太 , 田金 恵 , 藤野 順子 , 鈴木 信 , 佐々木 章 . 先天性胆道拡張症胎児診断例に対する治療方針 . 一般口演
4. 藤井 仁志 , 嶋田 拓明 , 藤澤 良介 , 中村 侑哉 , 佐々木 秀策 , 遠野 千尋 , 新田 浩幸 , 佐々木 章 . 腹壁腫瘍摘出術に Components separation 法を併用した 1 例 . 一般口演
5. 藤澤 良介 , 馬場 誠朗 , 二階 春香 , 熊谷 秀基 , 八重樫 瑞典 , 梅邑 晃 , 片桐 弘勝 , 鈴木 信 , 秋山 有史 , 新田 浩幸 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 . 腹腔鏡下幽門保存胃切除後の残胃癌にロボット支援腹腔鏡下幽門側胃切除術を行った 1 例 . 一般口演
6. 梅邑 晃 , 佐々木 章 , 高橋 眞人 , 熊谷 秀基 , 棚橋 洋太 , 岩崎 崇文 , 片桐 弘勝 , 菅野 将史 , 武田 大樹 , 安藤 太郎 , 天野 怜 , 新田 浩幸 . 減量・代謝改善手術後の計画的二期手術症例の検討 . 一般口演

Colorectal cancer forum, 盛岡 , 2023/06/20

＊八重樫 瑞典 . 直腸癌ロボット手術について . 座長

第 15 回いわて肥満症治療セミナー , 盛岡 , 2023/06/30

＊佐々木 章 . 特別講演 1 後腹膜脂肪量の変化からみた減量・代謝改善手術の慢性腎臓病と高血圧に対する治療効果 . 座長

第 29 回侵襲とサイトカイン研究会 , 東京 , 2023/07/06

1. 岩佐友寛 , 新田 浩幸 , 片桐 弘勝 , 菅野 将史 , 梅邑 晃 , 武田 大樹 , 安藤 太郎 , 天野 怜 , 佐々木 章 . 腹腔鏡下肝切除術における近赤外線分光法を用いた脳血流変化と高次脳機能に関する検討 . 優秀演題
2. 菊地 晃司 , 片桐 弘勝 , 新田 浩幸 , 菅野 将史 , 梅邑 晃 , 武田 大樹 , 安藤 太郎 , 天野 怜 , 小川 雅彰 , 佐々木 章 . ヒト肝臓手術における Muse 細胞動態 . 優秀演題
3. 熊谷 秀基 , 佐々木 章 , 梅邑 晃 , 二階 春香 , 高橋 眞人 , 棚橋 洋太 , 岩崎 崇史 , 片桐 弘勝 , 新田 浩幸 . 腹腔鏡下スリーブ状胃切除術後の減量・代謝改善効果と TGF- β シグナル伝達経路の関連 . 優秀演題
4. 口田 脩太 , 片桐 弘勝 , 新田 浩幸 , 菅野 将史 , 梅邑 晃 , 武田 大樹 , 安藤 太郎 , 天野 怜 , 川島 到真 , 木村 拓 , 佐々木 章 . アンチトロンビンⅢとエドキサバンを用いた肝胆膵周術期門脈血栓症に対する治療 . 優秀演題
5. 佐々木 章 . 侵襲軽減を目指した外科治療が教えてくれたもの . 特別講演
6. 梅邑 晃 . 減量・代謝改善手術と術後腸内細菌叢変化による臓器障害改善が NASH を改善する . ランチョンセミナー

＊片桐 弘勝 . ワークショップ「明日の診療に生かす基礎研究と臨床経験」. 座長

日本消化器病学会東北支部第 215 回例会 , 盛岡 , 2023/07/07 ～ 07/08

＊佐々木 章 . 特別企画 2 目指せ ! 消化器病専門医 - 専攻医からの報告 . 審査員

＊新田 浩幸 . シンポジウム (消化器病) 肝胆膵がん治療の現状と未来 . 司会

＊八重樫 瑞典 . RAS 野生型大腸がんに対する治療戦略 ～私はこのように組み立てる～ . 司会

第 150 回岩手医学会 (春季) 総会 , 盛岡 , 2023/07/09

＊佐々木 章 . 特別講演 2 肝疾患に対する外科治療の進歩 . 座長

第 19 回岩手甲状腺研究会 , 盛岡 , 2023/07/21

1. 天野 怜 . レンバチニブで長期生存を得た甲状腺癌の経験 . 一般口演

10th Reduced Port Surgery Forum, 北九州 , 2023/08/18 ～ 08/19

1. 鈴木 信 , 田金 恵 , 小山 亮太 , 藤野 順子 , 佐々木 章 . 小児胸腔鏡下肺葉切除術における細径デバイスの Pros&Cons. セミナー

＊梅邑 晃 . 主題関連 1：若手セッション 1. 座長

第 50 回日本膵切研究会 , 東京 , 2023/08/25 ～ 08/26

1. 安藤 太郎 , 片桐 弘勝 , 口田 脩太 , 木村 拓 , 川島 到真 , 天野 怜 , 武田 大樹 , 梅邑 晃 , 菅野 将史 , 新田 浩幸 , 佐々木 章 . UR-LA 膵癌に対し化学療法施行後 conversion surgery 施行し pCR を得られた 2 例 . ポスター

日本血液製剤機構講演会 , 盛岡 , 2023/08/30

1. 佐々木 章 . 太るを科学する . 特別講演

Minimally Invasive Therapies Seminar For Colorectal -The 8th- ON WEB, 札幌 , 2023/09/02

1. 八重樫 瑞典 . 直腸手術 . 講演

Obesity disease scientific update, 神戸 , 2023/09/02

1. 佐々木 章 . 肥満症・糖尿病患者の治療戦略 ～減量・代謝改善手術が切り拓く新たな可能性～ . 特別講演

大腸肛門機能障害研究会 , 東京 , 2023/09/02

1. 岩崎 崇文 , 八重樫 瑞典 , 大塚 歓喜 , 琴畑 洋介 , 畑中 智貴 , 佐々木 教之 , 高清水 清治 , 片桐 弘勝 , 梅邑 晃 , 鈴木 信 , 新田 浩幸 , 佐々木 章 . 直腸損傷術後の直腸肛門機能障害による慢性的な便秘と便失禁に対して QOL 改善目的に人工肛門造設術を施行した 1 例 . 一般口演

第 46 回日本膵・胆管合流異常研究会 , 岡山 , 2023/09/09

1. 小山 亮太 , 田金 恵 , 藤野 順子 , 鈴木 信 , 佐々木 章 . 当科での先天性胆道拡張症胎児診断例に対する治療方針 . 一般口演

＊ 鈴木 信 . 一般演題 2 小児 1. 座長

第 12 回 Innovative Diabetology Forum in Chiba, 千葉 , 2023/09/15

1. 佐々木 章 . 肥満 2 型糖尿病に対する外科治療 ～改善機序から考える治療戦略と展望～ . 特別講演

Esophageal Cancer Seminar - 周術期を含めた治療シークエンスを考える -, 盛岡 , 2023/09/25

＊ 佐々木 章 . 基調講演 教室における食道癌治療の取り組み . 座長

＊ 佐々木 章 . 特別講演 食道癌治療 Up to Date ～ロボットと IO による新時代を迎えて～ . 座長

北東北女性外科医の会 , 盛岡 , 2023/09/30

＊ 佐々木 章 . 特別講演 . 司会

東日本肥満症・糖尿病チーム医療セミナー 2023, 宇都宮 , 2023/10/07

＊ 佐々木 章 . 減量・代謝改善手術に向けての術前評価 . 座長

岩手県立療育センター療育研修会 , 矢巾 , 2023/10/11

1. 鈴木 信 . 医療的ケア児に係わる小児外科医療 . 講演

第 53 回胃外科・術後障害研究会 , 東京 , 2023/11/10 ～ 11/11

1. 佐々木 章 . 減量・代謝改善手術における多職種チーム医療の重要性 . 基調講演

＊ 佐々木 章 . 要望演題 2 減量・代謝改善手術と多職種の関わり . 司会

第 15 回東北ヘルニア研究会 , 仙台 , 2023/12/16

1. 口田 脩太 , 梅邑 晃 , 新田 浩幸 , 片桐 弘勝 , 菅野 将史 , 武田 大樹 , 安藤 太郎 , 天野 怜 , 川島 到真 , 木村 拓 , 佐々木 章 . 当教室における hybrid IPOM plus の適応とその実際 . 一般口演
2. 川島 到真 , 口田 脩太 , 木村 拓 , 天野 怜 , 安藤 太郎 , 武田 大樹 , 梅邑 晃 , 菅野 将史 , 片桐 弘勝 , 新田 浩幸 , 佐々木 章 . 鼠径ヘルニアに対する TAPP 法における環状切開と高位切開の治療経験 . 一般口演

日本抗加齢医学会 専門医・指導医認定委員会主催 研修講習会 , 東京 , 2023/12/17

1. 佐々木 章 . 減量・代謝改善手術の最前線 . 招待講演

岩手医科大学 外科学講座 スタッフ

役　職	名　前	卒業年	診療・研究チーム	認定資格・高度技能医
教　　授	佐々木　章	1988	内分泌代謝	JSES 技術認定（食道）、消化器外科専門医、内分泌外科専門医
	新田　浩幸	1993	肝胆膵	JSES 技術認定 (肝臓)、JHBPS 高度技能指導医、消化器外科専門医
准　教　授	鈴木　　信	2000	小児外科	小児外科専門医、小児泌尿器認定医、小児がん認定外科医、新生児認定外科医
	片桐　弘勝	2004	肝胆膵	JHBPS 高度技能専門医、消化器外科専門医
	梅邑　　晃	2005	肝胆膵・内分泌代謝	JSES 技術認定（胆道）、消化器外科専門医
講　　師	藤野　順子	1999	小児外科	小児外科専門医、日本消化器内視鏡学会専門医
	馬場　誠朗	2004	上部消化管	消化器外科専門医
	石田　和茂	2005	乳腺	乳腺専門医
	八重樫瑞典	2009	下部消化管	JSES 技術認定（大腸）、消化器外科専門医
助　　教	菅野　将史	2004	肝胆膵	JHBPS 高度技能専門医、消化器外科専門医
	武田　大樹	2008	肝胆膵	消化器外科専門医
	高清水清治	2010	下部消化管	JSES 技術認定（大腸）、消化器外科専門医
	二階　春香	2011	上部消化管	消化器外科専門医
	安藤　太郎	2012	肝胆膵	消化器外科専門医
	佐々木教之	2012	下部消化管	消化器外科専門医
	天野　　怜	2014	肝胆膵	消化器外科専門医
	畑中　智貴	2014	下部消化管	消化器外科専門医
助教（任期付）	石田　　馨	2006	救急	
	天野　　総	2013	乳腺	
	川島　到真	2014	肝胆膵	消化器外科専門医
	小山　亮太	2015	小児外科	
	木村　　拓	2017	肝胆膵	
	藤澤　良介	2017	上部消化管	
専門研修医	菅野　正紀	2017		
	畠山　瑞生	2020		
4　　年	熊谷　秀基	2015	内分泌代謝	
	岩崎　崇文	2018		
	岩佐　友寛	2020		
	大塚　観喜	2020		
	口田　脩太	2020		

役　職	名　前	卒業年	診療・研究チーム	認定資格・高度技能医
3　　年	棚橋　洋太	2015		
	下沖　美里	2019		
2　　年	琴畑　洋介	2020		
1　　年	嶋田　拓明	2021		

非常勤医師

非常勤講師	大森　浩明	雫石大森クリニック　院長
	笠原　群生	国立成育医療研究センター　院長
	冨澤　勇貴	とみさわ甲状腺・乳腺のクリニック盛岡　院長
非常勤医師	宇山　一朗	藤田医科大学医学部　先端ロボット・内視鏡手術学講座　主任教授
	島袋　誠守	東京ミッドタウンクリニック　先端医療研究所副所長 / がん診療部長兼部門幹事 / 外来診療部門幹事
	大塚　幸喜	藤田医科大学　先端ロボット・内視鏡手術学講座　教授
	井原　欣幸	埼玉県立小児医療センター　外科 / 移植外科　医長
	高原　武志	藤田医科大学　総合消化器外科　教授
	小島　正之	藤田医科大学医学部　総合消化器外科　講師
	長谷川　康	慶應義塾大学医学部　一般・消化器外科　専任講師
	小松　英明	信州上田医療センター　乳腺内分泌外科　乳腺内分泌外科医長
	有末　篤弘	能代厚生医療センター
	外舘　幸敏	一般財団法人脳神経疾患研究所附属　総合南東北病院　外科　医長
	松井　雄介	県立二戸病院
	中村　侑哉	県立宮古病院
	橋元　麻生	北上済生会病院
	田金　　恵	県立釜石病院
	菊地　晃司	かづの厚生病院
	屋成　信吾	八戸赤十字病院
	伊藤　浩平	県立千厩病院
	高橋　眞人	県立久慈病院
	佐々木智子	盛岡赤十字病院
	小泉　優香	県立釜石病院
	清川　真緒	盛岡赤十字病院

編　集　後　記

2023年も岩手医科大学外科学講座教室年報を無事に発刊することができました。2019年12月に報告された新型コロナウイルス感染症による様々な制限も、徐々に軽減されてきてはおりますが、依然として皆さまのご苦労も多いものと拝察いたしております。本年も多くの先生方よりご寄稿いただくことができ、充実した内容となっております。ご執筆および編集に関わっていただいた皆様に深く感謝いたします。

研究会や学会はWebやHybrid形式での開催が主流となっておりましたが、現地開催が増加してきており、皆様との交流の場が少しずつ増えてくることを楽しみにしております。

末筆ながら同門会の先生方、ご執筆いただいた先生方、秘書の皆様、ヤマダプランニングの方々、ご協賛いただきました各社の皆様にこの場を借りて厚くお礼申し上げます。

編集委員長　馬場　誠朗

お知らせ

第186回東北外科集談会のお知らせ

新田 浩幸

このたび2024年秋の東北地方会（第186回東北外科集談会、第112回日本胸部外科学会東北地方会、第44回日本血管外科学会東北地方会、第101回日本小児外科学会東北地方会）を2024年９月14日（土）、マリオス（盛岡地域交流センター）にて開催させていただく運びとなりました。本会は、東北各地の病院の外科医が一同に会して臨床研究を発表・討論する場として長い歴史を持った伝統のある学術集会であり、年２回東北地区で開催されております（春の大会は６月に仙台で開催）。

本会では、特別講演として小笠原邦昭学長より「臨床研究から英文論文、そして学会発表へ～どう考えて、どうすればいいのか～」というテーマでご講演いただく予定としており、特別企画では外科専攻医セッション、若手および女性外科医のキャリアパス、東北におけるロボット手術の現状、外科の魅力を語ろう、などを考えております。

みなさまにおかれましては日々の診療でお忙しいとは思いますが、本会が各施設の日常臨床に役立つよう準備をすすめていきますので、多くの演題応募とご参加およびご支援を心よりお待ちしております。

OLYMPUS

製造販売元　オリンパスメディカルシステムズ株式会社	
販売名	医療機器番号
パワーシール	30400BZX00265000
高周波手術装置 ESG-410	30400BZX00264000
超音波バイポーラ手術装置 USG-410	30200BZX00058000

POWERSEAL

快適性を追求した高周波シーリングデバイス

POWERSEALは、シーリングデバイスに求められる多様なニーズをもとに設計されました。
高い封止能をはじめ、人間工学に基づいたハンドルとメリーランド型の先端形状により
直感的かつ快適な操作をサポートします。

主な特長

Strong Sealing

7mm以下の血管封止

Multi-functional Design

把持･剥離･止血など、
さまざまな機能で手術をサポート

Improved Ergonomics

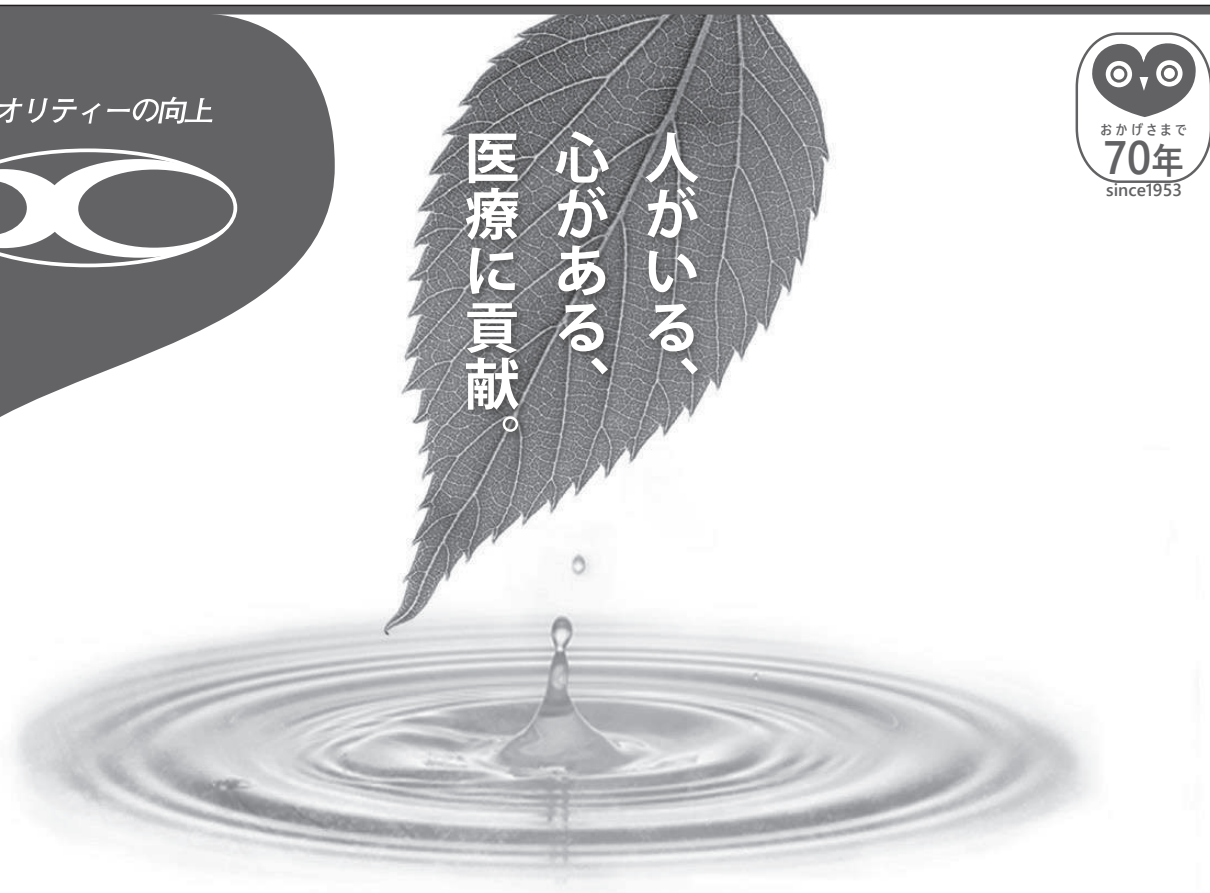
人間工学に基づいたハンドルデザイン
により、手の疲労軽減をサポート

オリンパスマーケティング株式会社

www.olympus.co.jp

クオリティーの向上

おかげさまで 70年 since1953



誠実・医療に奉仕

共立医科器械株式会社

●本社	〒020-0013	岩手県盛岡市愛宕町15-9	TEL (019) 623-1205（代）	FAX (019) 653-5301
医療情報システム営業部（本社内）				
水沢支店	〒023-0826	岩手県奥州市水沢中田町4-38	TEL (0197) 25-6221（代）	FAX (0197) 25-6223
さんりく営業所	〒026-0046	岩手県釜石市桜木町1-6-41	TEL (0193) 23-0491（代）	FAX (0193) 23-0976
矢巾営業所	〒028-3609	岩手県紫波郡矢巾町医大通2-1-12	TEL (019) 613-6771	FAX (019) 613-6772
八戸支店	〒039-1166	青森県八戸市根城3-18-3	TEL (0178) 43-2923（代）	FAX (0178) 44-1957
弘前営業所	〒036-8061	青森県弘前市大字神田5-8-5	TEL (0172) 55-5081	FAX (0172) 55-5082
青森営業所	〒030-0811	青森県青森市青柳1-8-19	TEL (017) 718-3205	FAX (017) 718-3206
秋田営業所	〒010-0041	秋田県秋田市広面字川崎107-3	TEL (018) 884-7464	FAX (018) 884-7465

共立サポートセンター　〒020-0813　岩手県盛岡市東山2-3-12　TEL (019) 652-8988　FAX (019) 623-4161

NSF-ISR Registered to ISO 9001　ANAB ACCREDITED FOR ISO 9001 MANAGEMENT SYSTEMS CERTIFICATION BODY

★ISO 9001 認証取得

■医療機器　■医療情報システム　■病・医院諸設備　■理化学分析機器
■バイオテクノロジー機器　■環境分析機器　■実験動物機器

https://www.kmic.co.jp/

Medicaroid

sysmex | Together for a better healthcare journey

hinotori™
サージカルロボットシステム

販売名：hinotori™ サージカルロボットシステム　承認番号：30200BZX00256000
*外観、仕様等については改良のため予告なしに変更することがあります。

総代理店
シスメックス株式会社
本　社　神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号　〒651-0073
（お問い合わせ先）

支店	仙台	022-722-1710	北関東	048-600-3888	東京	03-5434-8550	名古屋	052-957-3821			
	大阪	06-6337-8300	広島	082-248-9070	福岡	092-687-5380					
営業所	札幌	011-700-1090	盛岡	019-654-3331	長野	0263-31-8180	新潟	025-243-6266			
	千葉	043-297-2701	横浜	045-640-5710	静岡	054-287-1707	金沢	076-221-9363			
	京都	075-255-1871	神戸	078-251-5331	高松	087-823-5801	岡山	086-224-2605			
	鹿児島	099-222-2788									
日本東アジア地域本部		03-5434-8565									

注：　活動及びサイトの適用範囲は規格により異なります。
詳細は www.tuv.com の ID 0910589004 を参照。
Note:　Scopes of sites and activities vary depending on the standard.
For details, refer to the ID 0910589004 at www.tuv.com

www.sysmex.co.jp

製造販売元
株式会社 メディカロイド
〒650-0047
兵庫県神戸市中央区港島南町一丁目 6-5
国際医療開発センター 6F

Copyright © Medicaroid Corporation All Rights Reserved.　© Tezuka Productions

まだないくすりを
創るしごと。

世界には、まだ治せない病気があります。
世界には、まだ治せない病気とたたかう人たちがいます。
明日を変える一錠を創る。
アステラスの、しごとです。

明日は変えられる。
astellas
アステラス製薬株式会社
www.astellas.com/jp/

Abbott
NUTRITION

バニラ味　コーヒー味　メロン味　黒糖味　バナナ味　ストロベリー味　抹茶味
※味の違いは香料によるもので、本剤にはバニラ、コーヒー、メロン、黒糖、バナナ、ストロベリー、抹茶などの成分は含まれておりません。

経腸栄養剤（経口・経管両用）
薬価基準収載
エンシュア®・H
「効能・効果」、「用法・用量」、禁忌を含む「使用上の注意」等については製品添付文書をご参照ください。

製造販売元
アボットジャパン合同会社
東京都港区三田三丁目5番27号

［資料請求先］アボットジャパン合同会社　お客様相談室 フリーダイヤル 0120-964-930

2022年1月作成

治療用電気手術器

erbe

エルベVIO3/APC3
高周波手術装置

VIOシリーズの最上位モデル

VIO3の各モードは25,000,000回/秒の組織抵抗計測により、切開・凝固の再現性がさらに向上しました。
進化したドライカット、フォースド凝固に加え、新たなモードとしてプレサイスセクトが搭載されました。
また、胸骨からの出血に、アルゴンプラズマ凝固(APC)による迅速な止血が有用です。

VIO3/APC3の特長

- ●毎秒25,000,000回転の組織抵抗フィードバックにより、切開、凝固の再現性が向上
- ●最大6個までのリモートプログラム設定可能
- ●設定はエフェクトのみの調整でシンプルに
- ●Wi-Fi機能搭載により、ワイヤレスでPCやiPadとのコミュニケーションが可能

承認番号：23000BZX00353000

水圧式ナイフ

erbe

JET2
エルベ JET2 / ESM2

ウォータージェット手術の利点

- ●手術時間の短縮
- ●血管、神経、臓器の温存
- ●出血量の軽減
- ●組織層の剥離時の高い組織選択性
- ●熱による壊死のない剥離／切離ラインに沿った正確なマージン
- ●灌流と吸引によるクリアな術野確保

◀ウォータージェットを使用した、葉の葉脈を残しつつ切離を行うコンセプト動画を公開しています

承認番号：22700BZX00185000

アムコ　ライブラリー　検索

会員登録頂くと、製品に関するケースレポート、講演会やセミナー動画、学会・セミナー記録集などの情報がご覧頂けます。
医療関係者の方を対象としております。

株式会社アムコ　www.amco.co.jp

本　社　〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4-8-7　TEL. 03 (3265) 4263　FAX. 03 (3265) 2796

INTUITIVE

Da Vinci Xi
Define a new standard

詳細に関しては取扱説明書または添付文書等をご確認いただくか、
以下のお問い合わせ先、または弊社営業担当へご確認ください。

お問い合わせ先
インテュイティブサージカル合同会社
東京都港区赤坂一丁目12番32号アーク森ビル

Tel. (03) 5575 - 1419（営業部）
Tel. (03) 5575 - 1326（マーケティング部）
Tel. (03) 5575 - 1362（音声案内で3を選択）
(0120) 56 - 5635（音声案内で3を選択）（カスタマーサービス）

販売名：da Vinci Xi サージカルシステム　（承認番号：22700BZX00112000）

©2023 インテュイティブサージカル合同会社
無断複写・複製・転載を禁じます。製品名は各社の商標または登録商標です。

PN 1081791 JP Rev.A 01/21

承認番号20900BZY00790000
高度管理医療機器 保険適用

癒着防止吸収性バリア
セプラフィルム®
ヒアルロン酸ナトリウム/カルボキシメチルセルロース癒着防止吸収性バリア

●禁忌・禁止を含む使用上の注意等については
電子化された添付文書をご参照ください。

製造販売元(輸入) バクスター・ジャパン株式会社
東京都港区芝浦三丁目4番1号グランパークタワー30階

発売元
文献請求先
及び問い合わせ先
KAKEN 科研製薬株式会社
〒113-8650 東京都文京区本駒込二丁目28番8号
医薬品情報サービス室

JP-AS30-220198 V3.0
SPF08CP (2024年1月作成)

Medtronic
Engineering the extraordinary

1秒に2人

人々の生活を毎時間、毎日、
変え続けています

メドトロニックは、人生を
変えるようなテクノロジーで
70種類以上の健康課題に対する
治療法を提供してきました。

私たちの製品、サービス、
そしてソリューションによって、
年間7,200万人の患者さんが、
世界のどこかで意義のある
生活を取り戻しています。

詳しくはこちら
メドトロニック 検索
medtronic.co.jp

© 2022 Medtronic. Medtronic、メドトロニック及びMedtronicロゴマークは、Medtronicの商標です。
COMMS-2022-0060

SunnyHealth

食事制限や減量が必要な方に。

MICRODIET
フォーミュラ食 マイクロダイエット

30年以上にわたる使用実績と豊富な臨床エビデンス！

お問い合わせ先 サニーヘルス株式会社 メディカルチーム
〒104-6124 東京都中央区晴海1丁目8番11号 晴海アイランドトリトンスクエア オフィスタワーY24階（南側）
Phone 03-6701-3010 Fax 03-6701-3020

サンプル・資料のご用命は
通話料無料 0120-308-270 受付時間／平日9:00～17:30
info-mdmedical@sunnyhealth.co.jp

抗悪性腫瘍剤ー抗HER2※抗体
トポイソメラーゼⅠ阻害剤複合体

薬価基準収載

エンハーツ®点滴静注用100mg

一般名／トラスツズマブ デルクステカン（遺伝子組換え）
〔Trastuzumab Deruxtecan（Genetical Recombination）〕
生物由来製品、劇薬、処方箋医薬品：注意ー医師等の処方箋により使用すること
※HER2：Human Epidermal Growth Factor Receptor Type 2
（ヒト上皮増殖因子受容体2型、別称：c-*erb*B-2）

●「効能又は効果」、「用法及び用量」、「警告・禁忌を含む注意事項等情報」等については電子添文等をご参照ください。

製造販売元（文献請求先及び問い合わせ先を含む）

第一三共株式会社
Daiichi-Sankyo
東京都中央区日本橋本町3-5-1

2023年3月作成

選択的NK1受容体拮抗型制吐剤
ホスネツピタント塩化物塩酸塩注射剤
劇薬、処方箋医薬品（注意ー医師等の処方箋により使用すること）

薬価基準収載

アロカリス®点滴静注235mg
Arokaris® I.V. infusion

効能又は効果、用法及び用量、禁忌を含む注意事項等情報等は電子添文をご確認ください。

製造販売元 TAIHO
文献請求先及び問い合わせ先
大鵬薬品工業株式会社
〒101-8444 東京都千代田区神田錦町1-27
TEL.0120-20-4527 https://www.taiho.co.jp/

提携先 HELSINN スイス

2023年4月作成

漢方製剤にとって「良質」とは何か。その答えのひとつが「均質」である、とツムラは考えます。自然由来がゆえに、ひとつひとつに個性がある生薬。漢方製剤にとって、その成分のばらつきを抑え、一定に保つことが「良質」である。そう考える私たちは、栽培から製造にいたるすべてのプロセスで、自然由来の成分のばらつきを抑える技術を追求。これからもあるべき「ツムラ品質」を進化させ続けます。現代を生きる人々の健やかな毎日のために。自然と健康を科学する、漢方のツムラです。

良質。均質。ツムラ品質。

ツムラ

株式会社ツムラ　https://www.tsumura.co.jp/　資料請求・お問合せは、お客様相談窓口まで。
医療関係者の皆様 tel.0120-329-970　患者様・一般のお客様 tel.0120-329-930　受付時間 9:00～17:30（土・日・祝日は除く）

2021年4月制作 ㊙

TEIJIN
Human Chemistry, Human Solutions

患者さんの
Quality of Lifeの向上が
私たちの理念です。

帝人ファーマ株式会社　帝人ヘルスケア株式会社　〒100-8585 東京都千代田区霞が関3丁目2番1号

PAD003-TB-2103-1

TERUMO

解熱鎮痛剤
アセトアミノフェン静注液

薬価基準収載

アセリオ®静注液1000mg

acelio® Intravenous Injection 1000mg

劇薬 処方箋医薬品　注意—医師等の処方箋により使用すること

※「効能又は効果」、「用法及び用量」、「警告・禁忌を含む使用上の注意」等については、製品添付文書をご参照下さい。

製造販売元：テルモ株式会社　〒151-0072 東京都渋谷区幡ヶ谷2-44-1 www.terumo.co.jp
資料請求先：テルモ株式会社 コールセンター　0120-12-8195（平日9：00–17：45受付）

TERUMOはテルモ株式会社の商標です。 acelio、アセリオはテルモ株式会社の登録商標です。 ©テルモ株式会社 2016年6月　2016年6月作成

CYRAMZA®
(ramucirumab)

抗悪性腫瘍剤 ヒト型抗VEGFR-2注) モノクローナル抗体
生物由来製品、劇薬、処方箋医薬品*

サイラムザ®

点滴静注液 100mg
点滴静注液 500mg

CYRAMZA® Intravenous Injection　ラムシルマブ（遺伝子組換え）注射液

注）VEGFR-2: Vascular Endothelial Growth Factor Receptor-2（血管内皮増殖因子受容体2）
*注意—医師等の処方箋により使用すること

薬価基準収載

「効能又は効果」、「用法及び用量」、「警告・禁忌を含む注意事項等情報」等については電子添文をご参照ください。

PP-RB-JP-7143
2022年10月作成

製造販売元〈文献請求先及び問い合わせ先〉
日本イーライリリー株式会社
〒651-0086 神戸市中央区磯上通5丁目1番28号

Lilly Answers リリーアンサーズ
日本イーライリリー医薬情報問合せ窓口
www.lillymedical.jp

（医療関係者向け）
0120-360-605※1
受付時間 月曜日～金曜日 8:45～17:30※2
※1 通話料は無料です。携帯電話からでもご利用いただけます。
尚、IP電話からはフリーダイヤルをご利用できない場合があります。
※2 祝祭日および当社休日を除きます。

Lilly

抗悪性腫瘍剤／抗VEGF[注1)] ヒト化モノクローナル抗体
ベバシズマブ（遺伝子組換え）［ベバシズマブ後続4］製剤

薬価基準収載

ベバシズマブBS点滴静注100mg「CTNK」
ベバシズマブBS点滴静注400mg「CTNK」

Bevacizumab BS for I.V. Infusion 100mg・400mg「CTNK」

生物由来製品、劇薬、処方箋医薬品[注2)]

注1）VEGF：Vascular Endothelial Growth Factor（血管内皮増殖因子）
注2）注意－医師等の処方箋により使用すること

Feeling Happy®

文献請求先及び問い合わせ先
日本化薬 医薬品情報センター
0120-505-282
日本化薬 医療従事者向け情報サイト
https://mink.nipponkayaku.co.jp/

製造販売元
（資料請求先）
日本化薬株式会社
東京都千代田区丸の内二丁目1番1号

提携先 セルトリオン・ヘルスケア・ジャパン株式会社
東京都中央区新川一丁目16番3号住友不動産茅場町ビル3階

'22.11作成

※効能又は効果、用法及び用量、警告・禁忌を含む注意事項等情報等は電子添文をご参照ください。

血液凝固阻止剤

アコアラン®静注用600 1800

600国際単位、1800国際単位／バイアル
ACOALAN® Injection アンチトロンビン ガンマ（遺伝子組換え）静注用

生物由来製品 処方箋医薬品[注)]
（注意-医師等の処方箋により使用すること）

薬価基準収載

※効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等
については、添付文書をご参照ください。

製造販売元
協和キリン株式会社
東京都千代田区大手町1-9-2

販売元
JB 一般社団法人
日本血液製剤機構
東京都港区芝浦3－1－1

ACO-202007

［文献請求先及び問い合わせ先］
日本血液製剤機構 くすり相談室 〒108-0023 東京都港区芝浦3-1-1 医療関係者向け製品情報サイト https://www.jbpo.or.jp/med/di/

抗悪性腫瘍剤（CDK4/6阻害剤）

イブランス® カプセル 錠 25mg・125mg

IBRANCE® 25mg・125mg Capsules/Tablets パルボシクリブカプセル/錠

劇薬 処方箋医薬品 注意－医師等の処方箋により使用すること 薬価基準収載

「効能又は効果」、「用法及び用量」、「警告・禁忌を含む注意事項等情報」等は、
製品添付文書をご参照ください。

製造販売元
ファイザー株式会社
〒151-8589 東京都渋谷区代々木3-22-7
文献請求先及び製品の問い合わせ先：
製品情報センター 学術情報ダイヤル 0120-664-467
販売情報提供活動に関するご意見：
0120-407-947

患者さん自らが持つ免疫力を、
がん治療に大きく生かすことはできないだろうか ——。
小野薬品とブリストル・マイヤーズ スクイブは、
従来のがん治療とは異なる
「新たながん免疫療法」の研究・開発に取り組んでいます。

小野薬品工業株式会社
ブリストル・マイヤーズ スクイブ株式会社

Immuno-Oncology 未来をひらくがん免疫療法

2023年3月作成

MARUKIは、
最新の情報と質の高いサービスの提供を通して
地域医療の発展に貢献して参ります

MARUKI

丸木医科器械株式会社
Maruki Medical Systems Inc.

■ 仙 台 支 店
〒981-1105 宮城県仙台市太白区西中田3-20-7
TEL 022-242-6001（代）

■ 庄 内 営 業 所
〒998-0875 山形県酒田市東町1-26-8
TEL 0234-23-7566（代）

■ 水沢営業所・水沢SPDセンター
〒023-0003 岩手県奥州市水沢佐倉河字竜神2-7
TEL 0197-25-7703（代）

■ 気仙沼出張所
〒988-0053 宮城県気仙沼市田中前3丁目6-8 メイプルハイツB号
FAX 0226-22-0880

■ 仙台SPDセンター・仙台第2 SPDセンター
〒984-0015 宮城県仙台市若林区卸町4-5-14
TEL 022-706-4264（代）

■ 鶴 岡 営 業 所
〒997-0046 山形県鶴岡市みどり町12-10 コアビル202
TEL 0235-29-1377（代）

■ 秋田南営業所
〒013-0043 秋田県横手市安田字越廻37
TEL 0182-33-4751（代）

■ 山 形 支 店
〒990-2338 山形県山形市蔵王松ヶ丘2-2-22
TEL 023-695-3000（代）

■ 岩 手 支 店
〒028-3621 岩手県紫波郡矢巾町大字広宮沢第五地割313番
TEL 019-698-1567（代）

■ 八 戸 営 業 所
〒039-1165 青森県八戸市石堂2-29-6-102
TEL 0178-21-8009（代）

教室年報

岩手医科大学医学部外科学講座

発行年月日／令和６年４月１日
発行責任者／佐々木 章
発　　行／岩手医科大学医学部外科学講座同門会
〒028－3695　紫波郡矢巾町医大通２丁目1－1
TEL 019－613－7111（6220）
FAX 019－907－7344
編　集　者／馬場 誠朗
制　　作／有限会社ヤマダプランニング

表紙説明

八幡平山頂遊歩道にある「鏡沼」。5月中旬～6月中旬頃、春の雪解けの様子が龍の眼のように見えることから、「八幡平ドラゴンアイ」と呼ばれています。透き通ったエメラルドグリーンの雪解け水が、日々刻々とカタチを変えてゆき、龍の眼を形成していきます。真ん中のくぼみに穴が開くことを龍の眼の開眼ということですが、天候にも左右され、期間も２週間程しかなく、運が良ければ見ることができる絶景です。今年はどんな姿を見せてくれるのでしょう。

巖刀会（がんとうかい：岩手山別称（巌鷲山）から1字とり、岩手の外科医の象徴の意）